特62
284
C2
5
0162

大阪地方裁判所判事従七位 杉本義定校閲
漢水 鈴木政雄編纂

帝國法律全書

大阪 思中宋榮堂藏版

凡例

一本書ハ六法ヲ主トシテ之ニ關スル諸法令ヲ參照トシテ其部類ニ記載シ他書ヲ捜索スルノ勞ヲ助クルナリ

一本書ハ六法發布以來ノ法規ヲ輯ムルノ趣旨ナレ𪜈發布前ニ係ルモノト雖モ必要ナルモノハ間々之ヲ記載ス讀者其之ヲ諒セヨ且ツ六法ニ關係スル諸法律ノミナラズ行政法モ必要ナルモノハ單行法律ニ限リ載錄ス是レ帝國法律全書ト名クル所以ナリ

一甲乙丙丁等ノ符記アルハ其六法ノ部類ヲ區別スル爲メニ設ケタルモノニシテ甲ハ卽チ憲法トス是レ第一ニ置ク所以ナリ其他記載ノ順序ニ從ヒ其區別ヲ爲スナリ亦讀者ノ見易キ

便ヲ計リタルモノナリ

明治二十四年五月下旬

告文

皇朕レ謹ミ畏ミ

皇祖

皇宗ノ神靈ニ告ケ白サク皇朕レ天壤無窮ノ宏謨ニ循ヒ惟神ノ寶祚ヲ承繼シ舊圖ヲ保持シテ敢テ失墜スルコト無シ顧ミルニ世局ノ進運ニ膺リ人文ノ發達ニ隨ヒ宜ク

皇祖

皇宗ノ遺訓ヲ明徵ニシ典憲ヲ成立シ條章ヲ昭示シ內ハ以テ子孫ノ率由スル所ト爲シ外ハ以テ臣民翼贊ノ道ヲ廣メ永遠ニ遵行セシメ益〻國家ノ丕基ヲ鞏固ニシ八洲民生ノ慶福ヲ增進スヘシ茲ニ皇室典範及憲法ヲ制定ス惟フニ此レ皆

皇祖

皇宗ノ後裔ニ貽シタマヘル統治ノ洪範ヲ紹述スルニ外ナラス。
而シテ朕カ躬ニ逮テ時ト俱ニ擧行スルコトヲ得ルハ洵ニ
皇祖
皇宗及我カ
皇考ノ威靈ニ倚藉スルニ由ラサルハ無シ皇朕レ仰テ
皇祖
皇宗及
皇考ノ神祐ヲ禱リ併セテ朕カ現在及將來ニ臣民ニ率先シ此ノ
憲章ヲ履行シテ愆ラサラムコトヲ誓フ庶幾クハ神靈此レヲ鑒
ミタマヘ

憲法發布勅語

朕國家ノ隆昌ト臣民ノ慶福トヲ以テ中心ノ欣榮トシ朕カ祖宗
ニ承クルノ大權ニ依リ現在及將來ノ臣民ニ對シ此ノ不磨ノ大
典ヲ宣布ス
惟フニ我カ祖我カ宗ハ我カ臣民祖先ノ協力輔翼ニ倚リ我カ帝
國ヲ肇造シ以テ無窮ニ垂レタリ此レ我カ神聖ナル祖宗ノ威德
ト並ニ臣民ノ忠實勇武ニシテ國ヲ愛シ公ニ殉ヒ以テ此ノ光輝
アル國史ノ成跡ヲ貽シタルナリ朕我カ臣民ハ即チ祖宗ノ忠良
ナル臣民ノ子孫ナルヲ回想シ其ノ朕カ意ヲ奉體シ朕カ事ヲ奬
順シ相與ニ和衷協同シ益々我カ帝國ノ光榮ヲ中外ニ宣揚シ祖宗
ノ遺業ヲ永久ニ鞏固ナラシムルノ希望ヲ同クシ此ノ負擔ヲ分
ツニ堪フルコトヲ疑ハサルナリ

帝國法律全書

目次

憲法　一丁
皇室典範　八丁
法例　十三丁
議院法　十六丁
議會幷ニ議員保護法　二七丁
貴族院幷ニ衆議院成立規則　二八丁
帝國議會議長副議長議員歳費及旅費支給規則　三一丁
貴族院事務局官制　三三丁
衆議院事務局官制　三五丁
議會ノ用ニ供スル官有財産ニ關スル規則　三六丁
貴族院令　三六丁
貴族院伯子男爵議員選擧規則　三四丁
貴族院多額納稅者議員互選規則　三六丁
貴族院令幷伯子男爵及多額納稅者議員互選規則施行ノ詔勅　三八丁
貴族院多額納稅者議員互選規則取扱方　四一丁
貴族院議員資格及ヒ選擧爭訟判決規則　四五丁

衆議院議員選擧法
衆議院議員選擧法施行規則
衆議院議員選擧法罰則補則
衆議院議員選擧法及施行規則ニ於ル事務書式等準據取扱方 二
衆議院議員選擧法第九條第十條ニ記載シタル官吏ニ關スル件 仝 七十一丁
府縣制郡制施行ニ際シ衆議院議員選擧區域等ニ關スル件 七十五丁
衆議院議員選擧法及貴族院令ニ於テ直接國稅ト稱スル種目 七十六丁
仝 七十八丁
會計法
會計法補則 七十九丁
民法 八十丁
人事編 八十六丁
財產編 一丁
供託規則 仝 四十七丁
供託物取扱規程 百七十四丁
財產委棄法 百七十五丁
裁判上代位法 百八十五丁
辯濟提供規則 百八十六丁
財產取得編 百八十七丁
財產取得編續 百八十八丁
債權擔保編 百八十九丁
增價競買法 百五十六丁
訴訟編 百五十六丁

（乙之部）

商法 二百八十丁
商法施行條例 三百五十三丁
銀行條例 三百五十五丁
貯金銀行條例 一丁
船籍規則 百七十四丁
船籍規則施行細則 百八十一丁
沖繩縣ニ商法施行延期之件 百八十二丁
商法ニ從ヒ破產ノ宣告ヲ受ケタル者ニ關スル件 百八十四丁
商法第二百六條ニ依リ發行スヘキ債券ニ關スル件 百八十七丁
商法非訟事件印紙法 二百七丁
商業及ヒ船舶ノ登記ニ關スル手數料幷追加 仝 丁
商法ノ規定ニ依リ商業及ヒ船舶ノ登記公告ニ關スル取扱規則 二百九丁
商法ニ關スル法律施行期限法律延期ノ件 二百十一丁
有罪破產者處斷方 二百十三丁
民事訴訟法 二百十五丁
婚姻事件養子緣組事件及禁治產事件ニ關スル訴訟規則 二百十六丁

（丙之部）

（丁之部）

一丁
百五十九丁

民事訴訟法施行條例　四
家資分散法　百六十四丁
非訟事件手續法　百六十六丁
民事訴訟費用法　百六十七丁
民事訴訟用印紙法　百七十二丁
負債者失踪後ノ訴訟方法　百七十四丁
上告預納金ノ事　百七十七丁
國ヲ代表スルニ付テノ規定　仝

刑法

刑法附則　百七十八丁
決鬪罪　一丁
賭博犯特別例廢止ノ件　六十三丁
竊盜罪　七十三丁
贓罰律　七十四丁
公署公吏公署ノ印、文書及免狀鑑札ニ關スル件　仝
仝　仝

刑事訴訟法

重罪控訴豫納金規則　七十五丁
輕罪ニ係ル控訴豫納金規則　一丁
輕罪ニ係ル控訴豫納金規則中改正削除　五十五丁
仝　五十六丁

（戊之部）

（己之部）

重罪輕罪ノ及訴ル判決ニ對シ控訴又ハ上告ノ場合ニ於テ被告人及囚人ニ係ル費用ノ件　五十七丁
間接國稅犯則者處分ニ關スル書類送理ノ件　仝
間接國稅犯則者處分法施行細則　六十丁
訴訟法中辯護士事務ノ件　六十一丁
六十七丁

裁判所構成法

裁判所構成法施行細則　一丁
地方裁判所支部及管轄表　二十七丁
判事懲戒法　三十丁
判事檢事官等俸給令　三十六丁
裁判所書記長書記ノ官等俸給　四十三丁
裁判官檢察官裁判所書記ノ官名及裁判官休職ニ係ル件　四十八丁
市町村長ニ對スル行政訴訟法ハ始審裁判所ニ於テ取扱ハシム　五十丁
違警罪即決例　仝
普通治罪法陸軍治罪法海軍治罪法交涉ノ件處分法　五十一丁
治安裁判所出張所ヲ置キ裁判事務ヲ取扱ハシム　五十二丁
小笠原島裁判事務取扱管轄　五十三丁
五十四丁

○目次　五

伊豆七島裁判事務取扱管轄　六丁
樺戸集治監囚人ノ裁判管轄　仝
空知集治監囚人ノ裁判管轄　仝
釧路集治監囚人ノ裁判管轄　仝
清國並朝鮮駐在領事裁判規則　仝
執達吏規則　五十五丁
執達吏登用規則　五十六丁
執達吏ニ交付ノ鑑札雛形　六十五丁
行政裁判法
行政裁判所評定官ノ員數并書記ノ員數及職務ノ件　六十八丁
訴願法　六十九丁
行政裁判所處務規程　七十六丁
行政廳ノ違法處分ニ關スル行政裁判ノ件　七十七丁
行政訴訟豫納金手續　八十丁
公證人規則
公證人規則施行條例　八十一丁
登記法
登記法中改正追加　八十二丁
登記法取扱規則　九十五丁
登記印紙規則　百一丁
登記印紙種類定價ヲ定ム　百九丁
集會及政社法　百十丁
土地收用法
土地收用法協議會規則　百二十丁
市町村制及土地收用法ニ關スル訴訟取扱ノ件　百二十一丁
徵兵令
徵兵事務條例　百二十三丁
徵兵事務條例施行細則　百二十七丁
酉徵兵令交渉ノ件取扱方　百三十四丁
徵募區　百三十六丁
徵募區ニ轉籍スル者アルヰノ件　仝
附籍者徵兵適齢ノ件　百四十三丁
徵兵事務條例施行細則附錄第一樣式記入ノ件　百五十二丁
餘人ヲ以テ代フ可ラサル職務ヲ奉スル官吏ノ件　百六十一丁
請願規則　百六十三丁
特許條例　仝
意匠條例　仝
仝　百六十五丁
仝　百七十一丁

商標條例　八
所得稅法　百七十四丁
鑛業條例　百七十八丁
度量衡法　百八十二丁
百九十七丁

帝國法律全書目次終

○大日本帝國憲法

（明治二十二年二月十一日制定）

朕祖宗ノ遺烈ヲ承ケ萬世一系ノ帝位ヲ踐ミ朕カ親愛スル所ノ臣民ハ卽チ朕カ祖宗ノ恵撫慈養シタマヒシ所ノ臣民ナルヲ念ヒ其ノ福祉ヲ增進シ其ノ美德良能ヲ發達セシメムコトヲ願ヒ又其ノ興實ニ依リ與ニ俱ニ國家ノ進運ヲ扶持セムコトヲ望ミ乃チ明治十四年十月十二日ノ詔命ヲ履踐シ茲ニ大憲ヲ制定シ朕カ率由スル所ヲ示シ朕カ後嗣及臣民及臣民ノ子孫タル者ヲシテ永遠ニ循行スル所ヲ知ラシム

國家統治ノ大權ハ朕カ之ヲ祖宗ニ承ケテ之ヲ子孫ニ傳フル所ナリ朕及朕カ子孫ハ將來此ノ憲法ノ條章ニ循ヒ之ヲ行フコトヲ愆ラサルヘシ

朕ハ我カ臣民ノ權利及財産ノ安全ヲ貴重シ及之ヲ保護シ此ノ憲法及法律ノ範圍內ニ於テ其ノ享有ヲ完全ナラシムヘキコトヲ宣言ス

帝國議會ハ明治二十三年ヲ以テ之ヲ召集シ議會開會ノ時ヲ以テ此ノ憲法ヲシテ有効ナラシムルノ期トスヘシ

將來若此ノ憲法ノ或ル條章ヲ改定スルノ必要ナル時宜ヲ見ルニ至ラハ朕及朕カ繼統ノ子孫ハ發議ノ權ヲ執リ之ヲ議會ニ付シ議會ハ此ノ憲法ニ定メタル要件ニ依リ之ヲ議決スルノ外朕カ子孫及臣民ハ敢テ之カ紊亂ヲ謀ルコトヲ得サルヘシ

朕カ在廷ノ大臣ハ朕カ爲ニ此ノ憲法ヲ施行スルノ責ニ任スヘク朕カ現在及將來ノ臣民ハ此ノ憲法ニ對シ永遠ニ從順ノ義務ヲ負フヘシ

御名御璽

第一章　天皇

○大日本帝國憲法

第一條　大日本帝國ハ萬世一系ノ天皇之ヲ統治ス

第二條　皇位ハ皇室典範ノ定ムル所ニ依リ皇男子孫之ヲ繼承ス

第三條　天皇ハ神聖ニシテ侵スヘカラス

第四條　天皇ハ國ノ元首ニシテ統治權ヲ總攬シ此憲法ノ條規ニ依リ之ヲ行フ

第五條　天皇ハ帝國議會ノ協賛ヲ以テ立法權ヲ行フ

第六條　天皇ハ法律ヲ裁可シ其ノ公布及執行ヲ命ス

第七條　天皇ハ帝國議會ヲ召集シ其開會閉會停會及衆議院ノ解散ヲ命ス

第八條　天皇ハ公共ノ安全ヲ保持シ又ハ其ノ災厄ヲ避クル爲緊急ノ必要ニ依リ帝國議會閉會ノ場合ニ於テ法律ニ代ルヘキ勅令ヲ發ス

此勅令ハ次ノ會期ニ於テ帝國議會ニ提出スヘシ若シ議會ニ於テ承諾セサルトキハ政府ハ將來ニ向テ其ノ効力ヲ失フコトヲ公布スヘシ

第九條　天皇ハ法律ヲ執行スル爲ニ又ハ公共ノ安寧秩序ヲ保持シ及臣民ノ幸福ヲ增進スル爲ニ必要ナル命令ヲ發シ又ハ發セシム但シ命令ヲ以テ法律ヲ變更スルコトヲ得ス

第十條　天皇ハ行政各部ノ官制及文武官ノ俸給ヲ定メ及文武官ヲ任免ス但シ此ノ憲法又ハ他ノ法律ニ特例ヲ掲ケタルモノハ各〻其條項ニ依ル

第十一條　天皇ハ陸海軍ヲ統帥ス

第十二條　天皇ハ陸海軍ノ編制及常備兵額ヲ定ム

第十三條　天皇ハ戰ヲ宣シ和ヲ講シ及諸般ノ條約ヲ締結ス

第十四條　天皇ハ戒嚴ヲ宣告ス

戒嚴ノ要件及効力ハ法律ヲ以テ之ヲ定ム

第十五條　天皇ハ爵位勲章及其他ノ榮典ヲ授與ス

第十六條　天皇ハ大赦特赦減刑及復權ヲ命ス

第十七條　摂政ヲ置クハ皇室典範ノ定ムル所ニ依ル

摂政ハ天皇ノ名ニ於テ大權ヲ行フ

第二章　臣民權利義務

第十八條　日本臣民タルノ要件ハ法律ノ定ムル所ニ依ル

第十九條　日本臣民ハ法律命令ノ定ムル所ノ資格ニ應シ均ク文武官ニ任セラレ及其ノ他ノ公務ニ就クコトヲ得

第二十條　日本臣民ハ法律ノ定ムル所ニ從ヒ兵役ノ義務ヲ有ス

第二十一條　日本臣民ハ法律ノ定ムル所ニ從ヒ納稅ノ義務ヲ有ス

第二十二條　日本臣民ハ法律ノ範圍內ニ於テ居住及移轉ノ自由ヲ有ス

第二十三條　日本臣民ハ法律ニ依ルニ非スシテ逮捕監禁審問處罰ヲ受クルコトナシ

第二十四條　日本臣民ハ法律ニ定メタル裁判官ノ裁判ヲ受クルノ權ヲ奪ハルヽコトナシ

第二十五條　日本臣民ハ法律ニ定メタル場合ヲ除ク外其許諾ナクシテ住所ニ侵入セラレ及捜索セラルヽコトナシ

第二十六條　日本臣民ハ法律ニ定メタル場合ヲ除ク外信書ノ秘密ヲ侵サルヽコトナシ

第二十七條　日本臣民ハ其ノ所有權ヲ侵サルヽコトナシ

公益ノ爲メ必要ナル處分ハ法律ノ定ムル所ニ依ル

第二十八條　日本臣民ハ安寧秩序ヲ妨ケス及臣民タルノ義務ニ背カサル限ニ於テ信教ノ自由ヲ有ス

第二十九條　日本臣民ハ法律ノ範圍内ニ於テ言論著作印行集會及結社ノ自由ヲ有ス

第三十條　日本臣民ハ相當ノ敬禮ヲ守リ別ニ定ムル所ノ規程ニ從ヒ請願ヲ爲スコトヲ得

第三十一條　本章ニ掲ケタル條規ハ戰時又ハ國家事變ノ場合ニ於テ天皇大權ノ施行ヲ妨クルコトナシ

第三十二條　本章ニ掲ケタル條規ハ陸海軍ノ法令又ハ紀律ニ抵觸セサルモノニ限リ軍人ニ準行ス

第三章　帝國議會

第三十三條　帝國議會ハ貴族院衆議院ノ兩院ヲ以テ成立ス

第三十四條　貴族院ハ貴族院令ノ定ムル所ニ依リ皇族華族及勅任セラレタル議員ヲ以テ組織ス

第三十五條　衆議院ハ撰擧法ノ定ムル所ニ依リ公撰セラレタル議員ヲ以テ組織ス

第三十六條　何人モ同時ニ兩議院ノ議員タルコトヲ得ス

第三十七條　總テ法律ハ帝國議會ノ協賛ヲ經ルヲ要ス

第三十八條　兩議院ハ政府ノ提出スル法律案ヲ議決シ及各〻法律案ヲ提出スルコトヲ得

第三十九條　兩議院ノ一ニ於テ否決シタル法律案ハ同會期中ニ於テ再ヒ提出スルコトヲ得ス

第四十條　兩議院ハ法律又ハ其ノ他ノ事件ニ付各〻其意見ヲ政府ニ建議スルコトヲ得但シ其採納ヲ得サルモノハ同會期中ニ於テ再ヒ建議スルコトヲ得ス

第四十一條　帝國議會ハ毎年之ヲ召集ス

第四十二條　帝國議會ハ三箇月ヲ以テ會期トス必要アル場合ニ於テハ勅命ヲ以テ之ヲ延長スルコトアルヘシ

第四十三條　臨時緊急ノ必要アル場合ニ於テ常會ノ外臨時會ヲ召集スヘシ

臨時會ノ會期ヲ定ムルハ勅命ニ依ル

第四十四條　帝國議會ノ開會閉會會期ノ延長及停會ハ兩院同時ニ之ヲ行フヘシ

衆議院解散ヲ命セラレタル時ハ貴族院ハ同時ニ停會セラルヘシ

第四十五條　衆議院解散ヲ命セラレタル時ハ勅命ヲ以テ新ニ議員ヲ選擧セシメ解散ノ日ヨリ五箇月以内ニ之ヲ召集スヘシ

第四十六條　兩議院ハ各其總議員三分ノ一以上出席スルニアラサレハ議事ヲ開キ議決ヲナス事ヲ得ス

第四十七條　兩議院ノ議事ハ過半數ヲ以テ決ス可否同數ナルトキハ議長ノ決スル所ニ據ル

第四十八條　兩議院ノ會議ハ公開ス但シ政府ノ要求又ハ其院ノ決議ニ依リ秘密會トナスコトヲ得

第四十九條　兩議院ハ各天皇ニ上奏スルコトヲ得

第五十條　兩議院ハ臣民ヨリ提出スル請願書ヲ受クルコトヲ得

第五十一條　兩議院ハ此憲法及議院法ニ掲クルモノヽ外內部ノ整理ニ必要ナル諸規則ヲ定ムル事ヲ得

第五十二條　兩議院ノ議員ハ議院ニ於テ發言シタル意見及表決ニ就キ院外ニ於テ責ヲ負フ事ナシ但シ議員自カラ其言論ヲ演說刊行筆記又ハ其他ノ方法ヲ以テ公布シタル時ハ一般ノ法律ニ依リ處分セラルヘシ

第五十三條　兩議院ノ議員ハ現行犯罪又ハ內亂外患ニ關ル罪ヲ除ク外會期中其院ノ許諾ナクシテ逮捕セラルヽコトナシ

第五十四條　國務大臣及政府委員ハ何時タリトモ各議院ニ出席シ及發言スルコトヲ得

第四章　國務大臣及樞密顧問

第五十五條　國務各大臣ハ天皇ヲ輔弼シ其責ニ任ス

凡テ法律勅令其他國務ニ與ル詔勅ハ國務大臣ノ副署ヲ要ス

第五十六條　樞密顧問ハ樞密院官制ノ定ムル所ニ據リ天皇ノ諮詢ニ答ヘ重要ノ國務ヲ審議ス

第五章　司法

第五十七條　司法權ハ天皇ノ名ニ於テ法律ニ據リ裁判所之ヲ行フ

裁判所ノ構成ハ法律ヲ以テ之ヲ定ム

第五十八條　裁判官ハ法律ニ定メタル資格ヲ具フル者ヲ以テ之ニ任ス

裁判官ハ刑法ノ宣告又ハ懲戒ノ處分ニ由ルノ外其ノ職ヲ免セラルヽコトナシ

懲戒ノ條規ハ法律ヲ以テ之ヲ定ム

第五十九條　裁判ノ對審判決ハ之ヲ公開ス但シ安寧秩序又ハ風俗ヲ害スルノ虞アルトキハ法律ニ據リ又ハ裁判所ノ決議ヲ以テ對審ノ公開ヲ停ムルコトヲ得

第六十條　特別裁判所ノ管轄ニ屬スヘキモノハ別ニ法律ヲ以テ之ヲ定ム

第六十一條　行政官廳ノ違法處分ニ據リ權利ヲ障害セラレタリトスルノ訴訟ニシテ別ニ法律ヲ以テ定メタル行政裁判所ノ裁判ニ屬スヘキモノハ司法裁判所ニ於テ受理スルノ限ニアラス

第六章　會計

第六十二條　新ニ租稅ヲ課シ及稅率ヲ變更スルハ法律ヲ以テ之ヲ定ムヘシ

但シ報償ニ屬スル行政上ノ手數料及其ノ他ノ收納金ハ前項ノ限ニ在ラス

第六十三條　現行ノ租稅ハ更ニ法律ヲ以テ之ヲ改メサル限ハ舊ニ依リ之ヲ徵收ス

國債ヲ起シ及豫算ニ定メタルモノヲ除ク外國庫ノ負擔トナルヘキ契約ヲ爲スハ帝國議會ノ協贊ヲ經ヘシ

第六十四條　國家ノ歲出歲入ハ每年豫算ヲ以テ帝國議會ノ協贊ヲ經ヘシ

豫算ノ款項ニ超過シ又ハ豫算ノ外ニ生シタル支出アルトキハ後日帝國議會ノ承諾ヲ求ムルヲ要ス

第六十五條　豫算ハ前ニ衆議院ニ提出スヘシ

第六十六條　皇室經費ハ現在ノ定額ニ據リ每年國庫ヨリ之ヲ支出シ將來增額ヲ要スル場合ヲ除クノ外帝國議會ノ協贊ヲ要セス

第六十七條　憲法上ノ大權ニ基ツケル規定ノ歲出及法律ノ結果ニ由リ又ハ法律上政府ノ義務ニ屬スル歲出ハ政府ノ同意ナクシテ帝國議會之ヲ廢除シ又ハ削減スルコトヲ得ス

第六十八條　特別ノ須要ニ依リ政府ハ豫メ年限ヲ定メ繼續費トシテ帝國議會ノ協贊ヲ求ムルコトヲ得

第六十九條　避クヘカラサル豫算ノ不足ヲ補フ爲ニ又ハ豫算ノ外ニ生シタル必要ノ費用ニ充ツル爲ニ豫備費ヲ設クヘシ

第七十條　公共ノ安全ヲ保持スル爲緊急ノ需用アル場合ニ於テ內外ノ情形ニ因リ政府ハ帝國議會ヲ召集スルコト能ハサルトキハ勅令ニ依リ財政上必要ノ處分ヲナスコトヲ得

前項ノ場合ニ於テハ次ノ會期ニ於テ帝國議會ニ提出シ其承諾ヲ求ムルヲ要ス

第七十一條　帝國議會ニ於テ豫算ヲ議定セス又ハ豫算成立ニ至ラサルトキハ政府ハ前年度ノ豫算ヲ施行スヘシ

第七十二條　國家ノ歲出歲入ノ決算ハ會計檢査院之ヲ檢査確定シ政府ハ其檢査報告ト共ニ之ヲ帝國議會ニ提出スヘシ

會計檢査院ノ組織及職權ハ法律ヲ以テ之ヲ定ム

第七章　補則

第七十三條　將來此ノ憲法ノ條項ヲ改正スルノ必要アルトキハ勅命ヲ以テ議案ヲ帝國議會ノ議ニ付スヘシ

此ノ場合ニ於テ兩議院ハ各〻其總員三分ノ二以上出席スルニ非サレハ議事ヲ開クコトヲ得ス出席議員三分ノ二以上ノ多數ヲ得ルニ非サレハ改正ノ議決ヲナスコトヲ得ス

第七十四條　皇室典範ノ改正ハ帝國議會ノ議ヲ經ルヲ要セス

皇室典範ヲ以テ此ノ憲法ノ條規ヲ變更スルコトヲ得ス

第七十五條　憲法及皇室典範ハ攝政ヲ置クノ間之ヲ變更スルコトヲ得ス

第七十六條　法律規則命令又ハ何等ノ名稱ヲ用ヒタルニ拘ラス此ノ憲法ニ矛盾セサル現行ノ法令ハ總テ遵由ノ効力ヲ有ス

歳出上政府ノ義務ニ係ル現在ノ契約又ハ命令ハ總テ第六十七條ノ例ニ據ル

○皇室典範　（明治二十二年二月十一日）

天佑ヲ享有シタル我カ日本帝國ノ寶祚ハ萬代一系歴代繼承シ以テ朕カ躬ニ至ル惟フニ祖宗肇國ノ初大憲一タヒ定マリ昭ナルコト日星ノ如シ今ノ時ニ當リ宜ク遺訓ヲ明徴ニシ皇家ノ成典ヲ制立シ以テ不基ヲ永遠ニ鞏固ニスヘシ茲ニ樞密顧問ノ諮詢ヲ經皇室典範ヲ裁定シ朕カ後嗣及子孫ナシテ遵守スル所アラシムル

御名　御璽

第一章　皇位繼承

第一條　大日本國皇位ハ祖宗ノ皇統ニシテ男系ノ男子之ヲ繼承ス

第二條　皇位ハ皇長子ニ傳フ

第三條　皇長子在ラサルトキハ皇長孫ニ傳フ皇長子及其ノ子孫皆在ラサルトキハ皇次子及其ノ子孫ニ傳フ以下皆之ニ例ス

第四條　皇子孫ノ皇位ヲ繼承スルハ嫡出ヲ先ニス皇庶子孫ノ皇位ヲ繼承スルハ皇嫡子孫皆在ラサルトキニ限ル

第五條　皇子孫皆在ラサルトキハ皇兄弟及其ノ子孫ニ傳フ

第六條　皇兄弟及其ノ子孫皆在ラサルトキハ皇伯叔父及其ノ子孫ニ傳フ

第七條　皇伯叔父及其ノ子孫皆在ラサルトキハ其ノ以上ニ於テ最近親ノ皇族ニ傳フ

第八條　皇兄弟以上ハ同等内ニ於テ嫡ヲ先ニシ庶ヲ後ニシ長ヲ先ニシ幼ヲ後ニス

第九條　皇嗣精神若クハ身體ノ不治ノ重患アリ又ハ重大ノ事故アルトキハ皇族會議及樞密顧問ニ諮詢シ前數條ニ依リ繼承ノ順序ヲ換フルコトヲ得

第二章　踐祚卽位

第十條　天皇崩スルトキハ皇嗣卽チ踐祚シ祖宗ノ神器ヲ承ク

第十一條　卽位ノ禮及大嘗祭ハ京都ニ於テ之ヲ行フ

第十二條　踐祚ノ後元號ヲ建テ一世ノ間ニ再ヒ改メサルコト明治元年ノ制定ニ從フ

第三章　成年立后立太子

第十三條　天皇及皇太子皇太孫ハ滿十八年ヲ以テ成年トス

第十四條　前條ノ外ノ皇族ハ滿二十年ヲ以テ成年トス

第十五條　儲嗣タル皇子ヲ皇太子トス皇太子在ラサルトキハ儲嗣タル皇孫ヲ皇太孫トス

第十六條　皇后皇太子皇太孫ヲ立ツルトキハ勅書ヲ以テ之ヲ公布ス

第四章　敬稱

第十七條　天皇太皇太后皇太后皇后ノ敬稱ハ陛下トス

第十八條　皇太子皇太子妃皇太孫皇太孫妃親王親王妃王王妃女王ノ敬稱ハ殿下トス

第五章　攝政

第十九條　天皇未タ成年ニ達セサルトキハ攝政ヲ置ク

天皇久キニ亘ルノ故障ニ由リ大政ヲ親ラスルコト能ハサルトキハ皇族會議及樞密顧問ノ議ヲ經テ攝政ヲ置ク

第二十條　攝政ハ成年ニ達シタル皇太子又ハ皇太孫之ニ任ス

第二十一條　皇太子皇太孫アラサルカ又ハ未タ成年ニ達セサルトキハ左ノ順序ニ依リ攝政ニ任ス

第一　親王及王

第二　皇后

第三　皇太后

第四　太皇太后

第五　內親王及女王

第二十二條　皇族男子ノ攝政ニ任スルハ皇位繼承ノ順序ニ從フ其ノ女子ニ於ケルモ亦之ニ準ス

第二十三條　皇族女子ノ攝政ニ任スルハ其ノ配偶アラサル者ニ限ル

第二十四條　最近親ノ皇族未タ成年ニ達セサルカ又ハ其ノ他ノ事故ニ由リ他ノ皇族攝政ニ任シタルトキハ後來最近親ノ皇族成年ニ達シ又ハ其ノ事故既ニ除クト雖皇太子及皇太孫ニ對スルノ外其任ヲ解ルコトナシ

第二十五條　攝政又ハ攝政タルヘキ者精神若ハ身體ノ重患アリ又ハ重大ノ事故アルトキハ皇族會議及樞密顧問ノ議ヲ經テ其順序ヲ換フルコトヲ得

第六章　太傅

第二十六條　天皇未タ成年ニ達セサルトキハ太傅ヲ置キ保育ヲ掌ラシム

第二十七條　先帝遺命ヲ以テ太傅ヲ任セサリシトキハ攝政ヨリ皇族會議及樞密顧問ニ諮詢シ之ヲ選任ス

第二十八條　太傅ハ攝政及其ノ子孫之ニ任スルコトヲ得ス

第二十九條　攝政ハ皇族會議及樞密顧問ニ諮詢シタル後ニ非サレハ太傅ヲ退職セシムルコトヲ得ス

第七章　皇族

第三十條　皇族ト稱フルハ太皇太后皇后皇太子皇太子妃皇太孫皇太孫妃親王親王妃內親王王妃女王ヲ謂フ

第三十一條　皇子ヨリ皇玄孫ニ至ルマテハ男ヲ親王女ヲ內親王トシ五世以下ハ男ヲ王女ヲ女王トス

第三十二條　天皇支系ヨリ入テ大統ヲ承クルトキハ皇兄弟姉妹ノ王女王タル者ニ特ニ親王內親王ノ號ヲ宣賜ス

第三十三條　皇族ノ誕生命名婚嫁離去ハ宮內大臣之ヲ公告ス

第三十四條　皇統譜及前條ニ關ル記錄ハ圖書寮ニ於テ倫藏ス

第三十五條　皇族ハ天皇之ヲ監督ス

第三十六條　攝政在任ノ時ハ前條ノ事ヲ攝行ス

第三十七條　皇族男女幼年ニシテ父ナキ者ハ宮內ノ官吏ニ命シ保育ヲ掌ラシム事宜ニ依リ天皇ハ其父母ノ撰擧セル後見人ヲ認可シ又ハ之ヲ勅選スヘシ

第三十八條　皇族ノ後見人ハ成年以上ノ皇族ニ限ル

第三十九條　皇族ノ婚嫁ハ同族又ハ勅旨ニ由リ特ニ認許セラレタル華族ニ限ル

第四十條　皇族ノ婚嫁ハ勅許ニ由ル

第四十一條　皇族ノ婚嫁ヲ許可スルノ勅書ハ宮內大臣之ニ副署ス

第四十二條　皇族ハ養子ヲ爲スコトヲ得ス

第四十三條　皇族國籍ノ外ニ旅行セムトスルトキハ勅許ヲ請フヘシ

第四十四條　皇族女子ノ臣籍ニ嫁シタル者ハ皇族ノ列ニ在ラス但シ特旨ニ依リ仍內親王女王ノ稱ヲ有セシムルコトアルヘシ

第八章　世傳御料

第四十五條　土地物件ノ世傳御料ト定メタルモノハ分割讓與スルコトヲ得ス

第四十六條　世傳御料ニ編入スル土地物件ハ樞密顧問ニ諮詢シ勅書ヲ以テ之ヲ定メ宮內大臣之ヲ公告ス

第九章　皇室經費

第四十七條　皇室諸般ノ經費ハ特ニ常額ヲ定メ國庫ヨリ支出セシム

第四十八條　皇室經費ノ豫算決算檢査及其ノ他ノ規則ハ皇室會計法ノ定ムル所ニ依ル

第十章　皇族訴訟及懲戒

第四十九條　皇族相互ノ民事ノ訴訟ハ勅旨ニ依リ宮內省ニ於テ裁判員ヲ命シ裁判セシメ勅裁ヲ經テ之ヲ執行ス

第五十條　人民ヨリ皇族ニ對スル民事ノ訴訟ハ東京控訴院ニ於テ之ヲ裁判ス但シ皇族ハ代人ヲ以テ訴訟ニ當ラシメ自ラ訟廷ニ出ルヲ要セス

第五十一條　皇族ハ勅許ヲ得ルニ非サレハ勾引シ又ハ裁判所ニ召喚スルコトヲ得ス

第五十二條　皇族其品位ヲ辱ムルノ所行アリ又ハ皇室ニ對シ忠順ヲ欠クトキハ勅旨ヲ以テ之ヲ懲戒シ其ノ重キ者ハ皇族特權ノ一部又ハ全部ヲ停止シ若ハ剝奪スヘシ

第五十三條　皇族蕩產ノ所行アルトキハ勅旨ヲ以テ治產ノ禁ヲ宣告シ其ノ管財者ヲ任スヘシ

第五十四條　前二條ハ皇族會議ニ諮詢シタル後之ヲ勅裁ス

第十一章　皇族會議

第五十五條　皇族會議ハ成年以上ノ皇族男子ヲ以テ組織シ內大臣樞密院議長宮內大臣司法大臣大審院長ヲ以テ參列セシム

第五十六條　天皇ハ皇族會議ニ親臨シ又ハ皇族中ノ一員ニ命シテ議長タラシム

第十二章　補則

第五十七條　現在ノ皇族五世以下親王ノ號ヲ宣賜シタル者ハ皆ニ依ル

第五十八條　皇位繼承ノ順序ハ總テ實系ニ依ル現在皇養子皇猶子又ハ他ノ繼嗣タルノ故ヲ以テ之ヲ混スルコトナシ

第五十九條　親王內親王王女王ノ品位ハ之ヲ賜ス

第六十條　親王ノ家格及其ノ他此ノ典範ニ抵觸スル例規ハ總テ之ヲ廢ス

第六十一條　皇族ノ財產歲費及諸規則ハ別ニ之ヲ定ムヘシ

○皇室典範

第六十二條　將來此ノ典範ノ條項ヲ改正シ又ハ增補スヘキノ必要アルニ當テハ皇族會議及樞密顧問ニ諮詢シテ之ヲ勅定スヘシ

○法例

（明治二十三年十月六日法律第九十七號）

朕法例ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム此法律ハ明治二十六年一月一日ヨリ施行スヘキコトヲ命ス

御名　御璽

第一條　法律ハ公布アリタルヨリ滿二十日ノ後ハ之ヲ遵守スヘキモノトス
但法律ニ特別ノ規定アルモノハ此限ニ在ラス

第二條　法律ハ既往ニ遡ル効力ヲ有セス

第三條　人ノ身分及ヒ能力ハ其本國法ニ從フ
親屬ノ關係及ヒ其關係ヨリ生スル權利義務ニ付テモ亦同シ

第四條　動産、不動産ハ其所在地ノ法律ニ從フ
然レトモ相續及ヒ遺贈ニ付テハ被相續人及ヒ遺贈者ノ本國法ニ從フ

第五條　外國ニ於テ爲シタル合意ニ付テハ當事者ノ明示又ハ默示ノ意思ニ從ヒテ何レノ國ノ法律ヲ適用ス可キヤヲ定ム
當事者ノ意思分明ナラサル場合ニ於テハ同國人ナルトキハ其本國法ヲ適用シ又同國人ニ非サルトキハ事實上合意ニ最大ノ關係ヲ有スル地ノ法律ヲ適用ス

第六條　外國人カ日本ニ於テ日本人ト合意ヲ爲ストキハ外國人ノ能力ニ付テハ其本國法ト日本法トノ中ニテ合意ノ成立ニ最モ有益ナル法律ヲ適用ス

第七條　不當ノ利得、不正ノ損害及ヒ法律上ノ管理ハ其原因ノ生シタル地ノ法律ニ從フ

第八條　本國法ヲ適用ス可キ諸般ノ場合ニ於テ何レノ國民分限ヲモ有セサル者又ハ地方ニ依リ法律ヲ異ニスル國ノ人民ハ其住所ノ法律ニ從フ若シ住所知レサルトキハ其居所ノ法律ニ從フ
日本人ト外國人トノ分限ヲ有スル者ハ日本法律ニ從ヒ又二箇以上ノ外國國民分限ヲ有スル者ハ最後ニ之ヲ取得シタル國ノ法律ニ從フ

第九條　公正證書及ヒ私署證書ノ方式ハ之ヲ作ル國ノ法律ニ從フ但一人又ハ同國人ナル數人ノ作ル私署證書ニ付テハ其本國法ニ從フコトヲ得

第十條　要式ノ合意又ハ行爲ト雖モ之ヲ爲ス國ノ方式ニ從フトキハ方式上有效トス但故意ヲ以テ日本法律ヲ脫シタルトキハ此限ニ在ラス

第十一條　外國ニ於テ其國ノ方式ニ依リテ作リタル證書ハ不動産物權ヲ移轉スル行爲ニ係ルトキハ其不動産所在地ノ地方裁判所長又他ノ行爲ニ係ルトキハ當事者ノ住所又ハ居所ノ地方裁判所長其證書ノ適法ナルコトヲ檢認シタル上ニ非サレハ日本ニ於テ其效用ヲ致サシムルコトヲ得ス

第十二條　第三者ノ利益ノ爲メニ設定スル公示ノ方式ハ不動産ニ係ルトキハ其所在地ノ法律、他ノ場合ニ於テハ其原因ノ生シタル國ノ法律ニ從フ

第十三條　訴訟手續ハ其訴訟ヲ爲ス國ノ法律ニ從フ
裁判及ヒ合意ノ執行方法ハ其執行ヲ爲ス國ノ法律ニ從フ

第十四條　刑罰法其他公法ノ事項ニ關シ及ヒ公ノ秩序又ハ善良ノ風俗ニ關スルトキハ行爲ノ地、當事者ノ國民分限及ヒ財産ノ性質ノ如何ヲ問ハス日本法律ヲ適用ス

○法例

第十五條　公ノ秩序又ハ善良ノ風俗ニ關スル法律ニ抵觸シ又ハ其適用ヲ免カレントスル合意又ハ行爲ハ不成立トス

第十六條　身分又ハ能力ヲ規定スル法律ヲ免カルヽ合意又ハ行爲ハ無效トス

第十七條　判事ハ法律ニ不明(不備又ハ欠缺アルヲ口實トシテ裁判ヲ爲スヲ拒絶スルコトヲ得ス

○議院法　(明治二十二年二月十一日　法律第二號)

朕樞密顧問ノ諮詢ヲ經テ議院法ヲ裁可シ之ヲ公布セシメ併セテ貴族院及衆議院成立ノ日ヨリ各々本法ニ依リ施行スヘキコトヲ命ス

御名　御璽

第一章　帝國議會ノ召集成立及開會

第一條　帝國議會召集ノ勅諭ハ集會ノ期日ヲ定メ少クトモ四十日前ニ之ヲ發布スヘシ

第二條　議員ハ召集ノ勅諭ニ指定シタル期日ニ於テ各議院ノ會堂ニ集會スヘシ

第三條　衆議院ノ議長副議長ハ其ノ院ニ於テ各〻三名ノ候補者ヲ選擧セシメ其ノ中ヨリ之ヲ勅任スヘシ

議長副議長ノ勅任セラルヽマテハ書記官長議長ノ職務ヲ行フヘシ

第四條　各議院ハ抽籤法ニ依リ總議員ヲ數部ニ分劃シ每部々長一名ヲ部員中ニ於テ互選スヘシ

第五條　兩議院成立シタル後勅命ヲ以テ帝國議會開會ノ日ヲ定メ兩院議員ヲ貴族院ニ會合セシメ開院式ヲ行フヘシ

第六條　前條ノ場合ニ於テ貴族院議長ハ議長ノ職務ヲ行フヘシ

第二章　議長書記官及經費

第七條　各議院ノ議長副議長ハ各〻一員トス

第八條　衆議院ノ議長副議長ノ任期ハ議員ノ任期ニ依ル

第九條　衆議院ノ議長副議長辭職又ハ其ノ他ノ事故ニ由リ闕位トナリタルトキハ後任者ノ任期ハ仍前任者ノ任期ニ依ル

第十條　各議院ノ議長ハ其ノ議院ノ秩序ヲ保持シ議事ヲ整理シ院外ニ對シ議院ヲ代表ス

第十一條　議長ハ議會閉會ノ間ニ於テ仍其ノ議院ノ事務ヲ指揮ス

第十二條　議長ハ常任委員會及特別委員會ニ臨席シ發言スルコトヲ得但シ表決ノ數ニ預カラス

第十三條　各議院ニ於テ議長故障アルトキハ副議長之ヲ代理ス

第十四條　各議院ニ於テ議長副議長俱ニ故障アルトキハ假議長ヲ選擧シ議長ノ職務ヲ行ハシムヘシ

第十五條　各議院ノ議長副議長ハ任期滿限ニ達スルモ後任者ノ勅任セラルヽマテハ仍其ノ職務ヲ繼續スヘシ

第十六條　各議院ニ書記官長一人書記官數人ヲ置ク

書記官長ハ勅任トシ書記官ハ奏任トス

第十七條　書記官長ハ議長ノ指揮ニ依リ書記官ノ事務ヲ提理シ公文ニ署名ス

書記官ハ議事錄及其ノ他ノ文書案ヲ作リ事務ヲ掌理ス

書記官ノ外他ノ必要ナル職員ハ書記官長之ヲ任ス

第十八條　兩議院ノ經費ハ國庫ヨリ之ヲ支出ス

第三章　議長副議長及議員歲費

第十九條　各議院ノ議長ハ歲費トシテ四千圓副議長ハ二千圓貴族院ノ被選及勅任議員及衆議院ノ議員

ハ八百圓ヲ受ケ別ニ定ムル所ノ規則ニ從ヒ旅費ヲ受ク但シ召集ニ應セサル者ハ歲費ヲ受クルコトヲ得ス

議長副議長及議員ハ歲費ヲ辞スルコトヲ得ス

官吏ニシテ議員タル者ハ歲費ヲ受クルコトヲ得ス

第二十五條ノ場合ニ於テハ第一項歲費ノ外議院ノ定ムル所ニ依リ一日五圓ヨリ多カラサル手當ヲ受ク

第四章　委員

第二十條　各議院ノ委員ハ全院委員常任委員及特別委員ノ三類トス

全院委員ハ議院ノ全員ヲ以テ委員ト爲スモノトス

常任委員ハ事務ノ必要ニ依リ之ヲ數科ニ分劃シ負擔ノ事件ヲ審査スル爲ニ各部ニ於テ同數ノ委員ヲ總議員中ヨリ選擧シ一會期中其ノ任ニ在ルモノトス

特別委員ハ一事件ヲ審査スル爲ニ議院ノ選擧ヲ以テ特ニ付託ヲ受クルモノトス

第二十一條　全院委員會ハ一會期コトニ開會ノ始ニ於テ之ヲ選擧ス

常任委員長及特別委員長ハ各委員長ニ於テ之ヲ互選ス

第二十二條　全院委員會ハ議院三分ノ一以上常任委員會及特別委員會ハ其ノ委員半數以上出席スルニ非サレハ議事ヲ開キ議決ヲ爲スコトヲ得ス

第二十三條　常任委員會及特別委員會ハ議員ノ外傍聽ヲ禁ス但シ委員會ノ決議ニ由リ議員ノ傍聽ヲ禁スルコトヲ得

第二十四條　各委員ハ委員會ノ經過及結果ヲ議院ニ報告スヘシ

第二十五條　各議院ハ政府ノ要求ニ依リ又ハ其ノ同意ヲ經テ議會閉會ノ間委員ヲシテ議案ノ審査ヲ繼續セシムルコトヲ得

第五章　會議

第二十六條　各議院ノ議長ハ議事日程ヲ定メテ之ヲ議院ニ報告ス

議事日程ハ政府ヨリ提出シタル議案ヲ先ニスヘシ但シ他ノ議事緊急ノ場合ニ於テ政府ノ同意ヲ得タルトキハ此ノ限ニ在ラス

第二十七條　法律ノ議案ハ三讀會ヲ經テ之ヲ議決スヘシ但シ政府ノ要求若ハ議員十人以上ノ要求ニ由リ議院ニ於テ出席議員三分ノ二以上ノ多數ヲ以テ可決シタルトキハ三讀會ノ順序ヲ省略スルコトヲ得

第二十八條　政府ヨリ提出シタル議案ハ委員ノ審査ヲ經スシテ之ヲ議決スルコトヲ得ス但シ緊急ノ場合ニ於テ政府ノ要求ニ由ルモノハ此ノ限ニ在ラス

第二十九條　凡テ議案ヲ發議シ及議院ノ會議ニ於テ議案ニ對シ修正ノ動議ヲ發スルモノハ二十人以上ノ賛成アルニ非サレハ議題ト爲スコトヲ得ス

第三十條　政府ハ何時タリトモ既ニ提出シタル議案ヲ修正シ又ハ撤回スルコトヲ得

第三十一條　凡テ議案ハ最後ニ議決シタル議院ノ議長ヨリ國務大臣ヲ經由シテ之ヲ奏上スヘシ

但シ兩議院ノ一ニ於テ提出シタル議案ニシテ他ノ議院ニ於テ否決シタルトキハ第五十四條第二項ノ規定ニ依ル

第三十二條　兩議院ノ議決ヲ經テ奏上シタル議案ニシテ裁可セラルヽモノハ次ノ會期マテニ公布セラルヘシ

第六章　停會閉會

第三十三條　政府ハ何時タリトモ十五日以内ニ於テ議院ノ停會ヲ命スルコトヲ得
議院停會ノ後再ヒ開會シタルトキハ前會ノ議事ヲ繼續スヘシ

第三十四條　衆議院ノ解散ニ依リ貴族院ニ停會ヲ命シタル場合ニ於テハ前條第二項ノ例ニ依ラス

第三十五條　帝國議會閉會ノ場合ニ於テ議案建議請願ノ議決ニ至ラサルモノハ後會ニ繼續セス但シ第二十五條ノ場合ニ於テハ此ノ限ニ在ラス

第三十六條　閉會ハ勅命ニ由リ兩議院合議ニ於テ之ヲ擧行スヘシ

第七章　祕密會議

第三十七條　各議院ノ會議ハ左ノ場合ニ於テ公開ヲ停ムルコトヲ得
一　議長又ハ議員十人以上ノ發議ニ由リ議院之ヲ可決シタルトキ
二　政府ヨリ要求ヲ受ケタルトキ

第三十八條　議長又ハ議員十人以上ヨリ祕密會議ヲ發議シタルトキハ議長ハ直ニ傍聽人ヲ退去セシメ討論ヲ用ヰスシテ可否ノ決ヲ取ルヘシ

第三十九條　祕密會議ハ刊行スルコトヲ許サス

第八章　豫算案ノ議定

第四十條　政府ヨリ豫算案ヲ衆議院ニ提出シタルトキハ豫算委員ハ其ノ院ニ於テ受取リタル日ヨリ十五日以内ニ審査ヲ終リ議院ニ報告スヘシ

第四十一條　豫算案ニ就キ議院ノ會議ニ於テ修正ノ動議ヲ發スルモノハ三十人以上ノ賛成アルニ非サレハ議題ト爲スコトヲ得ス

第九章　國務大臣及政府委員

第四十二條　國務大臣及政府委員ノ發言ハ何時タリトモ之ヲ許スヘシ但シ之カ爲ニ議員ノ演說ヲ中止セシムルコトヲ得ス

第四十三條　議院ニ於テ議案ヲ委員ニ付シタルトキハ國務大臣及政府委員ハ何時タリトモ委員會ニ出席シ意見ヲ述フルコトヲ得

第四十四條　委員會ハ議長ヲ經由シテ政府委員ノ說明ヲ求ムルコトヲ得

第四十五條　國務大臣及政府委員ハ議員タル者ヲ除ク外議院ノ會議ニ於テ表決ノ數ニ預カラス

第四十六條　常任委員會又ハ特別委員會ヲ開クトキハ每會委員長ヨリ其ノ主任ノ國務大臣及政府委員ニ報知スヘシ

第四十七條　議事日程及議事ニ關ル報告ハ議員ニ分配スルト同時ニ之ヲ國務大臣及政府委員ニ送付スヘシ

第十章　質問

第四十八條　兩議院ノ議員政府ニ對シ質問ヲ爲サムトスルトキハ三十人以上ノ賛成者アルヲ要ス
質問ハ簡明ナル主意書ヲ作リ賛成者ト共ニ連署シテ之ヲ議長ニ提出スヘシ

第四十九條　質問主意書ハ議長之ヲ政府ニ轉送シ國務大臣ハ直ニ答辯ヲ爲シ又ハ答辯スヘキ期日ヲ定メ若答辯ヲ爲サヽルトキハ其ノ理由ヲ示明スヘシ

第五十條　國務大臣ノ答辯ヲ得又ハ答辯ヲ得サルトキハ質問ノ事件ニ付議員ハ建議ノ動議ヲ爲スコトヲ得

第十一章　上奏及建議

○議院法

第五十一條　各議院上奏セントスルトキハ文書ヲ奉呈シ又ハ議長ヲ以テ總代トシ謁見ヲ請ヒ之ヲ奉呈スルコトヲ得

各議院ノ建議ハ文書ヲ以テ政府ニ呈出スヘシ

第五十二條　各議院ニ於テ上奏又ハ建議ノ動議ハ三十人以上ノ贊成アルニ非サレハ議題ト爲スコトヲ得ス

第十二章　兩議院關係

第五十三條　豫算ヲ除ク外政府ノ議案ヲ付スルハ兩議院ノ內何レヲ先ニスルモ便宜ニ依ル

第五十四條　甲議院ニ於テ政府ノ議案ヲ可決シ又ハ修正シテ議決シタルトキハ乙議院ニ之ヲ移スヘシ

乙議院ニ於テ甲議院ノ議決ニ同意シ又ハ否決シタルトキハ之ヲ奏上スルト同時ニ甲議院ニ通知スヘシ

乙議院ニ於テ甲議院ノ提出シタル議案ヲ否決シタルトキハ之ヲ甲議院ニ通知スヘシ

第五十五條　乙議院ニ於テ甲議院ヨリ移シタル議案ニ對シ之ヲ修正シタルトキハ之ヲ甲議院ニ回付スヘシ甲議院ニ於テ乙議院ノ修正ニ同意シタルトキハ之ヲ奏上スルト同時ニ乙議院ニ通知スヘシ若之ニ同意セサルトキハ兩院協議會ヲ開クコトヲ求ムヘシ

甲議院ヨリ協議會ヲ開クコトヲ求ムルトキハ乙議院ハ之ヲ拒ムコトヲ得ス

第五十六條　兩協議院會ハ兩議院ヨリ各十人以下同數ノ委員ヲ選擧シ會同セシム委員ノ協議案成立スルトキハ議案ヲ政府ヨリ受取リ又ハ提出シタル甲議院ニ於テ先ツ之ヲ議シ次ニ乙議院ニ移スヘシ

協議會ニ於テ成立シタル成案ニ對シテハ更ニ修正ノ動議ヲ爲スコトヲ許サス

第五十七條　國務大臣政府委員及各議院ノ議長ハ何時タリトモ兩院協議會ニ出席シテ意見ヲ述フルコトヲ得

第五十八條　兩院協議會ハ傍聽ヲ許サス

第五十九條　兩院協議會ニ於テ可否ノ決ヲ取ルハ無名投票ヲ用ヰ可否同數ナルトキハ議長ノ決スル所ニ依ル

第六十條　兩院協議會ノ議長ハ兩議院協議委員ニ於テ各一員ヲ互選シ每會更代シテ席ニ當ラシムヘシ

其ノ初會ニ於ケル議長ハ抽籤法ヲ以テ之ヲ定ム

第六十一條　本章ニ定ムル所ノ外兩議院交涉事務ノ規程ハ其ノ協議ニ依リ之ヲ定ムヘシ

第十三章　請願

第六十二條　各議院ニ呈出スル人民ノ請願書ハ議員ノ紹介ニ依リ議院之ヲ受取ルヘシ

第六十三條　請願書ハ各議院ニ於テ請願委員ニ付シ之ヲ審査セシム

請願委員請願書ヲ以テ規程ニ合ハスト認ムルトキハ議長ハ紹介ノ議員ヲ經テ之ヲ却下スヘシ

第六十四條　請願委員ハ請願文書表ヲ作リ其ノ要領ヲ錄シ每週一回議院ニ報告スヘシ

請願委員特別ノ報告ニ依レル要求又ハ議員三十人以上ノ要求アルトキハ各議院ハ其ノ請願事件ヲ會議ニ付スヘシ

第六十五條　各議院ニ於テ請願ノ採擇スヘキコトヲ議決シタルトキハ意見書ヲ附シ其ノ請願書ヲ政府ニ送付シ事宜ニ依リ報告ヲ求ムルコトヲ得

第六十六條　法律ニ依リ法人ト認メラレタル者ヲ除ク外總代ノ名義ヲ以テスル請願ハ各議院之ヲ受クルコトヲ得ス

第六十七條　各議院ハ憲法ヲ變更スルノ請願ヲ受クルコトヲ得ス

第六十八條　請願書ハ總テ哀願ノ體式ヲ用ウヘシ若請願ノ名義ニ依ラス若ハ其ノ體式ニ悖ルモノハ各議院之ヲ受クルコトヲ得ス

第六十九條　請願書ニシテ皇室ニ對シ不敬ノ語ヲ用ヰ政府又ハ議院ニ對シ侮辱ノ語ヲ用ヰルモノハ各議院之ヲ受クルコトヲ得ス

第七十條　各議院ハ司法及行政裁判ニ干預スルノ請願ヲ受クルコトヲ得ス

第七十一條　各議院ハ各別ニ請願ヲ受ケ互ニ相干預セス

第十四章　議院ト人民及官廳地方議會トノ關係

第七十二條　各議院ハ人民ニ向テ告示ヲ發スルコトヲ得ス

第七十三條　各議院ハ審査ノ爲ニ人民ヲ召喚シ及議員ヲ派出スルコトヲ得ス

第七十四條　各議院ヨリ審査ノ爲ニ政府ニ向テ必要ナル報告又ハ文書ヲ求ムルトキハ政府ハ祕密ニ渉ルモノヲ除ク外其ノ求ニ應スヘシ

第七十五條　各議院ハ國務大臣及政府委員ノ外他ノ官廳及地方議會ニ向テ照會往復スルコトヲ得ス

第十五章　退職及議員資格ノ異議

第七十六條　衆議院ノ議員ニシテ貴族院議員ニ任セラレ又ハ法律ニ依リ議員タルコトヲ得サル職務ニ任セラレタルトキハ退職者トス

第七十七條　衆議院ノ議員ニシテ選擧法ニ記載シタル被選ノ資格ヲ失ヒタルトキハ退職者トス

第七十八條　衆議院ニ於テ議員ノ資格ニ付異議ヲ生シタルトキハ特ニ委員ヲ設ケ時日ヲ期シ之ヲ審査セシメ其ノ報告ヲ待テ之ヲ議決スヘシ

第七十九條　裁判所ニ於テ當選訴訟ノ裁判手續ヲ爲シタルモノハ衆議院ニ於テ同一事件ニ付審査スルヲ得ス

第八十條　議員其ノ資格ナキコトヲ證明セラルルマテハ議院ニ於テ位列及發言ノ權ヲ失ハス但シ自身ノ資格審査ニ關ル會議ニ對シテハ辯明スルコトヲ得ルモ其ノ表決ニ預ルコトヲ得ス

第十六章　請暇辭職及補闕

第八十一條　各議院ノ議長ハ一週間ニ超エサル議員ノ請暇ヲ許可スルコトヲ得其ノ一週間ヲ超ユルモノハ議院ニ於テ之ヲ許可ス期限ナキモノハ之ヲ許可スルコトヲ得ス

第八十二條　各議院ノ議員ハ正當ノ理由ヲ以テ議長ニ屆出スシテ會議又ハ委員會ニ闕席スルコトヲ得ス

第八十三條　衆議院ハ議員ノ辭職ヲ許可スルコトヲ得

第八十四條　何等ノ事由ニ拘ラス衆議院議員ニ闕員ヲ生シタルトキハ議長ヨリ內務大臣ニ通牒シ補闕選擧ヲ求ムヘシ

第十七章　紀律及警察

第八十五條　各議院開會中其ノ紀律ヲ保持セムカ爲內部警察ノ權ハ此ノ法律及各議院ニ於テ定ムル所ノ規則ニ從ヒ議長之ヲ施行ス

第八十六條　各議院ニ於テ要スル所ノ警察官吏ハ政府之ヲ派出シ議長ノ指揮ヲ受ケシム

第八十七條　會議中議員此ノ法律若ハ議事規則ニ違ヒ其ノ他議場ノ秩序ヲ紊ルトキハ議長ハ之ヲ警戒シ又ハ制止シ又ハ發言ヲ取消サシム命ニ從ハサルトキハ議長ハ當日ノ會議ヲ終ルマテ發言ヲ禁止シ又ハ議場ノ外ニ退去セシムルコトヲ得

第八十八條　議場騷擾ニシテ整理シ難キトキハ議長ハ當日ノ會議ヲ中止シ又ハ之ヲ閉ツルコトヲ得

○議院法

第八十九條　傍聽人議場ノ妨害ヲ爲ス者アルトキハ議長ハ之ヲ退場セシメ必要ナル場合ニ於テハ之ヲ警察官廳ニ引渡サシムルルコトヲ得

傍聽席騒擾ナルトキハ議長ハ總テノ傍聽人ヲ退場セシムルコトヲ得

第九十條　議場ノ秩序ヲ紊ル者アルトキハ國務大臣政府委員及議員ハ議長ノ法令ヲ喚起スルコトヲ得

第九十一條　各議院ニ於テ皇室ニ對シ不敬ノ言語論説ヲ爲スコトヲ得ス

第九十二條　各議院ニ於テ無禮ノ語ヲ用ヰルコトヲ得ス及他人ノ身上ニ渉リ言論スルコトヲ得ス

第九十三條　議院又ハ委員會ニ於テ誹毀侮辱ヲ被リタル議員ハ之ヲ議院ニ訴ヘテ處分ヲ求ムヘシ私ニ相報復スルコトヲ得ス

第十八章　懲罰

第九十四條　各議院ハ其ノ議員ニ對シ懲罰ノ權ヲ有ス

第九十五條　各議院ニ於テ懲罰事犯ヲ審査スル爲ニ懲罰委員ヲ設ク

懲罰事犯アルトキハ議長ハ先ツ之ヲ委員ニ付シ審査セシメ議院ノ議ヲ經テ之ヲ宣告ス

各委員會又ハ各部ニ於テ懲罰事犯アルトキハ委員長又ハ部長ハ之ヲ議長ニ報告シ處分ヲ求ムヘシ

第九十六條　懲罰ハ左ノ如シ

一　公開シタル議場ニ於テ謹責ス

二　公開シタル議場ニ於テ適當ノ謝辭ヲ表セシム

三　一定ノ時間出席ヲ停止ス

四　除名

衆議院ニ於テ除名ハ出席議員三分ノ二以上ノ多數ヲ以テ之ヲ決スヘシ

第九十七條　衆議院ハ除名ノ議員再選ニ當ル者ヲ拒ムコトヲ得ス

第九十八條　議員ハ二十人以上ノ賛成ヲ以テ懲罰ノ動議ヲ爲スコトヲ得

懲罰ノ動議ハ事犯アリシ後三日以内ニ之ヲ爲スヘシ

第九十九條　議員正當ノ理由ナクシテ勅諭ニ指定シタル期日後一週間内ニ召集ニ應セサルニ由リ又ハ正當ノ理由ナクシテ會議又ハ委員會ニ闕席スルニ由リ若ハ請暇ノ期限ヲ過キタルニ由リ議長ヨリ特ニ招狀ヲ發シ其ノ招狀ヲ受ケタル後一週間内ニ仍故ナク出席セサル者ハ貴族院ニ於テハ其ノ出席ヲ停止シ上奏シテ勅裁ヲ請フヘク衆議院ニ於テハ之ヲ除名スヘシ

○議會並議院保護ノ件（明治二十二年十一月七日法律第二十八號）

議會並議員保護ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名　御璽

第一條　法律ヲ以テ組織シタル議會ニ對シ公然誹毀侮辱シタル者ハ二月以上二年以下ノ重禁錮ニ處シ十圓以上百圓以下ノ罰金ヲ附加ス但議會ノ告訴ヲ待テ其罪ヲ論ス

第二條　前條議會ノ議員ニ對シ其公務上ノ言論行爲ニ付公然誹毀侮辱シタル者又ハ議員ニ暴行ヲ加ヘタル者ハ一月以上一年以下ノ重禁錮ニ處シ五圓以上五十圓以下ノ罰金ヲ附加ス

第三條　議員其公務ヲ行フニ當リ暴行脅迫ヲ以テ其言論行爲ヲ妨害シタル者ハ四月以上四年以下ノ重禁錮ニ處シ五圓以上五十圓以下ノ罰金ヲ附加ス

第四條　議員ノ職ヲ辭セシムルノ目的又ハ其公務上ノ言論行爲ヲ妨害セントスル目的ヲ以テ議員ヲ脅迫シ又ハ恐嚇シタル者ハ十一日以上二月以下ノ重禁錮ニ處シ二圓以上二十圓以下ノ罰金ヲ附加ス但

被害者ノ告訴ヲ待テ其罪ヲ論ス

第五條　第二條第三條ノ罪ヲ犯シ因テ議員ヲ殴傷シタルハ者刑法殴打創傷ノ各本條ニ照シ一等ヲ加ヘ重キニ從テ處斷ス

○貴衆兩議院成立規則

（明治二十三年十月十日　勅令第二百二十號）

朕帝國議會初度ノ召集ニ際シ議院時ニ及テ自ラ其ノ規則ヲ定ムルノ困難ナルヲ顧念シ茲ニ必要ヲ認メ兩議院ノ爲ニ假ニ成立規則ヲ公布セシメ成立ノ際各議院ヲシテ遵依スル所アラシム

御名　御璽

貴族院成立規則

第一條　議員ハ召集ノ勅諭ニ指定シタル期日ノ午前九時貴族院ニ集會スヘシ

第二條　集會シタル議員ハ名刺ヲ事務局ニ通スヘシ

第三條　集會シタル議員總議員三分ノ一以上ニ充チタルトキハ議長ハ議長席ニ著クヘシ

第四條　議員ノ席次ハ皇族ヲ首席トシ其ノ席次ハ宮中ノ列次ニ依ル爵位ヲ有スル議員ヲ次席トシ其ノ席次ハ爵位次第ニ依ル其ノ他ノ議員ノ席次ハ年齢ニ依リ同年月ナルトキハ抽籤ヲ以テ之ヲ定ム

第五條　議長ハ書記官ヲシテ抽籤セシメ總議員ヲ九部ニ配分シ各部ニ號數ヲ附ス均分スルコト能ハサルトキハ第一部ヨリ以下每部一員ヲ加フヘシ

議長副議長ハ部員ノ中ニ入ラス

第六條　部屬ハ每會期ニ之ヲ定ム

臨時會ニ於テハ前會ノ部屬ヲ繼續スヘシ

第七條　各部ハ年長部員ヲ管理者トシ無名投票ヲ以テ部員中ヨリ部長一名ヲ互選シ其ノ最多數ヲ得タル者ヲ以テ當選人トス

最多數ヲ得タル者同數者二人以上アルトキハ年長ヲ取リ同年月ナルトキハ抽籤ヲ以テ之ヲ定ムヘシ

第八條　部長ハ部ノ事務ヲ整理ス

第九條　各部ハ部員中ヨリ理事一名ヲ互選ス

理事ノ互選ハ部長互選ノ例ニ同シ

第十條　理事ハ部長ヲ輔ケ部長故障アルトキハ之ヲ代理スヘシ

第十一條　部屬定マリタルトキハ議長ハ議院成立ノ由ヲ政府及衆議院ニ通報スヘシ

衆議院成立規則

第一條　議員ハ召集ノ勅諭ニ指定シタル期日ノ午前九時衆議院ニ集會スヘシ

第二條　集會シタル議員ハ當選證書ト俱ニ名刺ヲ事務局ニ通スヘシ書記官ハ當選人名簿ニ各員ノ當選證書ヲ對照スヘシ

第三條　午前十時ニ至リ集會者總議員三分ノ一ニ充チタルトキハ書記官長ハ議員ヲシテ議長候補者ノ選擧ヲ行ハシムヘシ

第四條　議長候補者ノ選擧ハ無名投票ヲ以テシ候補者三名ヲ連記スヘシ

第五條　議員ハ點呼ニ應シ議長席ノ前ニ設ケタル投票函ニ投票ヲ投入シ其ノ名刺ヲ名刺函ニ投入スヘシ

現在議員投票ヲ終リタルトキハ書記官長ハ投票函ノ閉鎖ヲ宣告スヘシ閉鎖宣告ノ後ハ投票スルコトヲ許サス

第六條　投票終リタルトキハ書記官長、書記官ト俱ニ議員ノ面前ニ於テ投票ノ數ヲ計算シ投票ノ數名

剩ノ數ニ超過シタルトキハ更ニ投票ヲ行ハシムヘシ

第七條　投票ノ點檢終リタルトキハ書記官長各候補者ノ得票ヲ議員ニ報告シ投票ノ過半數ヲ得タル者ヲ以テ當選人トス

第八條　投票ノ過半數ヲ得タル者ナキトキ又ハ過半數ヲ得タル者三人ニ滿タサルトキハ最多數ノ投票ヲ得タル者ニ就キ選擧スヘキ定員ノ倍數ヲ取リ決選投票ヲ行ヒ過半數ヲ得タル者ヲ以テ當選人トス

同數者二人以上アルトキハ年長ヲ取リ同年月ナルトキハ抽籤ヲ以テ之ヲ定ム

第九條　當選人ニシテ當選ヲ辞スル者アルトキハ更ニ其ノ選擧ヲ行フヘシ

第十條　議長候補者ノ選擧終リタルトキハ副議長候補者ノ選擧ヲ行フヘシ

副議長候補者ノ選擧ハ議長候補者選擧ノ例ニ同シ

第十一條　議長候補者ハ副議長候補者ニ選擧セラルヽコトヲ得

第十二條　選擧ニ付キ疑義ヲ生スルトキハ書記官長ハ集會シタル議員ニ諮ヒ之ヲ決スヘシ

第十三條　議長副議長ノ候補者定マリタルトキハ書記官長ハ內閣總理大臣ヲ經由シテ之ヲ奏上スヘシ

第十四條　議長副議長任命ノ翌日午前九時議員ハ議場ニ集會スヘシ

書記官長ハ議長及副議長ヲ議院ニ紹介シ議長ヲ導キテ議長席ニ著カシムヘシ

第十五條　議長ハ議長席ニ著キタルノ後書記官ヲシテ抽籤セシメ總議員ノ議席及部屬ヲ定ム

第十六條　議員ノ議席ハ每會期ニ之ヲ定メ各席ニ號數ヲ付ス

第十七條　議員ノ部屬ハ每會期ニ之ヲ定メ各部ニ號數ヲ付ス

總議員ヲ九部ニ配分シ均分スルコト能ハサルトキハ第一部ヨリ以下每部一員ヲ加フヘシ

議長副議長ハ部員ノ中ニ入ラス

第十八條　臨時會ニ於テハ前會ノ議席及部屬ヲ繼續スヘシ

第十九條　各部ハ年長部員ヲ以テ管理者トシ無名投票ヲ以テ部員中ヨリ部長一名ヲ互選シ其ノ最多數ヲ得タル者ヲ以テ當選人トス

最多數ヲ得タル者同數者二人以上アルトキハ年長ヲ取リ同年月ナルトキハ抽籤ヲ以テ之ヲ定ムヘシ

第二十條　部長ハ部ノ事務ヲ整理ス

第二十一條　各部ハ部員中ヨリ理事一名ヲ互選ス

理事ノ互選ハ部長互選ノ例ニ同シ

第二十二條　理事ハ部長ヲ輔ケ部長故障アルトキハ之ヲ代理スヘシ

第二十三條　議席及部屬定マリタルトキハ議長ハ議院成立ノ由ヲ政府及貴族院ニ通報スヘシ

第二十四條　議員一任期ノ第二會期以下ニ於テハ召集ノ期日午前十時ニ至リ議員總數三分ノ一ニ充チタルトキハ議席及部屬ヲ定メタル後議院成立ノ由ヲ政府及貴族院ニ通報スヘシ

○帝國議會議長副議長議員歲費及旅費支給規則（明治二十三年十月二十三日勅令第二百六十三號）

朕帝國議會議長副議長議員歲費及旅費支給規則ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名　御璽

第一條　帝國議會議長副議長及議員ノ歲費ハ每年七月ヨリ翌年六月ニ至ル十二箇月ヲ以テ一歲トシ計算ス

第二條　議長副議長及議員ノ歲費ハ其ノ前六箇月分ヲ帝國議會通常會開會ノ後三十日以內ニ其ノ後六箇月分ヲ閉會ノ後七日以內ニ支給ス

第三條　議長副議長ノ歲費ハ其ノ勅任セラレタル當月分ヨリ支給ス

議長副議長ニ勅任セラレタル議員ノ歳費ハ其ノ勅任セラレタル前月分マテ支給ス

第四條　貴族院勅任議員ノ歳費ハ其ノ勅任セラレタル當月分ヨリ支給ス但シ多額納税者ノ互選セラレタル者ハ其ノ互選セラレタル當月分ヨリ支給ス

第五條　議長副議長及議員退職辞職除名ノ場合ニ於テハ其ノ當月分マテヲ支給ス

第六條　衆議院解散ヲ命セラレタルトキハ其ノ議長副議長及議員ノ歳費ハ解散ヲ命セラレタル當月分マテヲ支給ス

第七條　衆議院解散ヲ命セラレタル後選擧セラレタル議員及補缺議員ノ歳費ハ其ノ選擧セラレタル當月分ヨリ支給ス

第八條　衆議院ノ議員貴族院ノ議員トナリタルトキ其ノ他如何ナル場合ヲ問ハス歳費ハ同一人ニ對シ重複支給セス

第九條　官吏ニシテ議員タル者官吏ヲ罷メタルトキハ其ノ當月分ヨリ議員ニシテ官吏ニ任セラレタル者仍議員タルトキハ其ノ當月分マテヲ支給ス

第十條　議長副議長及議員ノ旅費ハ別表定ムル所ニ從ヒ之ヲ支給ス官吏ニシテ議員タル者亦同シ

第十一條　旅費ハ當選區ノ何地ニ在ルヲ問ハス其ノ住居地ヨリ直路ノ里程ヲ計算シテ之ヲ支給ス

第十二條　議院ヲ距ル三里以内ノ地ニ住居スル者ハ何地ノ議員タルヲ問ハス旅費ヲ支給セス

第十三條　汽車旅行ハ一日二百哩陸路旅行ハ一日百海里陸路旅行ハ一日十二里陸ノ場合ヲ以テ直路ノ行程ニ應シ支給ス但シ一日ノ行程ニ滿タサル端數ハ切捨トス

第十四條　召集ニ應セサル議員ニハ事故ノ如何ヲ問ハス旅費ヲ支給セス

旅費表

汽車一哩ニ付		汽船一海里ニ付		車馬一里ニ付	
拾錢		拾錢		參拾錢	貳圓五拾錢

○貴族院事務局官制（明治二十三年七月十日勅令第百二十一號）

貴族院事務局官制ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名御璽

第一條　貴族院事務局ノ職員ハ左ノ如シ

書記官長　一人
書記官　二人
試補　二人
屬　二十人

第二條　書記官長ハ議長ノ指揮ニ依リ局中一切ノ事務ヲ監督ス

局中ノ分課及職員ノ配置ハ書記官長之ヲ定ム

第三條　書記官ハ書記官長ノ指揮監督ヲ承ケ議事記錄筆記印刷庶務會計等ニ關スル事務ヲ分掌ス

第四條　書記官長故障アルトキハ上席書記官其ノ職務ヲ代理ス

第五條　屬ハ判任トス書記官長ノ定ムル所ニ依リ各其ノ事務ニ從フ

○衆議院事務局官制（明治二十三年七月廿日勅令第百二十二號）

衆議院事務局官制ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名　御璽

第一條　衆議院事務局ノ職員ハ左ノ如シ

書記官長　　十人
書記官　　二人
試補　　二十人
属

第二條　書記官長ハ議長ノ指揮ニ依リ局中一切ノ事務ヲ監督ス
局中ノ分課及職員ノ配置ハ書記官長之ヲ定ム

第三條　書記官ハ書記官長ノ指揮監督ヲ承ケ議事記錄筆記印刷庶務會計等ニ關スル事務ヲ分掌ス

第四條　書記官長故障アルトキハ上席書記官其ノ職務ヲ代理ス

第五條　屬ハ判任トス書記官長ノ定ムル所ニ依リ各其ノ事務ニ從フ

○帝國議會ノ用ニ供スル官有財産ニ關スル件（明治廿四年二月二十三日 勅令第十五號）

朕帝國議會ノ用ニ供スル官有財産ニ關スル件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名　御璽

第一條　帝國議會ノ用ニ供スル官有財産ニ關スル行政事務ハ各院書記官長之ヲ掌ル

第二條　前條事務ノ指揮監督ハ內務大臣之ヲ行フ

○貴族院令（明治廿二年二月十一日 勅令第十一號）

朕大日本帝國憲法ノ明文ニ依リ樞密顧問ノ諮詢ヲ經テ貴族院令ヲ發布ス此ノ勅令ヲ實施スルノ時期ハ

朕カ更ニ命スル所ニ依ルヘシ

御名　御璽

第一條　貴族院ハ左ノ議員ヲ以テ組織ス

一　皇族
二　公侯爵
三　伯子男爵各〻其ノ同爵中ヨリ選擧セラレタル者
四　國家ニ勲勞アリ又ハ學識アル者ヨリ特ニ勅任セラレタル者
五　各府縣ニ於テ土地或ハ工業商業ニ付多額ノ直接國稅ヲ納ムル者ノ中ヨリ一人ヲ互選シテ勅任セラレタル者

第二條　皇族ノ男子成年ニ達シタルトキハ議席ニ列ス

第三條　公侯爵ヲ有スル者滿二十五歲ニ達シタルトキハ議員タルヘシ

第四條　伯子男爵ヲ有スル者ニシテ滿二十五歲ニ達シ各〻其ノ同爵ノ選ニ當リタル者ハ七箇年ノ任期ヲ以テ議員タルヘシ其ノ選擧ニ關ル規則ハ別ニ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

前項議員ノ數ハ伯子男爵各〻總數ノ五分ノ一ヲ超過スヘカラス

第五條　國家ニ勲勞アリ又ハ學識アル滿三十歲以上ノ男子ニシテ勅任セラレタル者ハ終身議員タルヘシ

第六條　各府縣ニ於テ滿三十歲以上ノ男子ニシテ土地或ハ工業商業ニ付多額ノ直接國稅ヲ納ムル者十五人ノ中ヨリ一人ヲ互選シ其ノ選ニ當リ勅任セラレタル者ハ七箇年ノ任期ヲ以テ議員タルヘシ其ノ選擧ニ關ル規則ハ別ニ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

○貴族院令

第七條　國家ニ勲勞アリ又ハ學識アル者及各府縣ニ於テ土地或ハ工業商業ニ付多額ノ直接國稅ヲ納ムル者ヨリ勅任セラレタル議員ハ有爵議員ノ數ニ超過スルコトヲ得ス

第八條　貴族院ハ天皇ノ諮詢ニ應ヘ華族ノ特權ニ關ル條規ヲ議決ス

第九條　貴族院ハ其ノ議員ノ資格及選擧ニ關ル爭訟ヲ判決ス其ノ判決ニ關ル規則ハ貴族院ニ於テ之ヲ議定シ上奏シテ裁可ヲ請フヘシ

第十條　議員ニシテ禁錮以上ノ刑ニ處セラレ又ハ身代限ノ處分ヲ受ケタル者アルトキハ勅命ヲ以テ之ヲ除名スヘシ

貴族院ニ於テ懲罰ニ由リ除名スヘキ者ハ議長ヨリ上奏シテ勅裁ヲ請フヘシ

除名セラレタル議員ハ更ニ勅許アルニ非サレハ再ヒ議員トナルコトヲ得ス

第十一條　議長副議長ハ議員中ヨリ七箇年ノ任期ヲ以テ勅任セラルヘシ

被選議員ニシテ議長又ハ副議長ノ任命ヲ受ケタルトキハ議員ノ任期間其ノ職ニ就クヘシ

第十二條　此ノ勅令ニ定ムルモノヽ外ハ總テ議院法ノ條規ニ依ル

第十三條　將來此ノ勅令ノ條項ヲ改正シ又ハ增補スルトキハ貴族院ノ議決ヲ經ヘシ

○貴族院伯子男爵議員選擧規則（明治廿二年六月四日　勅令第七十八號）

朕樞密顧問ノ諮詢ヲ經テ貴族院伯子男爵議員選擧規則ヲ裁可シ之ヲ公布セシム此ノ勅令ヲ實施スルノ時期ハ朕カ更ニ命スル所ニ依ルヘシ

御名　御璽

第一條　伯子男爵ヲ有スル成年以上ノ者ハ各〻其ノ同爵者ノ貴族院議員ヲ選擧ス

第二條　神官及諸宗ノ僧侶又ハ教師ハ被選人タルコトヲ得ス

第三條　左ノ項ノ一ニ觸ルヽ者ハ選擧人及被選人タルコトヲ得ス

一　癲癇白癡ノ者

二　身代限ノ處分ヲ受ケ負債ノ義務ヲ免レサル者

第四條　刑事ノ訴ヲ受ケ拘留又ハ保釋中ニ在ル者ハ其ノ裁判確定ニ至ルマテ選擧權ヲ行フコトヲ得ス及被選人タルコトヲ得ス

第五條　貴族院令第四條ニ依リ選ハルヘキ議員ノ數ハ選擧ヲ行フノ前勅命ヲ以テ之ヲ指定スヘシ

第六條　爵位局長官ハ選擧ノ期日ヨリ五十日前ニ選擧資格ヲ有スル伯子男爵ノ人名簿ヲ各別ニ調製シ選擧資格ヲ有スル同爵者ニ配付シ三十日前ニ之ヲ確定シテ各選擧管理者ニ交付スヘシ

第七條　選擧ハ伯子男爵ノ選擧資格ヲ有スル者ヨリ各〻一人ノ選擧管理者ヲ互選シテ之ヲ管理セシム選擧管理者ハ貴族院令第四條ニ依リ議員ノ更任アル毎ニ之ヲ改選スヘシ

第八條　各選擧管理者ハ選擧人ノ中ヨリ各〻其ノ同爵ノ選擧立會人三人以上ヲ指定シテ選擧會場ニ參會セシムヘシ

第九條　選擧ハ七月十日東京ニ於テ之ヲ行フ

第十條　選擧人ハ自ラ選擧會場ニ至リ投票スヘシ

投票ハ被選人ノ爵姓名ヲ列記シ次ニ自己ノ爵姓名ヲ記載スヘシ

第十一條　選擧人東京府ノ外ニ居住シ又ハ疾病事故ニ因リ選擧會場ニ至ルコト能ハサルトキハ同爵中ノ他ノ選擧人ニ投票ヲ委託スルコトヲ得

○貴族院令

前項ノ場合ニ於テハ投票ヲ封緘シ其ノ表面ニ記名捺印シ委託ノ證狀ト共ニ委託ヲ受クル者ニ送付スヘシ

第十二條　投票ノ最多數ヲ得タル者ヲ以テ當選人トス

投票同數ナルトキハ生年月ノ長者ヲ以テ當選人トス同年月ナルトキハ抽籤ヲ以テ之ヲ定ムヘシ

第十三條　前數條ニ掲ケタル者ノ外選擧ニ關ル一切ノ規程ハ選擧資格ヲ有スル伯子男爵ノ協議ヲ以テ之ヲ定ムヘシ

第十四條　當選人確定シタルトキハ選擧管理者ハ其ノ爵姓名ヲ上奏シ併セテ貴族院議長ニ報告スヘシ

第十五條　選擧者管理者ハ選擧明細書ヲ作リ選擧ニ關ル一切ノ事項ヲ記載シ立會人ト共ニ署名捺印シ其ノ副本ヲ貴族院ニ送致スヘシ

第十六條　議員ニ闕員ヲ生シタルトキハ議長ヨリ之ヲ上奏シ勅旨ヲ以テ補闕選擧ヲ行フヘキコトヲ命シ及其ノ期日ヲ指定スヘシ

補闕選擧ヲ行フノ手續ハ通常選擧ノ例ニ同シ

第十七條　補闕議員ノ任期ハ前議員ノ任期ニ依ル

第十八條　貴族院令第九條ニ依リ貴族院ニ出訴スルノ期限ハ貴族院開會ノ後十日以内トス

第十九條　選擧ニ關ル費用ハ同爵者ノ支辨タルヘシ

○貴族院多額納稅者議員互選規則

（明治二十二年六月四日　勅令第七十九號）

朕樞密顧問ノ諮詢ヲ經テ貴族院多額納稅者議員互選規則ヲ裁可シ之ヲ公布セシム此ノ勅令ヲ實施スルノ時期ハ朕カ更ニ命スル所ニ依ルヘシ

御名　御璽

第一條　貴族院令第六條ニ依リ貴族院議員ヲ互選スル者ハ互選名簿調製ノ期日ヨリ前滿一年以上其ノ府縣内ニ於テ本籍ヲ定メ住居シ多額ノ直接國稅ヲ納メ仍引續キ住居シ及納稅スル者タルヘシ

第二條　家督ニ由リ財産ヲ相續シタル者ハ其財産ニ付前財産主ノ納稅額ヲ以テ其ノ納稅資格ニ算入スヘシ

第三條　神官及諸宗ノ僧侶又ハ教師ハ互選人タルコトヲ得ス

第四條　左ノ項ノ一ニ觸ル、者ハ互選人タルコトヲ得ス

一　瘋癲白痴ノ者

二　公權ヲ剝奪セラレタル者又ハ停止中ノ者

三　禁錮ノ刑ニ處セラレ滿期ノ後又ハ赦免ノ後滿三年ヲ經サル者

四　舊法ニ依リ懲役ノ刑ニ處セラレ滿期ノ後又ハ赦免ノ後滿三年ヲ經サル者

五　賭博犯ニ由リ處刑ヲ受ケ滿期ノ後又ハ赦免ノ後滿三年ヲ經サル者

六　衆議院議員ノ選擧ニ關ル犯罪ニ依リ選擧權及被選權ノ停止中ノ者

第五條　陸海軍軍人ハ現役中互選人タルコトヲ得ス其ノ休職停職ニ在ル者亦同シ

第六條　刑事ノ訴ヲ受ケ拘留又ハ保釋中ニ在ル者ハ其ノ裁判確定ニ至ルマテ互選人タルコトヲ得ス

第七條　互選人選擧ニ關リ輕罪以上ノ罪ヲ犯シタルトキハ互選名簿ヨリ除名セラルヘシ

第八條　府縣知事ハ選擧ヲ行フノ年四月一日ヲ期トシ其ノ府縣ニ於テ互選資格ヲ有スル者十五人ノ名簿ヲ調製スヘシ

互選名簿ハ互選人ノ姓名、職業、身分、住所、生年月、土地或ハ工業商業ニ付納ムル所ノ直接國稅ノ細別及總額並ニ納稅地ヲ記載スヘシ

第九條　納稅同額ノ者アルトキハ生年月ノ長者ヲ先ニシ同年月ノ者ハ抽籤ヲ以テ之ヲ定ムヘシ

第十條　府縣知事ハ四月二十日マテニ互選名簿ヲ各互選人ニ配付シ併セテ之ヲ管内ニ告示スヘシ

第十一條　互選資格ヲ得ヘキ者ニシテ自ラ互選名簿ニ記載セラレサルコトヲ發見シタルトキハ告示ノ後十五日以内ニ其ノ理由書及證據ヲ具ヘテ府縣知事ニ申立ツルコトヲ得

凡テ互選資格ヲ得タル者ハ互選資格ヲ得ヘカラサル者ノ互選名簿ニ記載セラレタルコトヲ發見シタルトキハ前項ノ手續ニ依リ改正ヲ求ムルコトヲ得

期限ヲ經過シタル後申立ヲ爲スモ其ノ効ナシ

第十二條　府縣知事前條ノ申立ヲ受ケタルトキハ之ヲ受ケタル日ヨリ二十日以内ニ判定スヘシ判定ノ結果ニ依リ名簿ヲ改正シタルトキハ其ノ由ヲ關係人ニ通知シ併セテ管内ニ告示スヘシ

第十三條　互選名簿ハ六月一日ヲ以テ確定期限トス

第十四條　選擧ハ六月十日府縣廳ニ於テ之ヲ行ヒ府縣知事又ハ其ノ代理者之ヲ管理ス

第十五條　府縣知事ハ投票ノ時刻ヲ定メ遲クトモ選擧ノ前日ヨリ七日前ニ各互選人ニ通知書ヲ發スヘシ

第十六條　互選人ハ自ラ選擧會場ニ至リ投票スヘシ

投票ハ被選人ノ姓名ヲ記載シ次ニ自己ノ姓名ヲ記載スヘシ

第十七條　互選人疾病事故ニ因リ選擧會場ニ至ルコト能ハサルトキハ醫師ノ診斷書又ハ事由書ヲ具ヘ投票ヲ封緘シ其ノ表面ニ記名捺印シテ之ヲ他ノ互選人ニ委託スルコトヲ得

第十八條　投票終ルノ後選擧管理者ハ互選人ノ面前ニ於テ投票ヲ點檢シ其ノ結果ヲ告知スヘシ但シ當選人其ノ場ニ在ラサルトキハ文書ヲ以テ速ニ其ノ由ヲ本人ニ通知スヘシ

第十九條　投票效力ノ有無ニ付疑義アルトキハ選擧管理者之ヲ決定ス

第二十條　投票ノ最多數ヲ得タル者ヲ以テ當選人トス

投票同數ナルトキハ生年月ノ長者ヲ以テ當選人トス同年月ナルトキハ抽籤ヲ以テ之ヲ定ムヘシ

第二十一條　當選人ニシテ其ノ當選ヲ辭スルトキハ次ノ投票多數ヲ得タル者ヲ以テ當選人トスヘシ

當選人當選ヲ辭スルコトヲ得ルハ選擧ノ日ヨリ十日以内ニ限ル

第二十二條　當選人確定シタルトキハ府縣知事ハ當選人ノ資格及選擧ノ顛末ヲ錄シテ内閣總理大臣ニ報告スヘシ

第二十三條　選擧管理者ハ選擧明細書ヲ作リ選擧ニ關ル一切ノ事項ヲ記載シ署名捺印シ其ノ副本ヲ貴族院ニ送致スヘシ

第二十四條　議員ニ闕員ヲ生シタルトキハ議長ヨリ之ヲ上奏シ勅旨ヲ以テ補闕選擧ヲ行フヘキコトヲ其ノ府縣ニ命スヘシ

補闕選擧ヲ行フノ時期及手續ハ通常選擧ノ例ニ同シ

第二十五條　補闕議員ノ任期ハ前議員ノ任期ニ依ル

第二十六條　貴族院令第九條ニ依リ貴族院ニ出訴スルノ期限ハ開會ノ後十日以内トス

○貴族院令並伯子男爵及ヒ多額納稅者議員選擧規則施行ノ詔勅（明治廿三年二月廿七日）

朕謹ニ公布セシムル所ノ貴族院令並ニ貴族院伯子男爵議員選擧規則及貴族院多額納稅者議員互選規則ヲ本年ヨリ施行スルコトヲ命ス但シ未タ一般ノ地方制度ヲ施行セサル北海道沖縄縣及小笠原島ニ於テハ仍貴族院多額納稅者議員互選規則施行ノ効力ヲ及ホサス

貴族院令第四條ニ依リ伯子男爵ハ本年ノ選擧期ニ於テ各々左ノ員數ヲ選擧スヘシ

伯爵　十五人

子爵　七十人
男爵　二十人

御名　御璽

○貴族院多額納稅者議員互選規則取扱方（明治二十三年三月十日　內務省訓令第七號）

高知沖縄縣ヲ除ク

明治二十二年六月勅令第七十九號貴族院多額納稅者議員互選規則取扱方左之通心得ヲルハシ

第一條　貴族院令第六條ニ滿三十歲トアルハ其選擧期日（六月十日）前滿三十歲ニ達スル者ヲ指ス

第二條　互選規則第一條ニ其府縣內ニ於テ本籍ヲ定メ住居トアルハ衆議院議員選擧法施行規則第二條ノ例ニ異ナラス

第三條　互選規則第一條ニ多額ノ直接國稅トアルハ地租及土地又ハ工業商業ノ利益ヨリ生スル所得納稅額而已ヲ合算シテ名簿調製ノ期日（四月一日）前滿一年以上多額ノ直接國稅ヲ納メ勾引續キ納ムルモノヲ云

第四條　賣買讓與ニ依リ土地所有權移轉ノ場合ニ於テ其所有ノ年限及買入地ノ地租及數人共有ノ土地ヨリ納ムル地租ノ計算方及互選規則第三條ニ神官及諸宗ノ僧侶又ハ敎師トアルハ凡テ衆議院議員選擧法施行規則第三條第二項及同則第四條第五條第九條ノ例ニ異ナラス

第五條　貴族院令第六條ニ多額ノ直接國稅ヲ納ムル者トアル中ニハ華族（公侯爵ヲ除ク）ノ當主ヲモ包含ス

第六條　貴族院令第六條ニ云フ其選ニ當リ勅任セラレタル者ハ其任期中納稅額ノ減スルコトアルモ同令第十條ノ場合ニアラサレハ其議員ノ資格ヲ失ハサルハ勿論ナリトス

第七條　互選ニ關スル費用ハ府縣費ノ支拂ニ屬ス

○貴族院議員資格及ヒ選擧爭訟判決規則（明治二十三年十月十日　勅令第二百二十一號）

貴族院開會ノ始ニ於テ資格及選擧ニ關ル爭訟ヲ判決スルノ緊要ニ屬シ而シテ時ニ及テ自リ其ノ規則ヲ定ムルノ困難ナルヲ顧念シ茲ニ勅令ニ由リ貴族院議員資格及選擧爭訟判決規則ヲ公布セシム此ノ勅令ハ貴族院ニ於テ規則ヲ制定シテ更ニ裁可ヲ經ルマテノ間效力ヲ有スヘシ

御名　御璽

第一條　貴族院ハ每會期ノ始ニ於テ貴族院議員ノ資格及選擧ニ關ル爭訟ヲ審査スル爲ニ常任委員ヲ選擧スヘシ

第二條　伯子男爵議員ノ各選擧人又ハ多額納稅者議員ノ互選人貴族院令第九條ニ依リ出訴スル者ハ當選議員ヲ被告トスヘシ

第三條　原告人ハ訴狀及其ノ副本一通ヲ作リ之ヲ議長ニ差出スヘシ議長訴狀ヲ受取リタルトキハ之ヲ資格審査委員ニ付ス

第四條　訴狀ニハ請求ノ要領理由及立證ヲ具ヘ原告人自ラ署名スヘシ

第五條　資格審査委員ハ訴狀ノ副本ヲ被告人ニ送達シ期日ヲ定メ被告人ヲシテ答辯書及其ノ副本一通ヲ差出サシメ其ノ副本ハ之ヲ原告人ニ送達スヘシ

委員ハ必要ト認ムルトキハ原告被告ヲシテ更ニ辯駁書及再答辯書ヲ差出サシムルコトヲ得

第六條　原告被告ハ郵便ヲ以テ文書ヲ差出スコトヲ得郵便到達ノ日數ハ期限ニ算入セス

第七條　資格審査委員ハ議長ヲ經由シテ議員ノ選擧ニ關ル證據文書ヲ政府ニ要求スルコトヲ得

第八條　審査ノ結果ニ因リ刑法ニ觸ルヽノ事件ヲ發見シタルトキハ議長ヨリ之ヲ司法大臣ニ通告スヘシ但シ之カ爲ニ審査及判決ヲ中止セス

○貴族院令

第九條　被告人期日内ニ答辯書ヲ差出サヽルトキハ資格審査委員ハ直チニ審査ノ結果ヲ報告スルコトヲ得

天災事變ニ因リ期日内ニ答辯書ヲ差出スコト能ハサリシコトヲ證明スル者アルトキハ議長ハ更ニ期日ヲ定メ之ヲ差出サシムルコトヲ得

第十條　資格審査委員其ノ審査報告ヲ議長ニ提出シタルトキハ議長之ヲ各議員ニ配付シタル後議院ニ付スヘシ

第十一條　議院ニ於テ判決シタルトキハ議長ハ書記官長ヲシテ其ノ議事錄ニ依リ議決ノ謄本ヲ作ラシメ之ヲ原告被告ニ送達スヘシ

議院ノ判決ハ理由ヲ付セス

第十二條　貴族院ニ於テ議員ノ當選又ハ資格ヲ不法ト判決シタルトキハ議長ハ其ノ位列ヲ停止シテ奏上スヘシ

第十三條　被告議員ハ前條ノ判決ヲ受クルマテ議院ニ於テ位列及發言ノ權ヲ失ハス但シ自己ニ關ル爭訟ニ付テハ自己又ハ他ノ議員ニ託シ辯明スルコトヲ得ルモ其ノ表決ニ預カルコトヲ得ス

被告議員ハ自己ニ關ル爭訟ニ付テハ委員會ニ參スルコトヲ得ス

第十四條　補闕議員ハ選擧開院中ニ在ルトキハ伯子男爵ニ在テハ當選確定ノ後多額納稅者ニ在テハ勅任セラレタル後十日ヲ以テ出訴ノ期限トス

前項ノ期限ニ滿タスシテ議院閉會セラレ出訴スルコト能ハサルトキハ仍次會期ノ開會後十日以内ニ出訴スルコトヲ得

第十五條　議員他ノ議員ノ資格ニ對シ異議ヲ申立ツル者アルトキハ第三條第四條第五條第七條第六條第十條第十一條第十二條第十三條ノ例ニ依リ審査及判決スヘシ但シ此ノ場合ニ於テハ貴族院伯子男爵議員選擧規則第十八條及貴族院多額納稅者議員互選規則第二十六條ニ掲ケタル期限ノ限ニ在ラス

○衆議院議員選擧法（明治二十二年二月十一日法律第三號）

朕樞密顧問ノ諮詢ヲ經テ衆議院議員選擧法及附錄ヲ裁可シ之ヲ公布セシメ併セテ帝國議會ヲ召集スルノ年ヨリ本法ニ依リ選擧ヲ施行セシムヘキコトヲ命ス

御名　御璽

第一章　選擧區畫

第一條　衆議院ノ議員ハ各府縣ノ選擧區ニ於テ之ヲ選擧セシム其ノ選擧區及各選擧區ニ於テ選擧スヘキ定員ハ此ノ法律ノ附錄ヲ以テ之ヲ定ム

第二條　府縣知事ハ其ノ府縣ノ選擧區ノ選擧ヲ監督ス

一選擧區ノ選擧ハ郡長又ハ市長其ノ選擧長トナリ之ヲ管理ス

第三條　一選擧區ニシテ數郡市ニ渉ルトキハ府縣知事ハ其ノ郡長又ハ市長ノ一人ヲ命シ選擧長タラシムヘシ

第四條　一市ノ域内ニ於テ數選擧區アルトキハ府縣知事ハ區長ヲシテ其ノ選擧長タラシムヘシ

第五條　選擧ニ關ル費用ハ地方稅ヲ以テ支辨スヘシ

第二章　選擧人ノ資格

第六條　選擧人ハ左ノ資格ヲ備フルコトヲ要ス

第一　日本臣民ノ男子ニシテ年齡滿二十五歲以上ノ者

第二　選擧人名簿調製ノ期日ヨリ前滿一年以上其ノ府縣內ニ於テ本籍ヲ定メ住居シ仍引續キ住居スル者

第三　選擧人名簿調製ノ期日前滿一年以上其ノ府縣內ニ於テ直接國稅十五圓以上ヲ納メ仍引續キ納ムル者

但シ所得稅ニ付テハ人名簿調製ノ期日ヨリ前滿三年以上之ヲ納メ仍引續キ納ムル者ニ限ル

第七條　家督ニ由リ財產ヲ相續シタル者ハ其ノ財產ニ付前財產主ノ納稅額ヲ以テ其ノ納稅資格ニ算入ス

第三章　被選人ノ資格

第八條　被選人タルコトヲ得ル者ハ日本臣民ノ男子滿三十歲以上ニシテ選擧人名簿調製ノ期日ヨリ前滿一年以上其ノ選擧府縣內ニ於テ直接國稅十五圓以上ヲ納メ仍引續キ納ムル者タルヘシ

但シ所得稅ニ付テハ人名簿調製ノ期日ヨリ前滿三年以上之ヲ納メ仍引續キ納ムル者ニ限ル

第九條　宮內官裁判官會計檢查官收稅官及警察官ハ被選人タルコトヲ得ス

前項ノ外ノ官吏ハ其ノ職務ニ妨ケサル限ハ議員ト相兼ヌルコトヲ得

第十條　府縣及郡ノ官吏ハ其ノ管轄區域內ニ於テ被選人タルコトヲ得ス

第十一條　選擧ノ管理ニ關係スル市町村ノ吏員ハ其ノ選擧區ニ於テ被選人タルコトヲ得ス

第十二條　神官及諸宗ノ增倡又ハ教師ハ被選人タルコトヲ得ス

第十三條　府縣會ノ議員ニシテ衆議院ノ議員ニ選擧セラレ當選ヲ承諾シタルトキハ其ノ前職ヲ辭スヘキモノトス

第四章　選擧人及被選人ニ通スル規定

第十四條　左項ノ一ニ關ルヿ者ハ選擧人及被選人タルコトヲ得ス

一　癲癇白痴ノ者

二　身代限ノ處分ヲ受ケ負債ノ義務ヲ免レサル者

三　公權ヲ剝奪セラレタル者又ハ停止中ノ者

四　禁錮ノ刑ニ處セラレ滿期ノ後又ハ赦免ノ後滿三年ヲ經サル者

五　舊法ニ依リ一年以上ノ懲役若ハ國事犯禁錮ノ刑ニ處セラレ滿期ノ後又ハ赦免ノ後滿三年ヲ經サル者

六　賭博犯ニ由リ處刑ヲ受ケ滿期ノ後又ハ赦免ノ後滿三年ヲ經サル者

七　選擧ニ關ル犯罪ニ由リ選擧權及被選權ノ停止中ノ者

第十五條　陸海軍軍人ハ現役中選擧權ヲ行フコトヲ得ス及被選人タルコトヲ得ス其ノ休職停職ニ在ル者亦同シ

第十六條　華族ノ當主ハ衆議院議員ノ選擧人及被選人タルコトヲ得ス

第十七條　刑事ノ訴ヲ受ケ拘留又ハ保釋中ニ在ル者ハ其ノ裁判確定ニ至ルマテ選擧權ヲ行フコトヲ得ス及被選人タルコトヲ得ス

第五章　選擧人名簿

第十八條　選擧長ハ每年四月一日ヲ期トシ各町村長ヲシテ一ノ投票區域內ニ於テ選擧資格ヲ有スル者ヲ調査シ人名簿二本ヲ調製シ同月二十日マテニ其ノ一本ヲ差出サシムヘシ選擧人名簿ハ選擧人ノ姓名官位職業身分住所生年月納ムル所ノ直接國稅ノ總額竝ニ納稅地ヲ記載スヘシ

第十九條　市ニ於テハ左ノ方法ニ依リ選擧人名簿ヲ調製スヘシ

第一　一市又ハ市内ノ一區ヲ以テ一選擧區ト爲シタル場合ニ於テハ選擧長其ノ人名簿ヲ調製スヘシ

第二　市内ニアル數區ヲ合シテ一選擧區ト爲シタル場合ニ於テハ各區長ヲシテ其ノ區内ノ人名簿ヲ調製シ選擧長ニ差出サシムヘシ

第三　郡市ヲ合シテ一選擧區ト爲シタル場合ニ於テハ郡長其ノ選擧長トナリタルトキハ市長ヲシテ其ノ人名簿ヲ調製シ之ヲ差出サシムヘシ

第四　第三ノ場合ニ於テ市長其ノ選擧長トナリタルトキハ市長其ノ市内ノ人名簿ヲ調製スヘシ

第二十條　選擧人其ノ住居スル投票區域ノ外ニ於テ直接國稅ヲ納ムルトキハ納稅地ノ町村長又ハ市長若ハ區長ノ證狀ヲ得テ選擧人名簿調製ノ期日マテニ其ノ投票ヲ管理スル町村長又ハ市長若ハ區長ニ差出スヘシ

第二十一條　選擧長ハ各町村長又ハ市長若ハ區長ヨリ差出シタル選擧人名簿ヲ合シ一選擧區ヲ以テ一冊トシ選擧管理ノ郡役所又ハ市役所若ハ區役所ニ備置キ其ノ副本ヲ府縣知事ニ送致スヘシ

第二十二條　選擧長ハ毎年五月五日ヨリ十五日間一選擧區選擧人名簿ノ寫ヲ其ノ選擧管理ノ郡役所又ハ市役所若ハ區役所ニ於テ縱覽セシムヘシ

第二十三條　凡テ選擧資格アル者選擧人名簿ニ於テ人名ノ脫漏又ハ誤載アルコトヲ發見シタルトキハ其理由書及證據ヲ具ヘテ縱覽期限内ニ選擧長ニ申立テ其ノ改正ヲ求ムルコトヲ得

縱覽期限ヲ經過シタル後前項ノ申立ヲ爲スモ其ノ効ナシ

第二十四條　選擧長ニ於テ脫漏ノ申立ヲ受ケタルトキハ其ノ理由及證據ヲ審査シ申立ヲ受ケタル日ヨリ二十日以内ニ乏ヲ判定スヘシ若其ノ申立ヲ以テ正當ナリト判定シタルトキハ直ニ其ノ人名ヲ記載シ其ノ由ヲ當人所在地ノ町村長又ハ市長若ハ區長ニ通知シ併セテ選擧區内ニ告示スヘシ

第二十五條　選擧長ニ於テ誤載ノ申立ヲ受ケタルトキハ其ノ理由及證據ヲ審査シ必要ナル場合ニ於テハ申立人又ハ被告人ヲ召喚審問シ申立ヲ受ケタル日ヨリ二十日以内ニ乏ヲ判定スヘシ若誤載ナリト判定シタルトキハ直ニ乏ヲ削除シ其ノ由ヲ被告人所在地ノ町村長又ハ市長若ハ區長ニ通知シ併セテ選擧區内ニ告示スヘシ

第二十六條　申立人又ハ被告人ニ於テ選擧長ノ判定ニ服セサルトキハ選擧長ヲ被告トシ判定ノ日ヨリ七日以内ニ始審裁判所ニ出訴スルコトヲ得

第二十七條　始審裁判所ニ於テ前條ノ訴訟ヲ受取リタルトキハ他ノ訴訟ノ順序ニ拘ラス速ニ其ノ裁判ヲ爲スヘシ

第二十八條　前條ニ於ケル始審裁判所ノ裁判ハ控訴スルコトヲ許サス但シ大審院ニ上告スルコトヲ得

第二十九條　選擧人名簿ハ六月十五日ヲ以テ確定期限トシ次年ノ調製ノ日マテ之ヲ掲載クヘシ但シ裁判言渡書ニ依リ改正スヘキモノハ選擧長ニ於テ其ノ言渡書ヲ受取リタル時ヨリ二十四時内ニ乏ヲ改正シ其ノ由ヲ申立人又ハ被告人所在地ノ町村長又ハ市長若ハ區長ニ通知シ併セテ選擧區内ニ告示スヘシ

第六章　選擧ノ期日及投票所

第三十條　選擧ノ投票ハ通常七月一日ニ乏ヲ行フ但シ衆議院解散ヲ命セラレタルトキハ場合ヲ以テ隨時選擧ノ期日ヲ定メ少クトモ三十日以前ニ公布スヘシ

第三十一條　投票所ハ町村役場又ハ町村長ノ指定シタル場所ニ於テ乏ヲ設ケ町村長乏ヲ管理ス

第三十二條　一町村ニ於テ選擧人少數ニシテ一ノ投票所ヲ設クルニ足ラサルトキハ數町村ヲ合併スル

コトヲ得

此ノ場合ニ於テハ郡長ハ府縣知事ノ認可ヲ經テ合併ノ町村及投票所並ニ投票所管理ノ町村長ヲ指定スヘシ

第三十三條　町村長ハ其ノ管理スル投票區域内ニ於ケル選擧人中ヨリ立會人二名以上五名以下ヲ定メ選擧ノ期日ヨリ三日以前ニ之ヲ本人ニ通知シ選擧ノ當日投票所ニ參會セシムヘシ

立會人ハ正當ノ事故ナクシテ其ノ職ヲ辭スルコトヲ得ス

第七章　投票

第三十四條　投票ハ午前七時ニ始メ午後六時ニ終ル

第三十五條　投票函ハ二重ノ蓋ヲ造リ二種ノ鎖ヲ設ケ其一ハ町村長之ヲ管守シ其ノ一ハ立會人之ヲ管守スヘシ

第三十六條　町村長ハ投票ノ初ニ當リ立會人ト共ニ參會シタル選擧人ノ面前ニ於テ投票函ヲ開キ其ノ空虛ナルコトヲ示スヘシ

第三十七條　選擧人ハ選擧ノ當日本人自ラ投票所ニ至リ選擧人名簿ノ對照ヲ經テ投票スヘシ

第三十八條　投票用紙ハ各府縣各〻一定ノ式ヲ用ヰ選擧ノ當日投票所ニ於テ町村長ヨリ之ヲ各選擧人ニ交付スヘシ

選擧人ハ投票所ニ於テ投票用紙ニ被選人ノ姓名ヲ記載シ次ニ自己ノ姓名住所ヲ記載シテ捺印スヘシ

第三十九條　選擧人ニシテ文字ヲ書スルコト能ハサル由ヲ申立ツルトキハ町村長ハ吏員ヲシテ代書セシメ之ヲ本人ニ讀ミ聞カセ捺印投票セシメ其ノ由ヲ投票明細書ニ記載スヘシ

第四十條　二人以上ノ議員ヲ選擧スヘキ選擧區ニ於テハ連名投票ヲ用ウヘシ

第四十一條　選擧人名簿ニ記載セラレタル者ノ外投票スルコトヲ得ス但シ投票人名簿ニ記載セサルヘキ我判官渡書ヲ所持シ選擧ノ當日投票所ニ至ル者アルトキハ町村長ハ投票用紙ヲ交付シ投票セシメ其ノ由ヲ投票明細書ニ記載スヘシ

第四十二條　投票終ルノ時期ニ至リタルトキハ町村長ハ其ノ由ヲ告ケ投票函ヲ閉鎖スヘシ投票函閉鎖ノ後ハ總テ投票スルコトヲ許サス

第四十三條　町村長ハ投票明細書ヲ作リ投票ニ關ル一切ノ事項ヲ記載シ立會人ト共ニ署名スヘシ

第四十四條　町村長ハ一名又ハ數名ノ立會人ト共ニ投票ノ翌日投票函及投票明細書ヲ併セテ選擧管理ノ郡役所又ハ市役所若ハ區役所ニ送致スヘシ

第四十五條　一選擧區内ニアル島嶼ニシテ前條ノ期限内ニ投票函ヲ送致スルコト能ハサル情況アルトキハ府縣知事ハ人名簿確定ノ日ヨリ選擧ノ期日マテノ間ニ於テ適宜ニ其ノ投票ノ期日ヲ定メ選擧會ノ期日マテニ其ノ投票函ヲ送致セシムルコトヲ得

第八章　選擧會

第四十六條　選擧會ハ選擧管理ノ郡役所又ハ市役所若ハ區役所ニ於テ之ヲ開ク

第四十七條　選擧長ハ各投票所ヨリ參會シタル立會人ノ中ヨリ抽籤ヲ以テ選擧委員三名以上七名以下ヲ定ムヘシ

第四十八條　選擧長ハ投票函送達ノ翌日選擧委員立會ノ上各投票函ヲ開キ投票ノ總數ト投票人ノ總數トヲ計算スヘシ若投票ト投票人トノ總數ニ差異ヲ生シタルトキハ其ノ由ヲ選擧明細書ニ記載スヘシ

第四十九條　總數ノ計算ヲ終リタルトキハ選擧長ハ選擧委員ト共ニ投票ヲ點檢スヘシ

第五十條　各選擧區ノ選擧人ハ其ノ選擧會ニ參觀ヲ求ムルコトヲ得

第五十一條　左ニ掲クル投票ハ無効トス

一　選擧人名簿ニ記載ナキ者ノ投票但シ裁判言渡書ヲ所持シタルニ依リ投票シタル者ハ此ノ限ニ在ラス

二　成規ノ用紙ヲ用ヰサルモノ

三　投擧人自己ノ姓名ヲ記載セサルモノ

四　資格ナキ被選人ノ姓名ヲ記載スルモノ但シ連名投票ニ列記スル人員中資格アル者ニ付テハ其ノ効アルモノトス

五　誤字又ハ汚染塗抹毀損ニ依リ記載スル所ノ選擧人又ハ被選人ノ姓名ヲ認知スヘカラサルモノ但シ通常ノ假名字ヲ用ヰ又ハ誤字ニ係ルモ明ニ其ノ姓名ヲ認知スルコトヲ得ルモノハ此ノ限ニ在ラス

六　第三十八條第二項ニ規定シタル外他ノ文字ヲ記載シタルモノ但シ被選人ノ指名ヲ誤ラサル爲ニ其ノ官位職業身分住所ヲ附記シ又ハ敬稱ヲ用ヰタルモノハ此ノ限ニ在ラス

第五十二條　投票効力ノ有無ニ付疑義アルトキハ選擧委員ノ意見ヲモ聞キ選擧長之ヲ決定ス此ノ決定ニ對シテハ選擧會場ニ於テ異議ヲ申立ツルコトヲ得ス

第五十三條　無効ノ投票ハ抹線ヲ加ヘ其ノ由ヲ選擧明細書ニ記載シ一箇年間保存シ期限ヲ經過シタル後之ヲ燒棄ツヘシ

第五十四條　一投票ニシテ其ノ選擧スヘキ定員ヨリ多キ被選人ノ姓名ヲ記載シタルトキハ其ノ定員ニ超ヘタル人名ヲ末尾ヨリ除却スヘシ

連名投票ニシテ其ノ選擧スヘキ定員ニ足ラサルトキハ現ニ記載シタル者ノミヲ計算スヘシ但シ一人ノ姓名ヲ複記シタル者ハ一人ニテ之ヲ計算スヘシ

第五十五條　投票ハ六十日間郡役所又ハ市役所若ハ區役所ニ保存シ期限ヲ經過シタル後之ヲ燒棄ツヘシ

第五十六條　選擧ニ關リ訴訟又ハ告訴告發アルトキハ第五十三條第五十五條ノ期限ヲ經過スルモ裁判確定ニ至ルマテ其ノ投票ヲ保存スヘシ

第五十七條　選擧長ハ選擧明細書ヲ作リ選擧點檢ニ關ル一切ノ事項ヲ記載シ選擧委員ト共ニ署名シ之ヲ保存スヘシ

第九章　當選人

第五十八條　投票總數ノ最多數ヲ得タル者ハ之ヲ當選人トス

投票同數ナルトキハ生年月ノ長者ヲ以テ當選人トス同年月ナルトキハ抽籤ヲ以テ之ヲ定ムヘシ

第五十九條　當選人定マリタルトキハ選擧長ハ直ニ其ノ姓名及投票ノ數ヲ府縣知事ニ届出ヘシ

第六十條　府縣知事前條ノ届出ヲ受ケタルトキハ各當選人ニ通知シ其ノ姓名ヲ管内ニ告示スヘシ

第六十一條　當選人當選ノ通知ヲ受ケタルトキハ其ノ當選ヲ承諾スルヤ否ヲ府縣知事ニ届出ヘシ

第六十二條　一人ニシテ數選擧區ノ當選人トナリタル者當選ノ通知ヲ受ケタルトキハ何レノ選擧區ノ當選ヲ承諾スル旨ヲ府縣知事ニ届出ヘシ

第六十三條　當選人其ノ府縣内ニ在ル者ハ十日以内其ノ府縣外ニ在ル者ハ二十日以内ニ當選承諾ノ届出ヲ爲サヽルトキハ其ノ當選ヲ辞シタルモノト見做スヘシ

第六十四條　當選人ニシテ其ノ當選ヲ辞シ又ハ期限内ニ其ノ當選ノ承諾ヲ届出サルトキハ府縣知事ハ選擧ノ期日ヲ定メ其ノ選擧長ニ命シ再ヒ選擧ヲ行ハシムヘシ但シ第五十八條第二項ノ場合ニ於テ抽

籤ニ依リ當選ヲ得タル者其ノ當選ヲ辞シ又ハ其ノ承諾ヲ届出サルトキハ抽籤ニ依リ當選ヲ失ヒタル者ヲ以テ當選人ト定ムヘシ

第六十五條　各選擧區ノ當選人確定シタルトキハ府縣知事ハ當選證書ヲ付與シ及管内ニ告示シ竝ニ當選人ノ資格ヲ錄シテ内務大臣ニ具申スヘシ

第十章　議員ノ任期及補闕選擧

第六十六條　議員ノ任期ハ四箇年トス但シ任期ヲ終リタル後仍選擧ニ應スルコトヲ得

第六十七條　議員ノ闕員アルニ由リ内務大臣ヨリ補闕選擧ヲ開クヘキ旨ヲ命セラレタルトキハ府縣知事ハ其ノ命ヲ受ケタル日ヨリ二十日以内ニ闕員ノ選擧區ニ限リ臨時選擧ヲ行ヒ補闕議員ヲ選擧セシムヘシ

第六十八條　補闕議員ノ任期ハ前議員ノ任期ニ依ル

第十一章　投票所取締

第六十九條　投票管理ノ町村長ハ投票所ノ秩序ヲ保持シ必要ナル場合ニ於テハ警察官吏ノ處分ニ付スルコトヲ得

第七十條　凡テ戎器又ハ兇器ヲ携帶スル者ハ投票所ニ入ルコトヲ許サス

第七十一條　選擧人ニ非サル者ハ投票所ニ入ルコトヲ許サス

第七十二條　投票所ニ於テハ一切ノ演説討論及喧噪ニ渉リ又ハ他人ノ投票ヲ勸誘スルコトヲ禁ス

第七十三條　投票所ニ於テ秩序ヲ紊ル者アルトキハ町村長ハ之ヲ警戒シ其ノ命ニ從ハサルトキハ之ヲ投票所ノ外ニ退出セシムヘシ

第七十四條　投票所ノ外ニ退出セシメタル者ハ犯罪者ヲ除ノ外其ノ投票ヲ爲サシムル爲ニ再ヒ投票所ノ内ニ呼入ルヽコトヲ得

第七十五條　投票所ニ參會シタル選擧人ニシテ刑法又ハ此ノ法律ノ罰則ヲ犯シタル者ハ投票スルコトヲ禁シ其ノ姓名事由ヲ投票明細書ニ記載スヘシ

第七十六條　投票ニ關ル異議ノ申立ニ付町村長ノ決定ニ對シテハ投票所ニ於テ不服ヲ申立ツルコトヲ得ス

第七十七條　選擧管理ノ郡役所又ハ市役所若ハ區役所ニ於テ選擧會ノ參觀ヲ求ムル者ハ總テ第六十九條ヨリ第七十三條ニ至ルマテノ例ニ照シ選擧長之ヲ處分スヘシ

第十二章　當選訴訟

第七十八條　各選擧區ニ於テ當選ヲ失ヒタル者當選人ノ當選ヲ無効トスルノ理由アリト認ムルトキハ當選人ヲ被告トシ第六十五條ニ掲ケタル當選人ノ姓名告示ノ日ヨリ三十日以内ニ控訴院ニ出訴スルコトヲ得

其ノ期限ヲ經過シタル後出訴スルモ其ノ効ナシ

第七十九條　原告人ハ訴訟狀ト共ニ保證金トシテ金三百圓又ハ之ニ相當スル公債證書ヲ控訴院書記局ニ預置クヘシ

第八十條　原告人敗訴ノ場合ニ於テ裁判言渡ノ日ヨリ七日以内ニ一切ノ裁判費用ヲ納完セサルトキハ保證金ヨリ之ヲ控除シ仍足ラサルトキハ之ヲ追徵スヘシ

第八十一條　同一ノ當選人ニ對シ二人以上ノ原告人訴訟ヲ爲シタルトキハ控訴院ハ一ノ裁判言渡書ヲ以テ各訴訟人ニ宣告スルコトヲ得

第八十二條　審判中衆議院解散ノ命アルトキハ控訴院ハ其ノ訴訟ヲ棄却スヘシ

第八十三條　原告人訴訟ヲ顧下クルトキハ同時ニ其ノ由ヲ新聞紙又ハ其ノ他ノ方法ヲ以テ公告スヘシ

第八十四條　控訴院ハ當選訴訟ヲ審判スルニ當リ本訴ニ關係スル刑法又ハ此ノ法律ノ犯罪者ニ對シ直ニ處刑ノ言渡ヲ爲スコトヲ得但シ此ノ場合ニ於テハ檢察官ヲシテ立會ハシムヘシ

當選訴訟ニ關係セサル場合ニ於ケル此ノ法律ノ犯罪者ハ所轄刑事裁判所ニ於テ之ヲ裁判スヘシ

第八十五條　控訴院ニ於テ當選訴訟ヲ判定シタルトキハ其ノ裁判言渡書ノ謄本ヲ內務大臣ニ送付スヘシ

第八十六條　當選訴訟ニ付控訴院ノ裁判ニ對シテハ大審院ニ上告スルコトヲ得

第八十七條　訴訟ノ目的タル當選人ハ其ノ裁判確定ニ至ルマテ衆議院ニ列席スルノ權ヲ失ハス

第八十八條　當選訴訟ニ付本章ニ規定シタルモノヽ外總テ普通ノ訴訟手續ニ依ル

第十三章　罰則

第八十九條　納稅額年齡住所及其ノ他選擧資格ニ必要ナル事項ヲ詐稱シ選擧人名簿ニ記載セラレタル者ハ四圓以上四十圓以下ノ罰金ニ處ス

第九十條　投票ヲ得又ハ他人ニ投票ヲ得セシメ若ハ他人ノ爲ニ投票ヲ爲スコトヲ抑止スルノ目的ヲ以テ直接又ハ間接ニ金錢物品手形若ハ公私ノ職務ヲ選擧人ニ授與シ又ハ授與スルコトヲ約束シタル者ハ五圓以上五十圓以下ノ罰金ニ處ス

其ノ授與又ハ約束ヲ受ケ投票ヲ爲シ又ハ投票ヲ爲サヽル者亦同シ

第九十一條　直接又ハ間接ニ金錢物品手形若ハ公私ノ職務ヲ選擧人ニ授與シ又ハ授與スルコトヲ約束シテ投票ヲ得又ハ他人ニ投票ヲ得セシメ若ハ他人ノ爲ニ投票ヲ爲スコトヲ抑止シタル者ハ刑法第二百三十四條ノ例ヲ以テ論ス

其ノ授與又ハ約束ヲ受ケ投票ヲ爲シ又ハ投票ヲ爲サヽル者亦同シ

第九十二條　投票ヲ得又ハ他人ニ投票ヲ得セシメ若ハ他人ノ爲ニ投票ヲ爲スコトヲ抑止スルノ目的ヲ以テ選擧人ニ暴行ヲ加ヘタル者ハ一月以上六月以下ノ輕禁錮ニ處シ五圓以上五十圓以下ノ罰金ヲ附加ス

第九十三條　選擧人ニ暴行ヲ加ヘテ投票ヲ得又ハ他人ニ選擧ヲ得セシメ若ハ他人ノ爲ニ選擧ヲ爲スコトヲ抑止シタル者ハ三月以上二年以下ノ輕禁錮ニ處シ十圓以上百圓以下ノ罰金ヲ附加ス

第九十四條　選擧人ヲ强迫シ又ハ投票所若ハ選擧會場ヲ騷擾シ又ハ投票函ヲ抑留毀壞若ハ劫奪スルノ目的ヲ以テ多衆ヲ嘯聚シタル者ハ六月以上二年以下ノ輕禁錮ニ處シ十圓以上百圓以下ノ罰金ヲ附加ス

其ノ情ヲ知テ嘯聚ニ應シ勢ヲ助ケタル者ハ十五日以上二月以下ノ輕禁錮ニ處シ三圓以上三十圓以下ノ罰金ヲ附加ス

犯罪者戎器又ハ兇器ヲ携帶シタルトキハ各〻本刑ニ一等ヲ加フ

第九十五條　選擧ノ際管理者又ハ立會人ニ暴行ヲ加ヘ又ハ暴行ヲ以テ投票所若ハ選擧會場ヲ擾騷シ又ハ投票函ヲ抑留毀壞若ハ劫奪シタル者ハ四月以上四年以下ノ輕禁錮ニ處シ二十圓以上二百圓以下ノ罰金ヲ附加ス

犯罪者戎器又ハ兇器ヲ携帶シタルトキハ各〻本刑ニ一等ヲ加フ

第九十六條　多衆ヲ嘯聚シテ前條ノ罪ヲ犯シタル者ハ重禁獄ニ處ス

其ノ情ヲ知テ嘯聚ニ應シ勢ヲ助ケタル者ハ二年以上五年以下ノ輕禁錮ニ處ス

犯罪者戎器又ハ兇器ヲ携帶シタルトキハ各〻本刑ニ一等ヲ加フ

第九十七條　演說又ハ新聞紙若ハ其ノ他ノ文書ヲ以テ人ヲ教唆シ前三條ノ罪ヲ犯サシメタル者ハ刑法第百五條ノ例ニ依ル其ノ教唆ノ効ナキ者モ仍本刑ニ二等又ハ三等ヲ減シ處罰ス

第九十八條　戎器又ハ兇器ヲ携帶シテ投票所若ハ選擧會場ニ入リタル者ハ三圓以上三十圓以下ノ罰金ニ處ス

第九十九條　當選人ニ於テ第八十九條ヨリ第九十八條ニ至ルマテノ刑ニ處セラレタルトキハ其ノ當選ハ無効トス

第百條　他人ノ姓名ヲ詐稱シテ投票ヲ爲シタル者及第十四條ニ依リ選擧人タルコトヲ得サル者投票ヲ爲シタルトキハ四圓以上四十圓以下ノ罰金ニ處ス

第百一條　前數條ノ罪ヲ犯シ禁錮以上ノ刑ニ處セラレ又ハ再ヒ罰金ノ刑ニ處セラレタル者ハ三年以上七年以下選擧權及被選擧權ヲ停止ス

第百二條　立會人正當ノ事故ナクシテ此ノ法律ニ規定シタル義務ヲ缺クトキハ五圓以上五十圓以下ノ罰金ニ處ス

第百三條　本章ニ規定シタル罰則ノ外刑法ニ正條アルモノハ各〻其條ニ依リ重キニ從テ處斷ス

第百四條　凡テ選擧ニ關ル犯罪ハ六箇月ヲ以テ期滿免除トス

第百五條　此ノ罰則ハ第十一章ノ各條ト共ニ投票所及選擧會場ニ貼示スヘシ

第十四章　補則

第百六條　市ニ於テハ一市ニ一ノ投票所ヲ設ケ此ノ法律ニ規定シタル投票及選擧ノ管理ハ市長兼テ之ヲ掌ルヘシ

第四條ノ場合ニ於テハ一選擧區ニ一ノ投票所ヲ設ケ此ノ法律ニ規定シタル投票及選擧ノ管理ハ區長兼テ之ヲ掌ルヘシ

第百七條　前條ノ場合ニ於テハ市長又ハ區長ハ其ノ管理スル選擧區內ニ於ケル選擧人中ヨリ立會人三名以上七名以下ヲ定メ選擧ノ期日ヨリ三日以前ニ之ヲ本人ニ通知シ選擧ノ當日選擧管理ノ市役所又ハ區役所ニ參會セシムヘシ

立會人ハ投票ニ立會ヒ併セテ投票ヲ點檢スヘシ

此ノ場合ニ於ケル選擧明細書ハ併セテ投票ノ事項ヲ記載スヘシ

第百八條　隣司ヲ置ク地方ニ於テハ此ノ法律ニ規定シタル選擧長ノ職務ハ島司之ヲ掌ルヘシ

第百九條　町村制ヲ施行セサル町村ニ於テハ此ノ法律ニ規定シタル町村長ノ職務ハ戶長之ヲ掌ルヘシ

第百十條　選擧人名簿調製ノ初年ニ限リ所得稅法施行以來第六條第八條ニ規定シタル納稅額ヲ引續キ納完シタル者ハ其ノ納稅資格ノ期限ニ充ツルモノト見做スヘシ

第百十一條　北海道沖繩縣及小笠原島ニ於テハ將來一般ノ地方制度ヲ準行スルノ時ニ至ルマテ此ノ法律ヲ施行セス

○衆議院議員選擧法附錄

東京府　議員總數十二人

第一區	麻布區 赤坂區	一人	
第二區	芝區	一人	
第三區	京橋區	一人	
第四區	日本橋區	一人	
第五區	本所區 深川區	一人	
第六區	淺草區	一人	
第七區	神田區	一人	
第八區	下谷區 本郷區	一人	

第九區　小石川區　牛込區　四谷區　一人

第十區　東多摩郡　南豐島郡　北豐島郡　一人

第十一區　南足立郡　南葛飾郡　一人

第十二區　荏原郡　伊豆七島　一人

京都府　議員總數七人

第一區　上京區　一人

第二區　下京區　一人

第三區　愛宕郡　葛野郡　乙訓郡　紀伊郡　一人

第四區　宇治郡　久世郡　相樂郡　綴喜郡　一人

大阪府　議員總數十人

第一區　西區　一人

第二區　東區　北區　一人

第三區　南區　一人

第四區　西成郡　東成郡　住吉郡　一人

第五區　島下郡　島上郡　豐能郡　能勢郡　一人

第五區　南河內郡　北河內郡　桑田郡　丹比郡　泉北郡　泉南郡　二人

第六區　加佐郡　中與郡　竹野郡　熊野郡　一人

第六區　淡路郡　淡路國　河內國　攝津國　高安郡　茨木郡　山田郡　一人

第七區　石川郡　八上郡　古市郡　安宿部郡　錦織郡　丹南郡　志紀郡　丹北郡　大川郡　泉北郡　泉南郡　一人

第八區　堺區　大鳥郡　泉北郡　泉南郡　一人

第九區　南郡　日根郡　一人

神奈川縣　議員總數七人

第一區　橫濱區　一人

第二區　久良岐郡　橘樹郡　都筑郡　一人

兵庫縣　議員總數十二人

第一區　神戸區　一人

第二區　武庫郡　菟原郡　攝津郡　有馬郡　一人

第三區　多紀郡　氷上郡　一人

第四區　八部郡　明石郡　美嚢郡　一人

第五區　南多摩郡　西多摩郡　北多摩郡　二人

第六區　大住郡　綾部郡　足柄上郡　足柄下郡　一人

第四區　三浦郡　鎌倉郡　一人

第五區　高座郡　甲斐郡　愛甲郡　津久井郡　一人

第六區　足利郡　上野郡　一人

長崎縣　議員總數七人

第一區　城崎郡　美嚢郡　氣多郡　出石郡　二人

第二區　七美郡　二方郡　釜谷郡　朝來郡　一人

第三區　加古郡　印南郡　一人

第四區　加東郡　多可郡　加西郡　一人

第五區　飾東郡　飾西郡　神東郡　神西郡　一人

第六區　揖東郡　揖西郡　赤穗郡　佐用郡　宍粟郡　二人

第七區　三潴郡　名原郡　一人

第八區　東彼杵郡　北高來郡　一人

第九區　南高來郡　一人

第十區　北松浦郡　南松浦郡　一人

第一區　長崎區　西彼杵郡　二人

新潟縣　議員總數十三人

第一區　新潟區　西蒲原郡　一人

第二區　北蒲原郡　東蒲原郡　岩船郡　二人

第三區　中蒲原郡　一人

第四區　北松浦郡　壹岐郡　石田郡　一人

第五區　南松浦郡　一人

第六區　上縣郡　下縣郡　一人

○衆議院議員選擧法

第四區　南蒲原郡　一人
第五區　古志郡　三島郡　二人
第六區　刈羽郡　一人
第七區　北魚沼郡　南魚沼郡　中頸城郡　東頸城郡　二人
第八區　中頸城郡　西頸城郡　二人
第九區　雜太郡　加茂郡　羽茂郡　一人

埼玉縣　議員總數八人

第一區　北足立郡　新座郡　一人
第二區　入間郡　高麗郡　横見郡　比企郡　二人
第三區　南埼玉郡　北埼玉郡　中葛飾郡　北足立郡　二人
第四區　大里郡　秩父郡　男衾郡　榛沼郡　二人
第五區　兒玉郡　那賀郡　秩父郡　一人

群馬縣　議員總數五人

第一區　東群馬郡　南勢多郡　北利根郡　勢多郡　一人
第二區　新田郡　山田郡　邑樂郡　一人
第三區　佐位郡　那波郡　多野郡　甘樂郡　南甘樂郡　一人
第四區　西群馬郡　片岡郡　吾妻郡　一人
第五區　南埼玉郡　北葛飾郡　碓氷郡　一人

千葉縣　議員總數九人

第一區　千葉郡　市原郡　一人
第二區　東葛飾郡　印旛郡　下埴生郡　南相馬郡　二人
第三區　香取郡　一人
第四區　海上郡　匝瑳郡　一人
第五區　山武郡　射水郡　一人
第六區　夷隅郡　上埴生郡　長柄郡　一人
第七區　望陀郡　周淮郡　天羽郡　一人

第八區　安房郡　平郡　朝夷郡　長狹郡　一人

茨城縣　議員總數八人

第一區　東茨城郡　鹿島郡　行方郡　二人
第二區　多賀郡　久慈郡　那珂郡　二人
第三區　西茨城郡　真壁郡　一人
第四區　豐田郡　結城郡　岡田郡　西茨城郡　猿島郡　一人
第五區　筑波郡　新治郡　一人
第六區　信太郡　河內郡　北相馬郡　一人

栃木縣　議員總數五人

第一區　河內郡　芳賀郡　一人
第二區　上都賀郡　下都賀郡　二人
第三區　安蘇郡　足利郡　梁田郡　一人
第四區　那須郡　須谷郡　一人

奈良縣　議員總數四人

第一區　添上郡　添下郡　山邊郡　廣瀨郡　平群郡　一人
第二區　式上郡　式下郡　陀市郡　十市郡　字陀郡　高市郡　葛上郡　葛下郡　忍海郡　二人
第三區　宇智郡　吉野郡　一人

三重縣　議員總數十人

第一區　安濃郡　一志郡　一人
第二區　三重郡　鈴鹿郡　亀山郡　河曲郡　一人
第三區　桑名郡　員辨郡　朝明郡　一人
第四區　飯高郡　飯野郡　多氣郡　一人
第五區　度會郡　答志郡　英虞郡　北牟婁郡　南牟婁郡　二人
第六區　山田郡　阿拜郡　名張郡　伊賀郡　一人

愛知縣　議員總數十一人

第一區　名古屋區　一人

第二區　愛知郡　一人

第三區　東春日井郡　西春日井郡　一人

第四區　丹羽郡　葉栗郡　一人

第五區　中島郡　一人

第六區　海東郡　海西郡　一人

第七區　知多郡　一人

第八區　碧海郡　幡豆郡　一人

第九區　額田郡　西加茂郡　東加茂郡　一人

第十區　北設樂郡　南設樂郡　宝飯郡　一人

第四區　東濃井郡　西濃井郡　伊香郡　坂田郡　一人

第一區　厚見郡　各務郡　方縣郡　一人

第二區　不破郡　安八郡　一人

第三區　海西郡　下石津郡　多藝郡　上石津郡　羽島郡　中島郡　一人

第四區　大野郡　池田郡　本巣郡　席田郡　山縣郡　一人

第五區　武儀郡　上儀郡　一人

第六區　加茂郡　可兒郡　土岐郡　恵那郡　一人

岐阜縣　議員總數七人

第七區　大野郡　益田郡　吉城郡　一人

第一區　上水内郡　更級郡　一人

第二區　上高井郡　下高井郡　一人

第三區　小科郡　埴科郡　一人

第四區　西筑摩郡　東筑摩郡　南安曇郡　北安曇郡　二人

第五區　南佐久郡　北佐久郡　一人

第六區　上伊那郡　諏訪郡　一人

第七區　下伊那郡　一人

長野縣　議員總數八人

第一區　安濃郡　安倍郡　一人

第二區　富士郡　庵原郡　一人

第三區　益志郡　津太郡　一人

第四區　榛原郡　佐城郡　東野郡　一人

第五區　豊田郡　周知郡　磐田郡　一人

第六區　長上郡　敷知郡　引佐郡　名賀郡　佐久郡　玉名郡　一人

静岡縣　議員總數八人

第十一區　渥美郡　八名郡　一人

第七區　那賀郡　賀茂郡　君澤郡　田方郡　東方郡　二人

山梨縣　議員總數三人

第一區　西山梨郡　北巨摩郡　中巨摩郡　一人

第二區　東山梨郡　南都留郡　北都留郡　一人

第三區　東八代郡　西八代郡　南巨摩郡　一人

滋賀縣　議員總數五人

第一區　滋賀郡　高島郡　一人

第二區　甲賀郡　野洲郡　栗太郡　一人

第三區　犬上郡　愛知郡　神崎郡　蒲生郡　二人

第一區　名賀郡　宮城郡　仙臺郡　一人

第二區　柴田郡　刈田郡　伊具郡　亘理郡　一人

第三區　黒川郡　加美郡　志田郡　玉造郡　遠田郡　一人

第四區　栗原郡　登米郡　一人

第五區　桃生郡　牡鹿郡　本吉郡　一人

宮城縣　議員總數五人

第一區　信夫郡　伊達郡　一人

第二區　安達郡　安積郡　一人

福島縣　議員總數七人

第二區　吉田郡　阪井郡　一人
第三區　南條郡　今立郡　丹生郡　一人
第四區　三方郡　遠敷郡　大飯郡　敦賀郡　一人

石川縣　議員總數六人
第一區　金澤區　石川郡　二人
第二區　能美郡　江沼郡　一人
第三區　河北郡　羽咋郡　鹿島郡　二人
第四區　鹽至郡　珠洲郡　一人

富山縣　議員總數五人
第一區　上新川郡　婦負郡　二人

第二區　田村郡　磐城郡　菊多郡　一人
第三區　東白川郡　西白河郡　石川郡　二人
第四區　南會津郡　北會津郡　大沼郡　耶麻郡　河沼郡　二人
第五區　磐城郡　標葉郡　行方郡　宇多郡　一人

福島縣　議員總數五人
第一區　南會津郡　北會津郡　南會津郡　二人
第二區　中閉伊郡　東閉伊郡　南閉伊郡　北閉伊郡　南九戸郡　北九戸郡　一人

青森縣　議員總數四人
第一區　東津輕郡　上北郡　下北郡　三戸郡　二人
第二區　北津輕郡　南津輕郡　一人
第三區　中津輕郡　西津輕郡　一人
第四區　江刺郡　膽澤郡　磐井郡　一人
第五區　西磐井郡　東磐井郡　一人

山形縣　議員總數六人
第一區　南村山郡　東村山郡　西村山郡　二人
第二區　東置賜郡　西置賜郡　東和賀郡　西和賀郡　南閉伊郡　一人
第三區　飽海郡　西田川郡　東田川郡　二人
第四區　最上郡　北村山郡　一人

秋田縣　議員總數五人
第一區　南秋田郡　一人
第二區　山本郡　北秋田郡　秋田郡　鹿角郡　一人
第三區　河邊郡　由利郡　一人
第四區　仙北郡　雄勝郡　平鹿郡　二人

福井縣　議員總數四人
第一區　足羽郡　大野郡　一人

第二區　下新川郡　一人
第三區　射水郡　一人
第四區　礪波郡　一人

島坂縣　議員總數三人
第一區　法美郡　色美郡　井上郡　八上郡　智頭郡　一人
第二區　高草郡　氣多郡　河村郡　久米郡　八橋郡　一人
第三區　汗入郡　日會郡　見野郡　一人

島根縣　議員總數六人
第一區　島根郡　鹿足郡　秋鹿郡　宇賀郡　一人

第二區　能義郡　多仁郡　大原郡　飯石郡　一人
第三區　出雲郡　神門郡　楯縫郡　一人
第四區　安濃郡　邑智郡　那賀郡　一人
第五區　那賀郡　鹿足郡　美濃郡　一人
第六區　周吉郡　隱岐郡　海士郡　知夫郡　一人

岡山縣　議員總數八人
第一區　岡山區　御野郡　上道郡　邑久郡　邑島郡　兒島郡　二人
第二區　津高郡　阪根郡　赤坂郡　磐梨郡　和氣郡　一人

德島縣 議員總數五人

- 第一區 名東郡 勝浦郡 一人
- 第二區 那賀郡 海部郡 一人
- 第三區 名西郡 阿波郡 麻植郡 一人
- 第四區 板野郡 一人
- 第五區 美馬郡 三好郡 一人

香川縣 議員總數五人

- 第一區 香川郡 大內郡 田村郡 小豆郡 山田郡 一人
- 第二區 寒川郡 大川郡 三木郡 一人
- 第三區 鵜足郡 阿野郡 一人

愛媛縣 議員總數七人

- 第一區 和氣郡 溫泉郡 周桑郡 越智郡 久米郡 伊予郡 風早郡 浮穴郡 喜多郡 上浮穴郡 二人
- 第二區 智村郡 一人
- 第三區 宇和郡 新居郡 宇摩郡 一人
- 第四區 東宇和郡 西宇和郡 一人
- 第五區 三豐郡 豐田郡 一人
- 第六區 那珂郡 多度郡 一人

高知縣 議員總數四人

- 第一區 土佐郡 長岡郡 一人
- 第二區 高岡郡 幡多郡 吾川郡 二人
- 第三區 香美郡 安藝郡 一人
- 第六區 南宇和郡 北宇和郡 一人

福岡縣 議員總數九人

- 第一區 糟屋郡 遠賀郡 宗像郡 早良郡 志摩郡 怡土郡 一人
- 第二區 御笠郡 那珂郡 粕屋郡 田川郡 上毛郡 下毛郡 夜須郡 二人

廣島縣 議員總數十人

- 第一區 廣島郡 安芸郡 二人
- 第三區 宇賀郡 佐伯郡 下賀茂郡 豐田郡 一人
- 第四區 淺口郡 小田郡 後月郡 一人
- 第五區 上房郡 川上郡 阿哲郡 賀茂郡 一人
- 第六區 大竹郡 西西條郡 東西條郡 東南條郡 東北條郡 一人
- 第七區 勝北郡 勝南郡 吉野郡 奥田郡 久米北條郡 久米南條郡 一人
- 第九區 品川郡 荏原郡 大田郡 石川郡 奴可郡 甲斐郡 神奈川郡 三浦郡 奴婢郡 一人

山口縣 議員總數七人

- 第一區 吉敷郡 美祢郡 厚狹郡 佐波郡 阿武郡 高佐郡 一人
- 第二區 阿武郡 大見郡 津島郡 一人
- 第三區 豐浦郡 赤間關區 一人
- 第四區 都濃郡 熊毛郡 大島郡 二人
- 第五區 玖珂郡 一人
- 第一區 名賀郡 海部郡 和田郡 伊都郡 日高郡 西牟婁郡 東牟婁郡 二人

和歌山縣 議員總數五人

- 第二區 伊都郡 那賀郡 一人
- 第三區 日高郡 西牟婁郡 東牟婁郡 二人

第三區（遠賀郡・鞍手郡・嘉麻郡・穂波郡）一人
第四區（御井郡・御原郡・山本郡・生葉郡・竹野郡）一人
第五區（三潴郡・三瀦郡・上妻郡・下妻郡）一人
第六區（山門郡・三池郡）一人
第七區（企救郡・田川郡）一人
第八區（京都郡・仲津郡・築城郡・上毛郡）一人

大分縣　議員總數六人

第一區（大分郡）一人
第二區（北海部郡・南海部郡）一人
第三區（大野郡・直入郡）一人
第四區（速見郡・玖珠郡・日田郡）一人
第五區（西國東郡・東國東郡）一人
第六區（下毛郡・宇佐郡）一人
第二區（東松浦郡・西松浦郡）一人
第三區（竹島郡・津島郡）一人

佐賀縣　議員總數四人

第一區（佐賀郡・神埼郡・小城郡・基肄郡・三養根郡）二人

熊本縣　議員總數八人

第一區（熊本郡・鹿田郡・飽託郡・託麻郡・宇土郡）二人
第二區（玉名郡）一人
第三區（山鹿郡・菊池郡・合志郡・阿蘇郡）二人
第四區（上益城郡・下益城郡）一人
第五區（八代郡・葦北郡・球磨郡）一人
第六區（天草郡）一人
第一區（宮崎郡・北那珂郡・南那珂郡・兒湯郡）一人

宮崎縣　議員總數三人

第二區（延岡郡・臼杵郡・東臼杵郡・西臼杵郡）一人
第三區（北諸縣郡・西諸縣郡・東諸縣郡）一人

鹿兒島縣　議員總數七人

第一區（鹿兒島郡・谿山郡・北大隅郡・熊毛郡・馭謨郡）一人
第四區（出水郡・高城郡・南伊佐郡・薩摩郡・甑島郡）一人
第三區（日置郡・阿多郡）一人
第二區（給黎郡・宿郡・揖宿郡・川邊郡・姶良郡）一人
第五區（姶良郡・河邊郡・夏郡・桑原郡・西囎唹郡・北伊佐郡）一人
第六區（南大隅郡・南諸縣郡・肝屬郡・南囎唹郡）一人
第七區（大島郡）一人

○衆議院議員選擧法施行規則（明治二十三年一月九日勅令第三號）

朕衆議院議員選擧法施行規則ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名御璽

第一條　選擧人ノ年齡ハ選擧期日（七月一日）ノ前滿二十五歲ニ達スルヲ以テ合格トス

第二條　選擧法第六條第二ニ揭クル住居ノ期限內ニ選擧人其ノ住居ヲ府縣外ニ移シ再ヒ其ノ本籍府縣ニ歸住シタルトキハ時日ノ長短ニ拘ラス其ノ期限中斷シタルモノトス但シ旅行中ノ滯在ハ中斷スルノ限ニ在ラス

第三條　選擧人及被選人ノ納稅資格ハ地租ニ付テハ選擧人名簿調製期日（四月一日）ノ前滿一年以上十五圓以上ヲ納ムヘキ土地ヲ所有シ之ヲ納メ仍引續キ所有シ及納ムル者ナリトシテ合格トシ所得稅ニ付テハ選擧人名簿調製期日ノ前滿三年以上之ヲ納メ仍引續キ納ムル者ヲ以テ合格トス

賣買讓與ニ依リ土地ノ所有權移轉ノ場合ニ於テ其ノ所有ノ年限ヲ算スルハ登記ノ日ニ依ルヘシ

○衆議院議員選擧法

滿三年以上所得稅ヲ納メ及滿一年以上地租ヲ納ムル者其ノ地租及所得稅ヲ併セ十五圓以上ニ及フトキハ納稅資格ヲ有スルモノトス但シ所得稅ヲ納ムル者毎年ノ納額ニ差異アルトキハ其ノ最少額ヲ以テ地租ニ併算スヘシ

第四條　賃入地ノ地租ハ其ノ地主ノ納稅資格ニ算入スヘシ

第五條　數人共有地ノ地租ハ之ヲ平分シ各箇ノ納稅資格ニ算入ス但シ土地臺帳又ハ附屬帳簿ニ所有權又ハ納稅負擔ノ割合ヲ記入シタルモノハ各其ノ割合ニ依ルヘシ

第六條　被選人ノ年齡ハ選擧期日ノ前滿三十歲ニ達スルヲ以テ合格トス

第七條　警視廳ノ官吏ハ選擧法第十條ノ例ニ依リ東京府內ニ於テ被選人タルコトヲ得ス

第八條　郡市ヲ合セ又ハ二郡以上ヲ以テ一選擧區ト爲シタル場合ニ於テハ選擧ノ管理ニ關係スル郡ノ官吏ハ選擧法第十一條ニ規定シタル市町村吏員ノ例ニ依リ其ノ選擧區內ニ於テ被選人タルコトヲ得ス

第九條　選擧法第十二條ニ揭ケタル神官トハ神社ニ奉祀スルヲ職トスル者、僧侶及教師トハ教團若ハ宗制ニ從ヒ其ノ分限ヲ有スル者其ノ他何等ノ宗教ヲ問ハス宣教ニ從事スル者ヲ謂フ

第十條　組合町村ニシテ一ノ町村役場ヲ置クトキハ其ノ組合町村ヲ以テ一投票區域トス

選擧法第十九條第一ノ場合ニ於テ一市又ハ市內ノ一區ヲ以テ一選擧區ト爲シタルトキハ其ノ選擧區ヲ以テ一投票區域トス

選擧法第十九條第二ノ場合ニ於テ市內ニ在ル數區ヲ合セテ一選擧區ト爲シタルトキハ其ノ選擧區ヲ以テ一投票區域トス

選擧法第十九條第三ノ場合ニ於テ郡市ヲ合セテ一選擧區ト爲シタルトキハ郡ハ町村ヲ以テ一投票區域トス

第十一條　選擧人名簿ニハ選擧人ヲ其ノ姓ノ伊呂波順ニ記載シ番號ヲ付スヘシ

第十二條　選擧人正當ノ事故ニ依リ選擧法第二十條ノ手續ヲ爲スコト能ハスシテ選擧人名簿ニ登載セラレタルトキハ其ノ第二十三條ノ例ニ依リ脫漏ノ申立ヲ爲スコトヲ得

第十三條　選擧長ノ判定ニ對スル出訴若ハ始審裁判所ノ判決ニ對ハル上告ノ爲ニ其ノ判定又ハ判決ノ執行ヲ停止セス

第十四條　選擧人名簿確定ノ後選擧人其ノ投票區域外ニ轉住シタルトキハ前住地ノ投票所ニ於テ投票ヲ爲スヘシ

第十五條　投票ヲ始ムル時刻ニ至リ立會人參會セサルトキハ投票所管理者ハ參會シタル選擧人中ヨリ更ニ立會人ヲ指定スヘシ

第十六條　投票管理者ハ投票所入場券ヲ製シ運クトモ投票期日ノ五日前ニ之ヲ各投票人ニ配付スヘシ

入場券ノ配付ヲ受ケサル選擧人ハ之ヲ請求スルコトヲ得

此ノ規則第十四條ニ依リ投票ヲ爲サントスル者ハ前項ノ例ニ依リ入場券ヲ請求スルコトヲ得

第十七條　選擧人投票所ニ入ルトキハ入場券ヲ受付掛ニ差出スヘシ選擧人多數ナル投票所ニ於テハ必要ナルトキハ到著番號札ヲ受取ラシムヘシ

第十八條　選擧人入場券ヲ紛失シタルトキハ其ノ由ヲ受付掛ニ申立テ投票所管理者ノ承認ヲ得テ入場スルコトヲ得

第十九條　投票所管理者ハ選擧人ヲ呼出シ其ノ住所姓名ヲ自稱セシメ選擧名簿ニ對照シ投票用紙ヲ交付スヘシ若到著番號札ヲ受取ラシメタル場合ニ於テハ到著番號ノ順序ニ從ヒ番號札ト引換ニ投票用紙ヲ交付スヘシ

第二十條　選擧人誤テ投票用紙ヲ汚染シタルトキハ更ニ之ヲ請求スルコトヲ得

第二十一條　投票ハ投票所管理者及立會人ノ面前ニ於テ選擧人自ラ之ヲ投票函ニ投入シ順次投票所ヨリ退出スヘシ

第二十二條　投票終ルノ時刻ニ至リタルトキハ投票所管理者ハ其ノ由ヲ宣告シ一時入口ヲ閉鎖セシメ參會シタル選擧人中未投票セサル者アルトキハ直ニ投票セシメタル後投票函ヲ閉鎖スヘシ

第二十三條　選擧長ハ各投票所ノ投票函總テ到達シタル翌日選擧法第四十八條ノ手續ヲ爲シ逐次投票ヲ開披點檢シテ選擧委員ニ付シ每票先ツ選擧人ノ姓名次ニ被選人ノ姓名ヲ朗讀セシメ書記二名以上ヲシテ被選人ノ得點ヲ點數簿ニ記入セシムヘシ

第二十四條　投票點數ノ記入ヲ終リタルトキハ選擧長ハ各被選人ノ得總點數ヲ朗讀スヘシ

第二十五條　點檢濟ノ投票ハ其ノ有效無效ヲ區別シテ封緘シ選擧長ハ選擧委員ト共ニ之ニ捺印スヘシ連名投票ニシテ其ノ一部無效ナルモノハ無效投票ト共ニ保存スヘシ

第二十六條　天災若ハ其ノ他避クヘカラサル事故ニ依リ投票ヲ行フコトヲ得ス又ハ選擧會ヲ開クコトヲ得サルトキハ投票所管理者又ハ選擧長ハ其ノ施行ヲ止メ府縣知事ニ其ノ由ヲ屆出ヘシ此ノ場合ニ於テハ府縣知事ハ期日ヲ定メ更ニ投票ヲ行ハシメ又ハ選擧會ヲ開カシムヘシ但シ其ノ期日ハ遲クトモ五日以前ニ投票區域內又ハ選擧區內ニ告示セシムヘシ

第二十七條　選擧法第五十八條第二項ノ場合ニ於テ生年月ノ差ニ依テ當選ヲ得タル者其ノ當選ヲ辭シ又ハ第六十三條ノ期限內ニ其ノ承諾ヲ屆出サルトキハ生年月ノ差ニ依リ當選ヲ失ヒタル者ヲ以テ當選人ト定ムヘシ

第二十八條　選擧法第六十三條ニ掲ケタル屆出ノ期限ハ第六十條ニ依リ當選人ノ姓名ヲ告示シタル日ヨリ起算スヘシ

第二十九條　選擧法第五十二條ノ選擧長ノ決定ニ對シ異議アル者又ハ第七十六條ノ投票所管理者ノ決定ニ對シ不服ナル者ハ始審裁判所ニ出訴スルヿヲ得此ノ場合ニ於テハ選擧法第二十六條ノ例ニ依ル

第三十條　選擧長及投票所管理者故障アルトキハ其ノ附屬ノ官吏又ハ吏員ヲシテ其ノ事務ヲ代理セシムルコトヲ得

○衆議院議員選擧法罰則補則

（明治二十三年五月二十九日　法律第四十號）

衆議院議員選擧法罰則補則ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名　御璽

第一條　投票ヲ得又ハ他人ニ投票ヲ得セシメ若クハ他人ノ爲ニ投票ヲ爲スコトヲ抑止スルノ目的ヲ以テ選擧會場又ハ投票所ノ近傍若クハ選擧人往來ノ途中ニ於テ選擧人ニ酒食ヲ供シ又ハ選擧會場若クハ投票所ニ往復スル爲車馬ノ類ヲ給シ及其供給ヲ受ケタル者又ハ選擧人ノ爲ニ選擧會場若クハ投票所ニ往復スル車馬賃又ハ路費若クハ休泊料ノ類ヲ代辨シ又ハ代辨スルコトヲ約束シ及其代辨又ハ約束ヲ受ケタル者ハ衆議院議員選擧法第九十條ノ例ニ依リ處斷ス

第二條　第一條ニ記載シタル目的ヲ以テ選擧人ヲ誘導シ拐引シ若クハ其往來ノ便ヲ妨ケ若クハ詐僞ノ手段ヲ以テ其選與權ノ施行ヲ妨害シタル者ハ衆議院議員選擧法第九十二條ノ例ニ依リ處斷ス

本條ニ記載シタル所業ヲ爲シテ第一條ニ記載シタル目的ヲ遂シタル者ハ衆議院議員選擧法第九十三條ノ例ニ依リ處斷ス

第三條　被選人タルコトヲ得ル者ヲ指シテ被選人タルコトヲ得ス又ハ當選ヲ承諾スルノ意ナシトノ虛報ヲ流傳セシメタル者ハ五圓以上五十圓以下ノ罰金ニ處ス

第四條　選擧會場又ハ投票所所在ノ郡市内ニ於テ選擧ノ氣勢ヲ張ル爲多衆集合シ若クハ隊伍ヲ組ミテ往來シ又ハ篝火松明ヲ焚キ若クハ鐘鼓法螺喇叭ノ類ヲ鳴ラシ旗幟其他ノ標章ヲ用ヰル等ノ所業ヲ爲シ警察官ノ制止ヲ受クルモ仍其命ニ從ハサル者ハ十五日以上三月以下ノ輕禁錮ニ處シ五圓以上五十圓以下ノ罰金ヲ附加ス

第五條　第一條ニ記載シタル目的ヲ以テ張札ノ類ヲ公然掲示シタル者ハ二圓以上二十圓以下ノ罰金ニ處ス

第六條　當選人第一條乃至第四條ニ依リ刑ニ處セラレタルトキハ衆議院議員選擧法第九十九條ノ例ニ依ル

第七條　本法ニ關スル犯罪ハ衆議院議員選擧法第百四條ノ例ニ依ル

○衆議院議員選擧法及施行規則ニ於ル事務書式等準據取扱方

（明治廿三年一月十七日　内務省訓令第二號）

府縣　沖縄縣ヲ除ク

衆議院議員選擧法及選擧法施行規則ニ就テハ其事務及書式等左ノ各條ニ準據シ取扱フヘシ

第一條　衆議院議員選擧法第十八條ノ選擧人名簿ハ別紙第一號ノ式ニ依リ調製スヘシ

第二條　投票所管理者ハ遅クトモ投票期日ノ五日前ニ投票所ヲ指定シ之ヲ其投票區域内ニ公告スヘシ

第三條　投票所管理者ハ選擧法第三十三條ニ依リ立會人ヲ定メ之ヲ本人ニ通知スルトキハ其指定シタル立會人ノ内若シ正當ノ事故ニ由リテ其職ヲ辭スル者アルモ仍ホ投票期日ノ三日前迄ニ立會人ヲ指名スルコトヲ得ヘキ餘日ヲ存シテ之ヲ通知スヘシ但臨時已ムヲ得サル事故ニ由リ投票期日ノ一昨日前ニ至リ其職ヲ辭スル者アルトキハ選擧法施行規則第十五條ニ依リ票ノ當日投票所ニ參會シタル選擧人中ヨリ之ヲ指名スヘシト雖投票所管理者ハ豫メ其當日指名セントスル者ヲ定メ前以テ之ヲ其本人ニ通牒シ置キ投票ヲ始ムル前ニ參會セシメ臨時指名スルニ差支ナカラシムルヲ要ス

第四條　投票用紙、投票函、入場券、及到着番號札ハ別紙第二號第三號第四號ノ式ニ依ルヘシ

第五條　投票所ハ寺院若クハ學校等ノ如キ可成門戸アル場所ヲ以テ投票所ニ充ツヘシ

第六條　投票所ノ開閉ハ聚樂又ハ鼓鐘ヲ以テ之ヲ報スヘシ

投票所ハ午前六時三十分ニ其門戸ヲ開キ午後六時ニ之ヲ閉ツヘシ

第七條　投票所ハ別紙第五號甲乙ノ式ヲ標準トシ選擧人員ノ多少ニ依テ適宜之ヲ斟酌シ受付所、選擧人扣所、投票用紙交付所、投票記載所、投票ノ場所等ヲ區別シ之ヲ設クヘシ

第八條　午前七時ニ於テ投票所管理者ハ參會シタル選擧人ヲ投票用紙交付所ノ入口ニ招集シ選擧法第三十六條ニ依リ立會人ト共ニ投票函ノ空虛ナルコトヲ選擧人ニ示シ且選擧人ノ面前ニ於テ其第一蓋ノ鍵ヲ卸シ之ヲ投票所管理者及立會人列席ノ卓上ニ置キタル後到着番號ノ順序ニ依リ適宜選擧人數名ツヽ呼出シ投票用紙交付所ニ入ラシメ選擧法施行規則第十九條ノ手續ヲ爲シ投票用紙ヲ交付スヘシ

第九條　選擧人ニ投票用紙ヲ交付シタルトキハ投票記載ノ爲ニ設ケタル卓上ニ於テ記載セシメ直ニ投票ヲ爲サシムヘシ

投票記載ノ爲ニ設ケタル卓上ニハ呼入シタル各選擧人逗留ナク記載シ得ル丈ニ餘箇ノ筆硯墨ヲ備ヘ置クヘシ

第十條　選擧人出入ノ門戸及投票所出入口等ハ警察官吏又ハ特ニ設ケタル取締人ニ於テ取締ヲ爲スヘシ

第十一條　投票函ヲ開鎖スルトキハ直ニ其第二藍ノ錠ヲ卸シ其第一藍ノ鈴ハ立會人ニ於テ保管シ第二藍ノ鈴ハ投票所管理者之ヲ保管スヘシ

第十二條　投票明細書ハ別紙第六號書式ニ依リ之ヲ製スヘシ

第十三條　選擧法施行規則第二十三條ニ依リ被選人ノ得點ヲ記入スヘキ點數簿ハ別紙第七號ノ式ニ依リ之ヲ調製シ其記入每ニ之ヲ記入スル書記ノ一人其被選人ノ點數ヲ呼フヘシ

第十四條　選擧明細書ハ別紙第八號書式ニ依リ之ヲ製スヘシ

選擧明細書ハ副本ヲ製シ選擧人又ハ被選人ノ請求アリタルトキハ之ヲ閲覽セシムヘシ

第十五條　選擧法第六十五條ニ依リ府縣知事ヨリ當選人ニ付與スヘキ當選證書ハ別紙第九號ノ式ニ依ルヘシ

第十六條　投票所ハ何郡市區何町村投票所ト記シ選擧會場ハ衆議院議員第何區選擧會場ト記シ各其門戸ニ之ヲ掲クヘシ

書式ハ別ニ頒ツ（書式略ス）

○衆議院議員選擧法第九條第十條ニ記載シタル官吏ニ關スルノ件（明治二十二年六月四日　閣令第十八號）

府縣會規則第十三條市町村制第十五條衆議院議員選擧法第九條第十條ニ記載シタル官吏ハ在職者ノミニ限ルモノトス

非職者休職者ニシテ議員又ハ市町村ノ吏員タラントスルトキハ本屬長官ノ許可ヲ受ク可シ

○府縣制郡制施行ニ際シ衆議院議員選擧區域等ニ關スル件（明治廿三年九月十九日　法律第八十五號）

府縣制郡制施行ニ際シ衆議院議員並府縣會議員ノ選擧區域地方税收支豫算地方税財産備荒儲蓄金及分方郡費支辨方法及府縣ノ急施事業ニ關スル諸件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名　御璽

第一條　郡制施行ニ付郡ノ廢置分合若ハ郡市ノ境界ヲ變更スルコトアルモ衆議院議員ノ選擧ハ仍ホ從前ノ區域ニ依ル

第二條　郡制施行ニ際シ郡ノ廢置分合若ハ郡市ノ境界ヲ變更スルコトアルモ府縣會議員ハ次回ノ定期改選ニ至ルマテ之ヲ改選セス又其ノ定數ヲ增減セス其ノ補缺選擧ヲ行フヘキトキハ仍從前ノ區域ニ依ル

第三條　府縣制施行前府縣會ニ於テ議定シタル歲入出豫算中府縣制施行ニ至リ法律命令ノ結果ニ依リ異動ヲ生シ更正ヲ要スルモノアルトキハ新ニ組織スル府縣會ニ於テ之ヲ更正スヘシ其ノ他ハ總テ從前府縣會議決ノ効ヲ存ス

第四條　東京府京都府大阪府ヲ除キ其ノ他ノ縣ニ在テ從來郡市地方税ノ經濟ヲ異ニシ其地方税經濟ニ屬スル財産ヲ郡市ニ分屬セルモノハ府縣制施行ノ日ヨリ之ヲ共同ノ縣有財産トス

第五條　東京府京都府大阪府ヲ除キ其ノ他ノ縣ニ在テ從來備荒儲蓄金ヲ郡市ニ分別セルモノハ府縣制施行ノ日ヨリ之ヲ共同ノ備荒儲蓄金トス

第六條　郡制施行ノ後郡費ヲ收入スルニ至ルノ間必要ナル郡ノ支出ハ郡長ニ於テ據算ヲ設ケ府縣知事ノ認可ヲ得テ假ニ地方税ヲ以テ支辨シ追テ郡費ヲ以テ償還スヘシ

第七條　府縣制郡制施行ノ後府縣參事會郡參事會就職ニ至ルマテノ間其ノ職務ニ屬スル事項ニシテ急施ヲ要スルモノアルトキハ府縣參事會ノ職務ハ府縣知事郡參事會ノ職務ハ郡長代テ之ヲ執行スヘシ

○衆議院議員選擧法及貴族院令ニ於テ直接國稅ト稱スル種目（明治廿二年三月廿六日勅令第四十一號）

朕衆議院議員選擧法及貴族院令ニ於テ直接國稅ト稱スル種目ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名　御璽

衆議院議員選擧法及貴族院令ニ於テ直接國稅ト稱スルモノ左ノ如シ

地租

所得稅

○會計法（明治廿二年二月十一日法律第四號）

朕樞密顧問ノ諮詢ヲ經テ會計法ヲ裁可シ之ヲ公布セシム

御名　御璽

第一章　總則

第一條　政府ノ會計年度ハ毎年四月一日ニ始マリ翌年三月三十一日ニ終ル

一會計年度所屬ノ歲入歲出ノ出納ニ關ル事務ハ翌年度十一月三十日マテニ悉皆完結スヘシ

第二條　租稅及其ノ他一切ノ收納ヲ歲入トシ一切ノ經費ヲ歲出トシ歲入歲出ハ總豫算ニ編入スヘシ

第三條　各年度ニ於テ決定シタル經費ノ定額ヲ以テ他ノ年度ニ屬スヘキ經費ニ充ツルコトヲ得ス

第四條　各官廳ニ於テハ法律勅令ヲ以テ規定シタルモノヽ外特別ノ資金ヲ有スルコトヲ得ス

第二章　豫算

第五條　歲入歲出ノ總豫算ハ前年ノ帝國議會集會ノ始ニ於テ之ヲ提出スヘシ

第六條　歲入歲出ノ總豫算ハ之ヲ經常臨時ノ二部ニ大別シ各部中ニ於テ之ヲ款項ニ區分スヘシ

總豫算ニハ帝國議會參考ノ爲ニ左ノ文書ヲ添附スヘシ

第一　各省ノ豫定經費要求書但シ各項中各目ノ明細ヲ記入スヘシ

第二　其ノ年三月三十一日ニ終リタル會計年度ノ歲入歲出現計書

第七條　豫算中ニ設クヘキ豫備費ハ左ノ二項ニ分ツ

第一　豫備金

第二　豫備金

第一豫備金ハ避クヘカラサル豫算ノ不足ヲ補フモノトス

第二豫備金ハ豫算外ニ生シタル必要ノ費用ニ充ツルモノトス

第八條　豫備金ヲ以テ支辨シタルモノハ年度經過後帝國議會ニ提出シ其ノ承諾ヲ求ムルヲ要ス

第九條　毎年度大藏省證券發行ノ最高額ハ帝國議會ノ協賛ヲ經テ之ヲ定ム

第三章　收入

第十條　租稅及其ノ他ノ歲入ハ法律命令ノ規程ニ從ヒ之ヲ徵收スヘシ

法律命令ニ依リ當該官吏ノ責格アル者ニ非サレハ租稅ヲ徵收シ又ハ其ノ他ノ歲入ヲ收納スルコトヲ得ス

第四章　支出

第十一條　每會計年度ニ於テ政府ノ經費ニ充ツル所ノ定額ハ其ノ年度ノ歲入ヲ以テ之ヲ支辨スヘシ

第十二條　國務大臣ハ豫算ニ定メタル目的ノ外ニ定額ヲ使用シ又ハ各項ノ金額ヲ彼此流用スルコトヲ得ス

國務大臣ハ其ノ所管ニ屬スル收入ヲ國庫ニ納ムヘシ直ニ之ヲ使用スルコトヲ得ス

第十三條　國務大臣ハ其ノ所管定額ヲ使用スル爲ニ國庫ニ向ヒテ仕拂命令ヲ發スヘシ但シ別ニ定ムル所ノ規程ニ從ヒ他ノ官吏ニ委任シテ仕拂命令ヲ發セシムルコトヲ得

第十四條　國庫ハ法律命令ニ反スル仕拂命令ニ對シテ仕拂ヲ爲スコトヲ得

第十五條　國務大臣ハ政府ニ對シ正當ナル債主若ハ其ノ代理人ノ爲ニスルニ非サレハ仕拂命令ヲ發スルコトヲ得ス

左ノ諸項ノ經費ニ限リ國務大臣ハ主任ノ官吏ニ委任シ又ハ政府ノ命シタル銀行ニ委任シテ現金支拂ヲ爲サシムル爲ニ現金前渡ノ仕拂命令ヲ發スルコトヲ得

第一　國債ノ元利拂

第二　軍隊軍艦及官廳ニ屬スル經費

第三　在外各廳ノ經費

第四　前項ノ外總テ外國ニ於テ仕拂ヲ爲ス經費

第五　運輸通信ノ不便ナル內國ノ地方ニ於テ仕拂ヲ爲ス經費

第六　廳中常用雜費ニシテ一箇年ノ經費額五百圓ニ滿タサルモノ

第七　場所ノ一定セサル事務所ノ經費

第八　各廳ニ於テ直接ニ從事スル工事ノ經費但シ一主任官ニ付三千圓マテヲ限ル

第五章　決算

第十六條　會計檢査院ノ檢査ヲ經テ政府ヨリ帝國議會ニ提出スル總決算ハ總豫算ト同一ノ樣式ヲ用ヰ左ノ事項ノ計算ヲ明記スヘシ

歲入ノ部

歲入豫算額

調定濟歲入額

收入濟歲入額

收入未濟歲入額

歲出ノ部

歲出豫算額

豫算決定後增加歲出額

仕拂命令濟歲出額

翌年度繰越額

第十七條　前條ノ總決算ニハ會計檢査院ノ檢査報告ト俱ニ左ノ文書ヲ添附スヘシ

第一　各省決算報告書

第二　國債計算書

第三　特別會計計算書

第六章　期滿免除

第十八條　政府ノ負債ニシテ其ノ仕拂フヘキ年度經過後滿五箇年內ニ債主ヨリ支出ノ請求若ハ仕拂ノ請求ヲ爲サヽルモノハ期滿免除トシテ政府ハ其ノ義務ヲ免ルヽモノトス但シ特別ノ法律ヲ以テ期滿免除ノ期限ヲ定メタルモノハ各〻其ノ定ムル所ニ依ル

第十九條　政府ニ納ムヘキ金額ニシテ其ノ納ムヘキ年度經過後滿五箇年內ニ上納ノ告知ヲ受ケサルモノハ其ノ義務ヲ免ルヽモノトス但シ特別ノ法律ヲ以テ期滿免除ノ期限ヲ定メタルモノハ各〻其ノ定

ムル所ニ依ル

第七章　歳計剰餘定額繰越豫算外收入及定額戻入

第二十條　各年度ニ於テ歳計ニ剰餘アルトキハ其ノ翌年度ノ歳入ニ繰入ルヘシ

第二十一條　豫算ニ於テ特ニ明計シタルモノ及一年度内ニ終ルヘキ工事又ハ製造ニシテ遅クヘカラサル事故ノ爲ニ事業ヲ遅延シ年度内ニ其ノ經費ノ支出ヲ終ラサリシモノハ之ヲ翌年度ニ繰越シ使用スルコトヲ得

第二十二條　數年ヲ期シテ竣功スヘキ工事製造及其ノ他ノ事業ニシテ繼續費トシテ總額ヲ定メタルモノハ毎年度ノ仕拂殘額ヲ竣功年度マテ遞次繰越使用スルコトヲ得

第二十三條　誤拂過渡トナリタル金額ノ返納出納ノ完結シタル年度ニ屬スル收入及其ノ他一切豫算外ノ收入ハ總テ現年度ノ歳入ニ組入ルヘシ但シ法律勅令ニ依リ前金渡概算渡繰替拂ヲ爲シタル場合ニ於ケル返納金ハ各〻之ヲ仕拂ヒタル經費ノ定額ニ戻入ルヽコトヲ得

第八章　政府ノ工事及物件ノ賣買貸借

第二十四條　法律勅令ヲ以テ定メタル場合ノ外政府ノ工事又ハ物件ノ賣買貸借ハ總テ公告シテ競爭ニ付スヘシ但シ左ノ場合ニ於テハ競爭ニ付セス隨意ノ約定ニ依ルコトヲ得ヘシ

第一　一人又ハ一會社ニ專有スル物品ヲ買入レ又ハ借入ルヽトキ

第二　政府ノ所爲ヲ秘密ニスヘキ場合ニ於テ命スル工事又ハ物品ノ賣買貸借ヲ爲ストキ

第三　非常急遽ノ際工事又ハ物品ノ買入借入ヲ爲スニ競爭ニ付スル暇ナキトキ

第四　特種ノ物質又ハ特別使用ノ目的アルニ由リ生産製造ノ場所又ハ生産者製造者ヨリ直接ニ物品ノ買入ヲ要スルトキ

第五　特別ノ技術家ニ命スルニ非サレハ製造シ得ヘカラサル製造品及機械ヲ買入ルヽトキ

第六　土地家屋ノ買入又ハ借入ヲ爲スニ當リ其ノ位置又ハ構造等ニ限アル場合

第七　五百圓ヲ超エサル工事又ハ物品ノ買入借入ノ契約ヲ爲ストキ

第八　見積價格二百圓ヲ超エサル動産ヲ賣拂フトキ

第九　軍艦ヲ買入ルヽトキ

第十　軍馬ヲ買入ルヽトキ

第十一　試驗ノ爲ニ工作製造ヲ命シ又ハ物品ヲ買入ルヽトキ

第十二　慈惠ノ爲ニ設立セル救育所ノ貧民ヲ傭役シ及其ノ生産又ハ製造物品ヲ直接ニ買入ルヽトキ

第十三　囚徒ヲ傭役シ又ハ囚徒ノ製造物品ヲ直接ニ買入ルヽトキ及政府ノ設立ニ係ル農工業場ヨリ直接ニ其ノ生産又ハ製造物品ヲ買入ルヽトキ

第十四　政府ノ設立シタル農工業場又ハ慈惠教育ニ係ル各所ノ生産製造物品及囚徒ノ製造物品ヲ賣拂フトキ

第二十五條　軍艦兵器彈藥ヲ除ク外工事製造又ハ物件買入ノ爲ニ前金拂ヲ爲スコトヲ得ス

第九章　出納官吏

第二十六條　政府ニ屬スル現金若ハ物品ノ出納ヲ掌ル所ノ官吏ハ其ノ現金若ハ物品ニ付一切ノ責任ヲ負ヒ會計檢査院ノ檢査判決ヲ受クヘシ

第二十七條　前條ノ官吏水火盜難又ハ其ノ他ノ事故ニ由リ其ノ保管スル所ノ現金若ハ物品ヲ紛失毀損シタル場合ニ於テハ其ノ保管上避ケ得ヘカラサリシ事實ヲ會計檢査院ニ證明シ責任解除ノ判決ヲ受

クルニ非サレハ其ノ負擔ノ責ヲ免ルヽコトヲ得ス

第二十八條　現金又ハ物品ノ出納ヲ掌ルニ付身元保證金ヲ納メシムルコトヲ要スルモノハ勅令ヲ以テ之ヲ定ムヘシ

第二十九條　仕拂命令ノ職務ハ現金出納ノ職務ト相兼ヌルコトヲ得ス

第十章　雜則

第三十條　特別ノ須要ニ因リ本法ニ準據シ難キモノアルトキハ特別會計ヲ設置スルコトヲ得

特別會計ヲ設置スルハ法律ヲ以テ之ヲ定ムヘシ

第三十一條　政府ハ國庫金ノ取扱ヲ日本銀行ニ命スルコトヲ得

第十一章　附則

第三十二條　本法ノ條項帝國議會ニ關渉セサルモノハ明治二十三年四月一日ヨリ施行シ其ノ關渉スルモノハ帝國議會開會ノ時ヨリ施行ス

決算ニ係ル條項ハ帝國議會ノ議定ヲ經タル年度ノ歲計ヨリ施行ス

第三十三條　本法ノ條項ト抵觸スル法令ハ各〻其ノ條項施行ノ日ヨリ廢止ス

○會計法補則（明治二十三年八月二日法律第五十七號）

勅樞密顧問ノ諮詢ヲ經テ會計法補則ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名　御璽

會計法補則

第一條　明治二十三年度歲出豫算中左ノ費用ハ明治二十四年度ノ豫算ニ於テ憲法第六十七條ニ規定シタル大權ニ基ケル既定ノ歲出トス

一　文武官ノ俸給及文官退官賜金
二　陸海軍軍事費憲兵費屯田兵費
三　賞勳年金及褒賞費
四　外國條約及約束ニ依レル支出
五　各廳ノ廳費及經常修繕費

第二條　帝國議會開會前ニ發布セラレタル法令ニ基ク左ノ費用ハ法律ノ結果ニ由ルノ歲出トス

一　帝國議會經費
二　裁判所並會計檢査院經費
三　恩給扶助料諸役恤金及死傷手當
四　徵兵費
五　徵稅費證券印紙切手類製造費戾押印費鑑札製造費所得稅調査委員手當市町村ニ交付スル徵稅費滯納處分費差押物件賣上代
六　囚徒費
七　遞信事業及航路標識費
八　內外國雜破拯費
九　沖繩縣及小笠原島地方費
十　備荒儲蓄
十一　北海道拂下土地賣上代
十二　恩賞及救助費

第三條　明治二十四年度出算豫算ニ於テ左ノ費用ハ憲法第七十六條第二項ニ規定シタル政府歲出上ノ

○會計法

義務トス

一 神社費

二 公債償還利子及拂手數料

三 既ニ定マレル効力アル命令ニ依リ毎年各地方ニ付與スヘキ公共工事費補助及警察費補充金

四 沖縄縣諸祿

五 既ニ定マレル効力アル命令ニ依リ航運鐵道製造殖産ノ會社及病院學校ニ付與スヘキ補助又ハ利子保證

六 雇外國人ノ俸給恩給及手當

七 法律上ノ賠償及訴訟費

八 諸拂戻金

九 國庫金取扱費

十 預金利子

十一 既約アル地所家屋借料

第四條 明治二十三年度以前ノ歳出豫算ニ於テ數年ヲ期シタル事業ニシテ明治二十四年度ニ至ルマテ未タ竣工ニ至ラサルモノハ繼續費ノ例ニ依ル

○民法

（明治二十三年三月二十七日法律第二十八號ニテ公布）

民法中財産編財産取得編債權擔保編證據編ヲ裁可シ之ヲ公布セシム此法律ハ明治三十六年一月一日ヨリ施行スヘキコトヲ命ス

御名 御璽

○（明治二十三年十月六日公布）

民法中財産取得編人事編ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム此法律ハ明治二十六年一月一日ヨリ施行スヘキコトヲ命ス

御名 御璽

○人事編目錄

第一章 私權ノ享有及ヒ行使 丁

第二章 國民分限 丁

第一節 國民分限ノ取得 丁

第二節 國民分限ノ喪失及ヒ回復 丁

第三節 國民分限變更ノ方式及ヒ款力 丁

第三章 親屬及ヒ姻屬 丁

第四章 婚姻 丁

第一節 婚姻ヲ爲スニ必要ナル條件 丁

第二節 婚姻ノ儀式 丁

○民法人事編 乙

第三節　日本人外國ニ於テ爲シ及ヒ外國人日本ニ於テ爲ス婚姻　十一丁
第四節　婚姻成立ノ證據　十二丁
第五節　婚姻ノ不成立及ヒ無效　十四丁
第六節　婚姻ノ效力　十五丁
第七節　罰則　十六丁
第五章　離婚　十六丁
第一節　協議ノ離婚　十七丁
第二節　特定原因ノ離婚　十七丁
第一款　離婚及ヒ不受理ノ原因　十八丁
第二款　假處分　十八丁
第三款　離婚ノ訴　十八丁
第三節　離婚ノ效力　十九丁
第六章　親子　十九丁
第一節　親子ノ分限ノ證據　二十丁
第二節　否認訴權　二十丁
第三節　庶子及ヒ私生子ノ適出子ト爲ル權　二十丁
第七章　養子緣組　二十丁
第一節　養子緣組ニ必用ナル條件　二十丁
第二節　養子緣組ノ儀式　二十丁

第三節　養子緣組ノ證據　二十三丁
第四節　養子緣組ノ不成立及ヒ無效　二十四丁
第五節　養子緣組ノ效力　二十四丁
第六節　罰則　二十四丁
第八章　養子ノ離緣　二十五丁
第一節　協議ノ離緣　二十五丁
第二節　特定原因ノ離緣　二十五丁
第三節　離緣ノ效力　二十六丁
第九章　親權　二十六丁
第一節　子ノ身上ニ對スル權　二十七丁
第二節　子ノ財産ノ管理　二十七丁
第三節　嫡母、繼父及ヒ繼母ニ特別ナル規則　二十七丁
第十章　後見　二十八丁
總則　二十八丁
第一節　後見人　二十八丁
第二節　後見監督人　二十八丁
第三節　親族會　二十九丁
第四節　後見ノ免除　二十九丁
第五節　後見人及ヒ親族會員ノ缺格、除斥及ヒ辭職　三十丁
○人事編　三十丁

第六節　後見人ノ管理　三十一丁
第七節　後見監督人ノ任務　三十三丁
第八節　後見ノ終了　三十四丁
第九節　後見ノ計算　仝丁
第十一章　自治産　三十五丁
第十二章　禁治産　三十六丁
第一節　民事上禁治産　仝丁
第二節　准禁治産　三十八丁
第三節　刑事上禁治産　三十九丁
第四節　瘋癲者ノ財産ノ假管理　仝丁
第十三章　戸主及ヒ家族　四十丁
第十四章　住所　仝丁
第十五章　失踪　四十二丁
第一節　失踪ノ推定　仝丁
第二節　失踪ノ宣言　四十四丁
第三節　失踪ノ宣言ノ效力　仝丁
第四節　失踪ノ推定及ヒ宣言ニ關スル通則　四十五丁
第五節　不在者ニ關スル規則　仝丁
第十六章　身分ニ關スル證書　仝丁

○人事編

第一章　私權ノ享有及ヒ行使

第一條　凡ソ人ハ私權ヲ享有シ法律ニ定メタル無能力者ニ非サル限リハ自ラ其私權ヲ行使スルコトヲ得

第二條　胎內ノ子ト雖モ其利益ヲ保護スルニ付テハ既ニ生マレタル者ト看做ス

第三條　私權ノ行使ニ關スル成年ハ滿二十年トス但法律ニ特別ノ規定アルトキハ此限ニ在ラス

第四條　外國人ハ法律又ハ條約ニ禁止アルモノヲ除ク外私權ヲ享有ス

第五條　法人ハ公私ヲ問ハス法律ノ認許スルニ非サレハ成立スルコトヲ得ス又法律ノ規定ニ從フニ非サレハ私權ヲ享有スルコトヲ得ス

第六條　法律ハ外國法人ノ成立ヲ認許セス但條約又ハ特許アルトキハ此限ニ在ラス

成立ノ認許ヲ得タル外國法人ハ日本ニ成立スル同種ノ者ト同一ノ私權ヲ享有ス但條約中又ハ特許中ニ其權利ヲ制限シタルトキハ此限ニ在ラス

第二章　國民分限

第一節　國民分限ノ取得

第七條　日本人ノ子ハ外國ニ於テ生マレタルトキト雖モ日本人トス

父母分限ヲ異ニスルトキハ父ノ分限ヲ以テ子ノ分限ヲ定ム

父ノ知レサルトキハ子ハ母ノ分限ニ從フ

父母共ニ知レサルトキハ日本ニ於テ生マレタル子ハ日本人トス若シ其出生地ノ知レサルトキ

日本國內ニ在ル者ハ日本人トス

第八條　左ノ場合中ノ一ニ在ル子ハ日本人ノ分限ヲ選擇スルコトヲ得

第一　父カ外國人タルモ母ノ日本人タルトキ

第二　外國人ノ子タルモ日本ニ生マレタルトキ

第三　日本人ノ分限ヲ失ヒタル者ノ子ニシテ其分限喪失ノ後ニ生マレタル者ナルトキ

第四　歸化人ノ子ニシテ成年者ナルトキ

第九條　日本人ノ分限ヲ選擇セント欲スル子ハ本國法律ニ從ヒテ成年ニ至リシ時ヨリ一个年內ニ其意思ヲ申述シ且其申述ヨリ一个年內ニ住所ヲ日本ニ定ムル可シ

成年ノ後ニ至リテ外國人ノ認知シタル私出子ハ認知ヨリ又歸化人ノ子ハ歸化ヨリ一个年內ニ右ノ申述ヲ爲スコトヲ得

第十條　日本人ト婚姻スル外國ノ女ハ日本人ノ分限ヲ取得シ婚姻解消ノ後ト雖モ其分限ヲ保有ス

第十一條　外國人ハ歸化ニ因リテ日本人ノ分限ヲ取得スルコトヲ得其條件及ヒ方式ハ特別法ヲ以テ之ヲ規定ス

歸化人ノ婦及ヒ未成年ノ子ハ日本ニ住居ヲ定メタルトキハ日本人ノ分限ヲ取得ス

第二節　國民分限ノ喪失及ヒ回復

第十二條　日本人ハ左ノ場合ニ於テ其分限ヲ失フ

第一　任意ニ外國人ノ分限ヲ取得シタルトキ

第二　日本政府ノ允許ナクシテ外國政府ノ官職ヲ受ケ又ハ外國ノ軍隊ニ入リタルトキ

第十三條　前條ノ場合ニ於テ日本人ノ分限ヲ失ヒタル者其分限ヲ回復セント欲スルトキハ日本政府ノ允許ヲ得タル上歸國シテ其意思ヲ申述シ且一个年內ニ住所ヲ日本ニ定ムルトキハ其分限ヲ回復ス

第十四條　日本人ノ分限ヲ失ヒタル者ノ婦及ヒ未成年ノ子ハ引續キ日本ニ住居スルニ非サレハ日本人ノ分限ヲ失フ但婦ハ第十五條第二項ノ規定ニ從ヒ又未成年ノ子ハ第九條第一項ノ規定ニ從ヒ其分限ヲ回復スルコトヲ得

第十五條　外國人ト婚姻スル日本人ノ女ハ日本人ノ分限ヲ失フ

然レトモ婚姻解消ノ後日本ニ住居シ又ハ復歸シ且日本ニ住所ヲ定ムルコトヲ申述スルトキハ其分限ヲ回復ス

第三節　國民分限變更ノ方式及ヒ效力

第十六條　國民分限ノ變更ニ關スル申述ハ日本ニ在リテハ住居地ノ身分取扱吏ニ外國ニ在リテハ日本公使館又ハ日本領事館ニ之ヲ爲ス可シ

此申述ハ部理代理人ヲ以テ之ヲ爲スコトヲ得

第十七條　國民分限ノ變更ハ將來ニ非サレハ其效力ヲ生セス

第十八條　國民分限ハ出生ノ時ヲ以テ之ヲ定ム然レトモ懷胎ヨリ出生マテノ間父又ハ母ノ分限ニ變更アリタルトキハ子ハ日本ニ住居スル場合ニ限リ日本人ノ分限ヲ保有ス

第三章　親屬及ヒ姻屬

第十九條　親屬トハ血統ノ相聯結スル者ノ關係ヲ謂フ

六親等ノ外ハ親屬ノ關係アルモ民法上ノ効力ヲ生セス

第二十條　親屬ノ遠近ハ世數ヲ以テ之ヲ定メ一世ヲ以テ一親等トス

親等ノ連續スルヲ親系ト爲ス彼ヨリ此ニ直下スル者ノ親系ヲ直系ト謂ヒ其直下セスレヲ同始祖ニ出

ツル者ノ親系ヲ傍系ト謂フ

直系ニ於テ自己ノ出ツル所ノ親族ヲ尊属親ト謂ヒ自己ヨリ出ツル所ノ親族ヲ卑属親ト謂フ

第二十一條　直系ニ於テハ親族ノ世數ヲ算シテ親等ヲ定ム

傍系ニ於テハ親族ノ一人ヨリ同始祖ニ遡リ又其始祖ヨリ他ノ一人ニ下タル其間ノ世數ヲ算シテ親等ヲ定ム

第二十二條　養子縁組ハ養子ト養父母及ヒ其親族トノ間ニ親属ニ同シキ關係ヲ生ス但養子ニハ男女ヲ總稱ス

第二十三條　嫡母、繼父又ハ繼母ト其配偶者ノ子トノ關係ハ親子ニ準ス

第二十四條　姻属トハ婚姻ニ因リテ夫婦ノ一方ト其配偶者ノ親族トノ間ニ生スル關係ヲ謂フ

然レトモ婦ノ夫家ニ於ケル又入夫ノ婦家ニ於ケル尊属親トノ關係ハ親属ニ準ス

第二十五條　夫婦ノ一方ノ親族ハ其親系及ヒ親等ニ於テ配偶者ノ姻族トス

姻属ノ關係ハ婚姻無効ノ判決又ハ離婚ニ因リテ止ム又生存配偶者其家ヲ去ルニ因リテ止ム

第二十六條　直系ノ親族ハ相互ニ養料ヲ給スル義務ヲ負擔ス

嫡母、繼父又ハ繼母ト其配偶者ノ子トノ間及ヒ婦又ハ入夫ト夫家又ハ婦家ノ尊属親トノ間モ亦同シ

第二十七條　兄弟姉妹ノ間ニハ疾病其他本人ノ責ニ歸セサル事故ニ因リテ自ラ生活スル能ハサル場合ニ限リ相互ニ養料ヲ給スル義務アリ

第二十八條　養料ノ義務ヲ負擔ス可キ者ノ順位ハ左ノ如シ

第一　第二十六條ニ掲ケタル者

第二　兄弟姉妹

直系ノ親族ノ間ハ其親等ノ最モ近キ者養料ノ義務ヲ負擔ス

第二十九條　養料ハ之ヲ受ク可キ者ノ必需ト之ヲ給ス可キ者ノ資産トニ應シテ其額ヲ定ム

第四章　婚姻

第一節　婚姻ヲ爲スニ必要ナル條件

第三十條　男ハ滿十七年女ハ滿十五年ニ至ラサレハ婚姻ヲ爲スコトヲ得ス

第三十一條　配偶者アル者ハ重ネテ婚姻ヲ爲スコトヲ得ス

第三十二條　夫ノ失踪ニ原因スル離婚ノ場合ヲ除ク外女ハ前姻解消ノ後六个月内ニ再婚ヲ爲スコトヲ得ス

此制禁ハ其分娩シタル日ヨリ止ム

第三十三條　姦通ノ原因ニ由リテ離婚ノ裁判ヲ言渡サレタル曲者ハ相姦者ト婚姻ヲ爲スコトヲ得ス

第三十四條　直系ニ於テハ尊属親卑属親トノ間婚姻ヲ禁ス

第三十五條　傍系ニ於テハ兄弟姉妹及ヒ伯叔父姑甥姪ノ間婚姻ヲ禁ス

第三十六條　直系ノ姻族ノ間ハ其關係ノ止ミタル後ト雖モ婚姻ヲ禁ス

第三十七條　養子ト養父母又ハ其尊属親ト養子ノ配偶者又ハ其卑属親トノ間及ヒ養父母又ハ其尊属親ト養子ノ配偶者又ハ其卑属親トノ間ハ離縁ノ後ト雖モ婚姻ヲ禁ス

第三十八條　子ハ父母ノ許諾ヲ受クルニ非サレハ婚姻ヲ爲スコトヲ得ス

父母ノ一方カ死亡シ又ハ其意思ヲ表スル能ハサルトキハ他ノ一方ノ許諾ヲ以テ足ル

繼父又ハ繼母アル場合ニ於テ其配偶者タル母又ハ父ノ死亡シ又ハ其意思ヲ表スル能ハサルトキハ繼父又ハ繼母ノ許諾ヲ受ク可シ其許諾ニ付テハ第九章第三節ノ規定ヲ適用ス

第三十九條　父母共ニ死亡シ又ハ其意思ヲ表スル能ハサルトキハ其家ノ祖父母ノ許諾ヲ受ク可シ
祖父母ノ一方カ死亡シ又ハ其意思ヲ表スル能ハサルトキハ他ノ一方ノ許諾ヲ以テ足ル
第四十條　父母祖父母悉ク死亡シ又ハ其意思ヲ表スル能ハサルトキハ滿二十年ニ至ラサル者ニ限リ後見人ノ許諾ヲ受ク可シ
第四十一條　父母ノ知レサル子ハ二十年未滿ニ限リ後見人ノ許諾ヲ受ク可シ
第四十二條　育兒院ニ在リテ父母ノ知レサル子ノ婚姻ハ二十年未滿ニ限リ院長ノ許諾ヲ受ク可シ

第二節　婚姻ノ儀式

第四十三條　婚姻ノ儀式ハ當事者ノ一方ノ住所又ハ居所ノ地ニ於テ之ヲ行フ可シ
雙方ハ婚姻ノ儀式ヲ行フ前ニ其地ノ身分取扱吏ニ婚姻ヲ爲サントスル申出ヲ爲スコトヲ要ス但此申出ハ代理人ヲ以テ之ヲ爲スコトヲ得
第四十四條　雙方ハ前條ノ申出ヲ爲ス時ニ於テ左ノ書類ヲ差出タス可シ
第一　出生證書
第二　前婚ノ解消ヲ證スル證書
第三　婚姻ニ必要ナル許諾書又ハ其許諾ヲ得ル能ハサル事由ヲ證スル書類
第四十五條　雙方又ハ一方カ出生證書ヲ呈示スル能ハサルトキハ出生地、住所又ハ居所ノ區裁判所ノ授付シタル保證書ヲ以テ出生證書ニ代用スルコトヲ得
保證書ハ男女ヲ問ハス又親族ト否トヲ問ハス證人二人カ左ノ諸件ニ付キ區裁判所ニ爲シタル申述ヲ記載ス
第一　本人ノ氏名、職業、住所及ヒ居所竝ニ其父母分明ナルトキハ其氏名、職業、住所及ヒ居所
第二　本人ノ出生ノ地及ヒ年月日
第三　本人ノ出生證書ヲ呈示スル能ハサル原因及ヒ證人ノ其事實ヲ聞知シタル緣由
第四十六條　身分取扱吏ハ婚姻ノ儀式ヲ行フ障碍ト爲ル可キ法律上ノ原因アルコトヲ知リタルトキハ其儀式ヲ行フコトヲ差止ム可シ
此場合ニ於テハ身分取扱吏ハ理由ヲ記シタル差止書ヲ授付ス可シ
當事者此差止ヲ不當ナリト思料スルトキハ區裁判所ニ抗告シテ其取消ヲ求ムルコトヲ得
裁判所ハ休暇事件ト同シク之ヲ取扱フ可シ
第四十七條　婚姻ハ證人二人ノ立會ヲ得テ慣習ニ從ヒ其儀式ヲ行フニ因リテ成ル
當事者ノ承諾ハ此儀式ヲ行フニ因リテ成立ス
第四十八條　婚姻ノ儀式ハ其申出ノ日ヨリ三日後三十日內ニ之ヲ行フコトヲ要ス
第四十九條　婚姻ノ儀式ヲ行ヒタルトキハ雙方ヨリ十日內ニ身分取扱吏ニ其屆出ヲ爲ス可シ但此屆出ハ代理人ヲ以テ之ヲ爲スコトヲ得

第三節　日本人外國ニ於テ爲シ及ヒ外國人日本ニ於テ爲ス婚姻

第五十條　外國ニ於テ日本人ノ間又ハ日本人ト外國人トノ間ニ婚姻ヲ爲ストキハ其國ノ規則ニ從ヒテ儀式ヲ行フコトヲ得但本章第一節ニ定メタル條件ニ違背セサルコトヲ要ス
第五十一條　外國ニ於テ日本人ノ間ニ日本ノ規則ニ從ヒテ婚姻ヲ爲ストキハ其國ニ在ル日本公使館又ハ日本領事館ニ婚姻ノ申出ヲ爲スコトヲ要ス
婚姻ノ儀式ヲ行ヒタルトキハ第四十九條ノ規定ニ從ヒテ其屆出ヲ爲ス可シ
第五十二條　日本ニ於テ外國人ノ婚姻ヲ爲サントスルトキハ其能力ハ本國ノ法律ニ從フ但第三十一條

乃至第三十七條ノ條件ニ違背セサルコトヲ要ス

外國人ハ婚姻ノ申出ヲ爲スヿニ於テ婚姻ヲ爲スニ障碍ナキコトヲ證スル本國相當官署ノ認證書ヲ提出タス可シ

第四節　婚姻成立ノ證據

第五十三條　婚姻成立ノ證據ハ婚姻證書ヲ以テ之ヲ舉ク可シ但第二百九十一條ニ規定スルモノハ此限ニ在ラス

第五十四條　婚姻證書ヲ增減シ毀棄シ隱匿シ又ハ片紙ニ記載シタル場合ニ於テ刑事又ハ民事ノ訴訟ニ因リテ婚姻ノ成立ヲ認メタル判決ハ之ヲ婚姻證書ニ代用スルコトヲ得

第五節　婚姻ノ不成立及ヒ無效

第五十五條　人違、喪心又ハ强暴ニ因リテ雙方又ハ一方ノ承諾ノ全ク欠缺シタル婚姻ハ不成立トス

第三十四條乃至第三十七條ノ規定ニ違ヒテ爲シタル婚姻モ亦不成立トス

婚姻ノ不成立ハ何人ニ限ラス何時ニテモ之ヲ申立ツルコトヲ得

第五十六條　第三十條、第三十一條及ヒ第三十三條ノ規定ニ違ヒテ婚姻ヲ爲シタルトキハ雙方、其屬親又ハ現實ノ利益ヲ有スル者ヨリ何時ニテモ其無效ヲ請求スルコトヲ得

右同一ノ場合ニ於テ檢事ハ夫婦ノ生存中ニ限リ職權ヲ以テ婚姻ノ無效ヲ請求スルコトヲ得

第五十七條　不適齡ニ付キ無效ヲ請求スル權利ハ左ノ場合ニ於テ消滅ス

第一　適齡ナラサリシ者カ適齡ニ至レル後明示ニテ婚姻ヲ認諾シ又ハ三ヶ月ヲ過キタルトキ

第二　無效ノ請求後ト雖モ婦カ適齡ナラスシテ懷胎シタルトキ

第三　夫カ適齡ナラスシテ婦ノ懷胎シタルトキ但婦　義絕ヲ請スルトキハ格別ナリトス

第五十八條　重婚ニ原因スル婚姻無效ノ請求アリタル場合ニ於テ後婚ノ雙方カ前婚ノ不成立、無效又ハ離婚ヲ主張スルトキハ先ツ其裁判ヲ爲ス可シ

前婚ノ配偶者カ失踪シタルトキハ其失踪中ハ重婚ノ無效訴權ヲ行フコトヲ得ス

第五十九條　左ノ場合ニ於テハ婚姻ハ無效トス

第一　身分取扱吏ニ婚姻ノ申出ヲ爲サス又ハ其差止ヲ受ケタルニ拘ハラス儀式ヲ行ヒタルトキ

第二　身分取扱吏ノ管轄違ナルトキ

第三　第四十八條ノ規定ニ違ヒテ儀式ヲ行ヒタルトキ

第四　證人二人ノ立會ナクシテ儀式ヲ行ヒタルトキ

此無效ハ第五十六條ニ掲ケタル者ヨリ之ヲ請求スルコトヲ得但婚姻儀式後一ヶ年ヲ過キタルトキハ無效訴權ヲ行フコトヲ得ス

第六十條　第三十八條乃至第四十二條ニ定メタル許諾ナクシテ婚姻ヲ爲シタルトキハ其許諾ヲ與フル可キ者又ハ之ヲ受ク可キ者ヨリ其無效ヲ請求スルコトヲ得

許諾アリタル場合ト雖モ其許諾カ强暴ニ原因シタルトキハ其許諾ヲ與フル可キ者又ハ之ヲ受ク可キ者カ婚姻ヲ認諾セスシテ死亡シ又ハ其意思ヲ表スル能ハサルトキハ法律ニ定メタル順位ニ從ヒテ其許諾ヲ與フル可キ者ハ無效訴權ヲ行フコトヲ得

第六十一條　前條ノ場合ニ於テ婚姻ノ許諾ヲ與フル可キ者カ認諾ヲ爲シ又ハ婚姻アリタルコトヲ知リシ後三ヶ月ヲ過キタルトキ

第六十二條　第六十條ニ掲タル無效訴權ハ左ノ場合ニ於テ消滅ス

第一　婚姻ノ許諾ヲ與フル可キ者カ認諾ヲ爲シ又ハ婚姻アリタルコトヲ知リシ後三ヶ月ヲ過キタルトキ

第二　三ヶ月內ト雖モ許諾ヲ受ク可キ者カ婚姻上ノ成年ニ至リ又ハ死亡シタルトキ

第六十三條　强暴ニ因リテ承諾ニ瑕疵アル婚姻ノ無效ハ强暴ヲ受ケタル者ニ限リ之ヲ請求スルコトヲ得

第六十四條　前條ノ場合ニ於テ配偶者强暴ヲ免カレタル後明示ニテ認諾シ又ハ三个月間引續キ同居シタルトキハ婚姻ノ無效ヲ請求スルコトヲ得ス其同居セサル場合ニ於テモ無効訴權ハ一个年ヲ以テ消滅ス

第六十五條　裁判所ハ婚姻ノ不成立又ハ無効ノ訴訟中夫婦ノ一方ノ請求ニ因リ又ハ職權ヲ以テ婚又ハ夫ニ住家ヲ去ル可キヲ命スルコトヲ得

第六十六條　無效ノ言渡アリタル婚姻ハ子ニ付テハ其出生ノ婚姻前後ナルヲ問ハス法律上ノ効力ヲ生ス

第六節　婚姻ノ效力

第六十七條　婚姻ハ其儀式ヲ行ヒタル日ヨリ效力ヲ生ス但夫婦財産契約ニ付テハ婚姻ノ屆出後ニ非サレハ第三者ニ對シテ婚姻ノ效力ヲ援用スルコトヲ得ス

第六十八條　婦ハ夫ノ許可得ナルニ非サレハ贈與ヲ爲シ之ヲ受諾シ不動産ヲ讓渡シ之ヲ擔保ニ供シ借財ヲ爲シ債權ヲ讓渡シ之ヲ買入シ元本ヲ領收シ保證ヲ約シ及ヒ身體ニ羈絆ヲ受クル約束ヲ爲スコトヲ得ス又和解ヲ爲シ仲裁ヲ受ケ及ヒ訴訟ヲ起スコトヲ得ス

第六十九條　夫ノ許可ハ特定又ハ總括ナルコトヲ得但總括ノ許可ハ證書ヲ以テ之ヲ與フルコトヲ要ス夫ハ夫婦財産契約ニ依リテ與ヘタル總括ノ許可ト雖モ之ヲ廢棄スルコトヲ得

第七十條　左ノ場合ニ於テハ婦ハ夫ノ許可ヲ得ルコトヲ要セス

第一　夫カ失踪ノ推定ヲ受ケタルトキ

第二　夫カ禁治産又ハ准禁治産ヲ受ケタルトキ

第三　夫カ癲癇ノ爲メ病院又ハ監護ニ在ルトキ

第七十一條　夫ハ婦ニ與ヘタル許可ニ因リテ義務ヲ負擔セス

第七十二條　夫ノ許可ヲ得スシテ婦ノ爲シタル行爲ハ之ヲ銷除スルコトヲ得

此銷除ハ夫婦ノ各自及ヒ婦ノ承繼人ニ非サレハ之ヲ請求スルコトヲ得ス

第七十三條　夫ニ屬スル銷除訴權ハ其銷除シ得ヘキ行爲ヲ知リタル日ヨリ五个年ノ時效ニ因リ又ハ婚姻ノ解消ニ因リテ消滅ス

婦及ヒ其承繼人ニ屬スル銷除訴權ハ婚姻解消ノ日ヨリ五个年ノ時效ニ因リテ消滅ス

財産編第五百四十四條以下ノ規定ハ本條ノ銷除訴權ニ之ヲ適用ス

第七節　罰則

第七十四條　婚姻申出ノ時ニ必要ノ書類ヲ出差タサシメサル身分取扱吏ハ貳圓以上貳拾圓以下ノ過料ニ處ス

第七十五條　婚姻ノ不成立又ハ無效タル可キ法律上ノ原因アルヲ知リテ其儀式ヲ行フコトヲ禁止メサル身分取扱吏ハ三圓以上三拾圓以下ノ罰金ニ處ス

第七十六條　第三十二條ノ制禁ニ違背シテ再婚ヲ爲シタル婦ハ貳圓以上貳拾圓以下ノ罰金ニ處ス其情ヲ知リテ婚姻ヲ爲シタル夫及ヒ婚姻ノ儀式ヲ行フコトヲ差止メサル身分取扱吏モ亦同シ

第七十七條　夫婦ノ一方ニシテ婚姻ノ無效ヲ致シタル原因ヲ知リ之ヲ他ノ一方ニ隱蔽シタル者ハ三圓以上三拾圓以下ノ罰金ニ處ス

第五章　離婚

○人事編

第一節　協議ノ離婚

第七十八條　夫婦ハ下ニ定メタル條件及ヒ方式ニ從ヒ協議ヲ以テ離婚ヲ爲スコトヲ得

第七十九條　離婚セントスル夫婦ハ婚姻許諾ノ爲メ第四章第一節ニ定メタル規則ニ從ヒ各其父母、祖父母又ハ後見人ノ許諾ヲ受クルコトヲ要ス

第八十條　夫婦ハ離婚協議書ニ左ノ書類ヲ添ヘテ身分取扱吏ニ屆出ツ可シ

第一　婚姻證書

第二　離婚ノ許諾ヲ與フ可キ者ノ許諾書若シ其者死亡シ又ハ意思ヲ表スル能ハサルトキハ死亡證書又ハ其事由ヲ證スル書類

第二節　特定原因ノ離婚

第一款　離婚及ヒ不受理ノ原因

第八十一條　離婚ハ左ノ原因アルニ非サレハ之ヲ請求スルコトヲ得ス

第一　姦通但夫ノ姦通ハ刑ニ處セラレタル場合ニ限ル

第二　同居ニ堪ヘサル暴虐、脅迫及ヒ重大ノ侮辱

第三　重罪ニ因レル處刑

第四　編盜、詐欺取財又ハ猥褻ノ罪ニ因レル重禁錮一年以上ノ處刑

第五　惡意ノ遺棄

第六　失踪ノ宣言

第七　婦ハ又入夫ヨリ其家ノ尊屬親ニ對シ又ハ尊屬親ヨリ婦又ハ入夫ニ對スル暴虐、脅迫及ヒ重大ノ侮辱

第八十二條　離婚ノ請求ヲ爲ス一方ニ對シテ離婚ノ原因存スルトキハ他ノ一方モ反訴ヲ以テ離婚ヲ請求スルコトヲ得

然レトモ前條第三號及ヒ第四號ニ記載スル重罪又ハ輕罪ノ刑ニ處セラレタル一方ハ他ノ一方ノ處刑ヲ原因トシテ離婚ヲ請求スルコトヲ得ス

第二款　假處分

第八十三條　離婚ノ訴訟中子ノ監護ハ原告又ハ被告タルヲ問ハス夫ニ屬ス但入夫及ヒ嫡養子ニ付テハ婦ニ屬ス

然レトモ裁判所ハ夫、婦、親族又ハ役所ノ請求ニ因リ子ノ利益ヲ慮リテ其監護ヲ他ノ一方又ハ第三者ニ命スルコトヲ得

第八十四條　離婚ノ訴訟中婦ハ原告又ハ被告タルヲ問ハス裁判所ノ許可ヲ得テ住家ヲ去ルコトヲ得此場合ニ於テハ自己ノ衣服其他ノ日用物品ヲ持去リ且必要アルトキハ養料ヲ請求スルコトヲ得

裁判所ハ夫ノ意見ヲ聽キテ婦ノ移居ス可キ家屋ヲ指示スルコトヲ要ス若シ婦カ正當ノ理由ナクシテ其家屋ヲ去ルトキハ夫ハ養料ヲ拒ムコトヲ得

第八十五條　入夫及ヒ嫡養子ニ付テハ裁判所ハ離婚ノ訴訟中夫ヲシテ住家ヲ去ラシムルコトヲ得此場合ニ於テハ前條第一項ノ規定ヲ適用ス

第八十六條　裁判所ハ住家ヲ去ル婦又ハ夫ノ請求ニ因リ其財産ヲ保存スル爲メニ必要ナル處分ヲ命スルコトヲ得

第三款　離婚ノ訴

第八十七條　離婚ヲ請求スル訴權ハ夫婦ノミニ屬ス

第八十八條　離婚ノ原因ハ通常ノ證據方法ヲ以テ之ヲ證スヲ可シ但シ自白ノミヲ以テ之ヲ證スルコトヲ得ス又界族親ヲ除ク外親族姻族又ハ雇人ニ關スル忌避ノ規定ヲ適用セス

第三節　離婚ノ效力

第八十九條　離婚ハ其屆出又ハ裁判確定ノ後ニ非サレハ效力ヲ生セス

第九十條　離婚ノ後子ノ監護ハ夫ニ屬ス但入夫及ヒ婿養子ニ付テハ婚ニ屬ス

然レトモ裁判所ハ夫婦、親族、又ハ檢事ノ請求ニ因リ子ノ利益ヲ慮リテ之ヲ他ノ一方又ハ第三者ノ監護ニ付スルコトヲ得

第六章　親子

第一節　親子ノ分限ノ證據

第九十一條　婚姻中ニ懷胎シタル子ハ夫ノ子トス

婚姻ノ儀式ヨリ百八十日後又ハ夫ノ死亡若クハ離婚ヨリ三百日內ニ生マレタル子ハ婚姻中ニ懷胎シタルモノト推定ス

第九十二條　嫡出子ハ出生証書ヲ以テ之ヲ証ス

第九十三條　出生証書ヲ呈示スル能ハサルトキハ親子ノ分限ハ嫡出子タル身分ノ占有ヲ以テ之ヲ証スルコトヲ得但第二百九十一條ノ規定ノ適用ヲ妨ケス

第九十四條　身分ノ占有トハ夫婦ト其婚姻ニ因リテ生マレタリト主張スル者トノ間其者ノ出生ノ時ヨリ親子ノ分限ヲ証スルニ足ル可キ事實ノ湊合スルヲ謂フ其事實ノ著明ナルモノ左ノ如シ

第一　子ナリト主張スル者カ常ニ其父ナリトスル者ノ氏ヲ稱シタルコト

第二　子ナリト主張スル者カ常ニ其父母ナリトスル者ヨリ嫡出子ノ如ク取扱ハレ其養育、教育ヲ受ケタルコト

第三　子ナリト主張スル者カ常ニ親族及ヒ世上ニ於テ嫡出子ト認メラレタルコト

第九十五條　庶子ハ父ノ屆出ニ基ク出生證書ヲ以テ之ヲ證ス但身分ノ占有ニ關スル規定ヲ適用ス

第九十六條　父ノ知レサル子ハ私生子トス

第九十七條　私生子ハ出生証書ヲ以テ之ヲ証ス但身分ノ占有ニ關スル規定ヲ適用ス

第九十八條　私生子ハ父之ヲ認知スルニ因リテ庶子ト爲ル

第九十九條　庶子ノ出生屆及ヒ認知ハ父自ラ身分取扱吏ニ之ヲ爲スコトヲ要ス未成年者ト雖モ自ラ之ヲ爲スコトヲ得

第二節　否認訴權

第百條　否認訴權ハ夫ノミニ屬ス但子ノ出生後ニ非サレハ之ヲ行フコトヲ得ス

第百一條　夫カ民事上ノ禁治産ヲ受ケタルトキハ後見人又ハ後見監督人ハ親族會ノ許可ヲ得テ否認訴權ヲ行フコトヲ得

第百二條　夫カ子ノ出生ノ場所ニ在ルトキハ出生ヨリ三个月ノ期間內ニ限リ否認訴權ヲ行フコトヲ得但夫カ婚ト住家ヲ異ニシ又ハ婚カ子ノ出生ヲ夫ニ隱祕シタルトキハ此期間ハ子ノ出生ヲ知リタルヨリ起算ス

若シ夫カ遠隔ノ地ニ在ルトキハ訴權ノ期間ヲ四个月トシ子ノ出生ヲ知リタルヨリ起算ス

第三節　庶子及ヒ私生子ノ嫡出子ト爲ル權

第百三條　庶子ハ父母ノ婚姻ニ因リテ嫡出子ト爲ル

私生子ハ父母ノ婚姻ノ後父ノ認知シタルニ因リテ嫡出子ト爲ル

第百四條　死亡シタル子ト雖モ前條ノ規定ニ依リ嫡出子ト爲ル此場合ニ於テハ其効力ハ子ノ生ミタル子ヲ利ス

第百五條　父母ノ婚姻ノ時マテニ父子ノ分限確定シタル者ハ婚姻ノ日ヨリ又婚姻ノ後ニ確定シタル者ハ確定ノ日ヨリ嫡出子ノ權利ヲ有ス

第七章　養子緣組

第一節　養子緣組ニ必要ナル條件

第百六條　何人ト雖モ養子ト爲ル可キ者ヨリ年長ニシテ成年ナルニ非サレハ養子ヲ爲スコトヲ得

遺言ヲ爲ス能力アル者ハ遺言養子ヲ爲スコトヲ得

第百七條　家督相續ヲ爲ス可キ男子アル者ハ養子ヲ爲スコトヲ得

第百八條　後見人ハ管理ノ計算ヲ爲ササル前ニ被後見人ヲ養子ト爲スコトヲ得ス但選擇養子ト爲スハ此限ニ在ラス

第百九條　戸主ニ非サル者ハ養子ヲ爲スコトヲ得ス但推定家督相續人ニシテ戸主ノ許諾ヲ得タル者ハ此限ニ在ラス

第百十條　配偶者アル者ハ其配偶者ノ承諾ヲ得ルニ非サレハ養子ヲ爲スコトヲ得ス但配偶者カ其意思ヲ表スル能ハサルトキハ此限ニ在ラス

配偶者アル者ハ其配偶者ト一致スルニ非サレハ養子ト爲ルコトヲ得ス

第百十一條　家督相續ニ因リテ戸主ト爲リタル者ハ他人ノ養子ト爲ルコトヲ得ス

又推定家督相續人ハ他人ノ養子ト爲ルコトヲ得ス

然レトモ分家ヨリ本家ヲ承繼スル必要アルトキハ本條ノ規定ヲ適用セス

第百十二條　外國人ハ日本人ノ養子ト爲ルコトヲ得ス

第二節　養子緣組ノ儀式

第百十三條　養子緣組ハ當事者ノ承諾ニ因リテ成ル

此承諾ハ証人二人ノ立會ヲ得テ慣習ニ從ヒ緣組ノ儀式ヲ行フニ付テハ第四十三條、第四十六條及ヒ第四十八條ノ規定ヲ適用ス

第百十四條　當事者ハ身分取扱吏ニ緣組ノ申出ヲ爲ス時ニ於テ左ノ書類ヲ差出タス可シ

第一　養子ヲ爲ス者及ヒ養子ト爲ル者ノ出生証書又ハ之ニ代用スル保証書

第二　家督相續ヲ爲ス可キ男子ナキコトヲ証スル身分取扱吏ノ証書又ハ推定家督相續人除除ノ証書

第三　配偶者ノ承諾書又ハ承諾ヲ得ル能ハサル事由ヲ証スル書類

第四　後見管理ノ計算ヲ爲シタル証明書

第五　緣組ニ必要ナル許諾書又ハ許諾ヲ得ル能ハサル事由ヲ証スル書類

第百十五條　滿十五年ニ至ラサル子ノ緣組ハ父母ノ一方ニ於テ緣組ヲ承諾スルコトヲ得

父母ノ一方カ死亡シ又ハ其意思ヲ表スル能ハサルトキハ他ノ一方ニ於テ緣組ヲ承諾スルコトヲ得

父母共ニ死亡シ又ハ其意思ヲ表スル能ハサルトキハ其家ノ祖父母若シ其一方カ死亡シ又ハ其意思ヲ表スル能ハサルトキハ他ノ一方ニ於テ緣組ヲ承諾スルコトヲ得

第百十六條　滿十五年ニ至リタル者ハ父母ノ許諾ヲ受ケテ緣組ヲ承諾スルコトヲ得

父母ノ一方カ死亡シ又ハ其意思ヲ表スル能ハサルトキハ他ノ一方ノ許諾ヲ以テ足ル

父母共ニ死亡シ又ハ其意思ヲ表スル能ハサルトキハ其家ノ祖父母ノ許諾ヲ受ク可シ若シ祖父母ノ一

方カ死亡シ又ハ其意思ヲ表スル能ハサルトキハ他ノ一方ノ許諾ヲ以テ足ル

第百十七條　父母、祖父母悉ク死亡シ又ハ其意思ヲ表スル能ハサルトキハ二十年未滿ノ者ニ限リ前二條ニ定メタル年齢ノ區別ニ從ヒテ後見人之ヲ承諾シ又ハ其許諾ヲ與フ

第百十八條　私生子ノ養子縁組ニ付テハ母之ヲ承諾シ又ハ其許諾ヲ與フ父母ノ知レサル子ニ付テハ前條ノ規定ヲ適用ス

第百十九條　前數條ノ場合ニ於テ繼父又ハ繼母アルトキハ第三十八條第三項ノ規定ヲ適用ス

第百二十條　嬰兒院ニ在リテ父母ノ知レサル子ノ縁組ハ二十年未滿ニ限リ第百十五條及ヒ第百十六條ニ定メタル年齢ノ區別ニ從ヒテ院長之ヲ承諾シ又ハ其許諾ヲ與フルコトヲ得

第百二十一條　婿養子縁組ニ付テハ婚姻ノ申出ヲ爲ス時ニ於テ當事者ハ婿養子縁組ヲ爲スノ意思ヲ身分取扱吏ニ申出ツ可シ

此縁組ニ必要ナル條件ノ欠缺スルトキハ身分取扱吏ハ婚姻ノ儀式ヲ差止ムルコトヲ得

此縁組ハ婚姻ノ儀式ヲ行フニ因リテ成ル

第百二十二條　遺言養子縁組ハ遺言書ヲ以テ之ヲ爲ス

此遺言ハ養子ヲ爲ス者ノ死亡ノ日ニ家督相續ヲ爲ス可キ卑屬親アルトキハ其效ヲ失フ

第百二十三條　遺言養子ヲ爲ス者ノ死亡シタルトキハ第百十五條以下ノ規定ニ從ヒテ縁組ノ受諾ヲ爲ス可シ

第百二十四條　縁組ノ儀式ヲ行ヒ又ハ縁組ノ受諾ヲ爲シタルトキハ當事者ヨリ十日內ニ身分取扱吏ニ屆出ツ可シ但此屆出ハ代理人ヲ以テ之ヲ爲スコトヲ得

第百二十五條　第五十條乃至第五十二條ノ規定ハ之ヲ縁組ニ適用ス但本章第一節ニ定メタル條件ニ違背セサルコトヲ要ス

第三節　養子縁組ノ証據

第百二十六條　縁組ハ縁組証書ヲ以テ之ヲ証ス但第二百九十一條ノ規定ノ適用ヲ妨ケス

第五十四條ノ規定ハ縁組ニ之ヲ適用ス

第四節　養子縁組ノ不成立及ヒ無效

第百二十七條　縁組ハ人違、喪心又ハ强暴ニ因リテ承諾ノ全ク欠缺シタルトキハ不成立トス

第百二十八條　縁組ハ本章第一節ニ定メタル條件ノ一ニ違背シタルトキハ無效トス

此無效ハ第百三十條ノ場合ヲ除ク外當事者其他現實ノ利益ヲ有スル者及ヒ檢事ヨリ何時ニテモ之ヲ請求スルコトヲ得

第百二十九條　縁組ハ左ノ場合ニ於テ無效トス

第一　縁組ノ申出ヲ爲サス又ハ身分取扱吏ノ差止ヲ受ケタルニ拘ハラス儀式ヲ行ヒタルトキ

第二　証人二人ノ立會ナクシテ儀式ヲ行ヒタルトキ

第三　第四十八條ノ規定ニ違ヒテ儀式ヲ行ヒタルトキ

第四　縁組ノ申出ヲ受ケタル身分取扱吏ノ管轄違ナルトキ

此無效ハ儀式後一个年內ニ限リ前條ニ掲ケタル者ヨリ之ヲ請求スルコトヲ得

第三十條　第百八條又ハ第百九條但書ノ規定ニ違ヒタル縁組ノ無效ハ被後見人又ハ養家ノ戶主ニ非サレハ之ヲ請求スルコトヲ得ス

被後見人カ成年ニ至リ又ハ戶主カ縁組ヲ知リタル後縁組ヲ認諾シ又ハ三个月ヲ過キタルトキハ其權ヲ失フ

第百三十一條　强暴ノ爲メ承諾ニ瑕疵アル縁組ノ無效ハ强暴ヲ受ケタル者ニ限リ之ヲ請求スルコトヲ得但强暴ヲ免カレタル後縁組ヲ認諾シ又ハ三个月ヲ過キタルトキハ其訴權ヲ失フ

第百三十二條　第百十六條乃至第百二十條ニ定メタル許諾ナクシテ爲シタル縁組ノ無效ハ許諾ヲ與フ可キ者又ハ許諾ヲ受ク可キ者ニ非サレハ之ヲ請求スルコトヲ得

第六十條第二項、第六十一條及ヒ第六十二條ノ規定ハ此無效訴權ニ之ヲ適用ス

第百三十三條　婿養子縁組ニ付テハ當事者ハ縁組又ハ婚姻ノ無效言渡ヲ原因トシテ婚姻又ハ縁組ノ無效ヲ請求スルコトヲ得但無效言渡ノ後三个月ヲ過キタルトキハ其訴權ヲ失フ

第五節　養子縁組ノ效力

第百三十四條　養子ハ縁組ノ日ヨリ養家ニ於テ嫡出子ノ權利及ヒ義務ヲ有ス

第百三十五條　養子ハ特別ニ職業ヲ營ムニ因リテ取得シタル利益及ヒ其資産シ又ハ相續、贈與若クハ遺贈ニ因リテ取得シタル財産ノ所有權ヲ有ス但未成年中ノ財産管理ハ第九章ノ規定ニ從ヒテ養父母ニ屬ス

第六節　罰則

第百三十六條　縁組申出ノ時ニ必要ノ書類ヲ差出タサシメサル身分取扱吏ハ二圓以上二十圓以下ノ過料ニ處ス

縁組ノ不成立又ハ無效タル可キ法律上ノ原因アルコトヲ知リテ其儀式ヲ行フヲ差止メサル身分取扱吏ハ三圓以上三十圓以下ノ罰金ニ處ス

第八章　養子ノ離縁

第一節　協議ノ離縁

第百三十七條　養子ヲ爲シタル者及ヒ養子ト爲リタル者ハ協議ヲ以テ離縁ヲ爲スコトヲ得

然レトモ十五年未滿ニテ養子ト爲リタル者ノ離縁ハ滿十五年ニ至ラサル間ニ限リ養子ヲ爲シタル者ト縁組承諾ノ權ヲ有スル者トノ協議ヲ以テ之ヲ爲ス

第百三十八條　離縁ヲ爲サントスル養子ハ縁組許諾ノ爲メ定メタル規則ニ從ヒ其父母、祖父母又ハ後見人ノ許諾ヲ受クルコトヲ要ス

第百三十九條　當事者ハ離縁協議書ニ左ノ書類ヲ添ヘテ身分取扱吏ニ届出ツ可シ

第一　縁組許書

第二　離縁ノ爲メニ必要ナル許諾書又ハ許諾ヲ得ル能ハサル事由ヲ証スル書類

第二節　特定原因ノ離縁

第百四十條　離縁ハ左ノ原因アルニ非サレハ之ヲ請求スルコトヲ得ス

第一　養子ヨリ養家ノ尊屬親ニ對シ又ハ養家ノ尊屬親ヨリ養子ニ對スル暴虐、脅迫、遺棄又ハ重大ノ侮辱

第二　重罪ニ因レル處刑

第三　竊盜又ハ詐欺取財ノ罪ニ因レル重禁錮一年以上ノ處刑

第四　浪費

第八十二條及ヒ第八十八條ノ規定ハ離縁ニ之ヲ適用ス

第百四十一條　離縁ヲ請求スル訴權ハ養子ヲ爲シタル者及ヒ養子ト爲リタル者ノミニ屬ス

養子ヲ爲シタル者又ハ養子ト爲リタル者カ死亡シタルトキハ離縁ノ訴權ハ消滅ス但訴訟中ニ死亡シタル場合ニ於テハ現實ノ利益ヲ有スル者其訴訟ヲ續行スルコトヲ得

第百四十二條　養子ヲ爲シタル者カ禁治産中ニ在ルトキハ後見人又ハ後見監督人ハ親族會ノ許可ヲ得テ離縁ヲ請求スルコトヲ得

養子ト爲リタル者カ禁治産中ニ在ルトキハ實家ノ父母、祖父母又ハ戸主ヨリ離縁ヲ請求スルコトヲ得

第百四十三條　養子ノ滿十五年ニ至ラサル間ハ縁組承諾ノ權ヲ有スル者ヨリ離縁ヲ請求スルコトヲ得

第百四十四條　養子ノ養父母ト同居スルトキハ裁判所ハ離縁訴訟中養子ヲシテ住家ヲ去ラシムルコトヲ得

此場合ニ於テハ養子ノ衣服其他ノ日用物品ヲ持去リ且必要アルトキハ養料ヲ請求スルコトヲ得

裁判所ハ養子ノ請求ニ因リテ其財産ヲ保存スル爲メニ必用ナル處分ヲ命スルコトヲ得

第百四十五條　離縁ハ養子ノ家督相續後之ヲ爲スコトヲ得ス

第三節　離縁ノ效力

第百四十六條　離縁ハ其屆出又ハ裁判確定ノ後ニ非サレハ效力ヲ生セス

第百四十七條　離縁ト爲リタル養子ハ自己ノ過失ノ有無ニ拘ハラス其所有財産ニ限リ之ヲ請求スルコトヲ得但養家ノ爲メニ消費シタルモノハ此限ニ在ラス

第百四十八條　婿養子縁組ニ付テハ當事者ハ離縁ヲ原因トシテ離婚ヲ請求シ又離婚ヲ原因トシテ離縁ヲ請求スルコトヲ得但離婚又ハ離縁ヨリ三ヶ月ヲ過キタルトキハ其訴權ヲ失フ

第九章　親權

第一節　子ノ身上ニ對スル權

第百四十九條　親權ハ父之ヲ行フ

父死亡シ又ハ親權ヲ行フ能ハサルトキハ母之ヲ行フ

父又ハ母其家ヲ去リタルトキハ親權ヲ行フコトヲ得ス

第百五十條　未成年ノ子ハ過權ヲ行フ父又ハ母ノ許可ヲ受クルニ非サレハ父母ノ住家又ハ其指定シタル住家ヲ去ルコトヲ得ス

子カ許可ヲ受ケスシテ其住家ヲ去リタルトキハ父又ハ母ハ區裁判所ニ申請シテ歸家セシムルコトヲ得

第百五十一條　父又ハ母ハ子ヲ懲戒スル權ヲ有ス但過度ノ懲戒ヲ加フルコトヲ得ス

第百五十二條　子ノ行狀ニ付キ重大ナル不滿意ノ事由アルトキハ父又ハ母ハ區裁判所ニ申請シテ其子ヲ感化場又ハ懲戒場ニ入ルルコトヲ得

入場ノ日數ハ六ヶ月ヲ超過セサル期間内ニ於テ之ヲ定ム可シ但シ父又ハ母ハ裁判所ニ申請シテ更ニ其日數ヲ增減スルコトヲ得

右申請ニ付テハ總テ裁判上ノ書面及ヒ手續ヲ用ユルコトヲ得ス

裁判所ハ檢事ノ意見ヲ聽キテ決定ヲ爲ス可シ父、母及ヒ子ハ其決定ニ對シテ抗告ヲ爲スコトヲ得

第二節　子ノ財産ノ管理

第百五十三條　父ハ未成年ナル子ノ總テノ行爲ニ付テ之ヲ代表シ自己ノ財産ニ於ケル如ク其財産ヲ管理ス

第百五十四條　父ノ管理ニ於テハ第百九十四條ニ記載シタル行爲ハ尙ホ之ヲ管理行爲ト看做ス

第百五十五條　父ハ特別ニ職業ヲ營ムニ因リテ取得シタル利益及ヒ相續贈與又ハ遺贈ニ因リテ取得シタル財産ノ所有權ヲ有ス

第百五十六條　父ハ管理ノ止ミタルトキハ子ニ其財産ヲ引渡ス可シ但收益ハ子ノ養育教育ノ費用及ヒ

管理ノ費用ニ供シタルモノト看做ス

第百五十七條　本節ノ規定ハ母カ子ノ財産ヲ管理スル場合ニ之ヲ適用ス

然レトモ母ハ管理ヲ辞スルコトヲ得

第三節　嫡母、継父及ヒ継母ニ特別ナル規則

第百五十八條　嫡母継父又ハ継母ノ親權ヲ行フ場合ニ於テハ相談人ヲ付スルコトヲ得

此相談人ハ配偶者證書若クハ遺言書ヲ以テ之ヲ定メ又ハ親族會其選決ヲ以テ之ヲ定ム

第百五十九條　相談人ハ後見監督人ト同一ノ權限及ヒ義務ヲ有ス

第百六十條　配偶者カ相談人ヲ定メサル場合ニ於テ親族會ヲ招集セサルトキ又ハ配偶者若クハ親族會ノ定メタル相談人ニ相談セサルトキハ區裁判所ハ檢事ノ請求ニ因リ嫡母、継父又ハ継母ニ對シテ親權行使ノ禁止ヲ宣告スルコトヲ得

第十章　後見

総則

第百六十一條　後見ハ未成年者ノ父又ハ母ニシテ生存スル者ノ死亡ニ因リテ開始ス

父母共ニ生存シ又ハ其一方ノ生存スルモ親權ヲ行フ能ハサルトキ又ハ母カ子ノ財産ノ管理ヲ辞スルトキモ亦同シ

第百六十二條　一家ニ未成年者數人アルモ後見人ハ一人タル可シ

第百六十三條　後見人ハ親族會ノ免除ヲ得ヲル限リハ後見ヲ承諾ス可シ若シ後見人之ヲ承諾セス又ハ其任務ヲ怠ルトキハ利害關係人又ハ檢事ノ請求ニ因リテ區裁判所ハ代務者ヲ命スルコトヲ得

後見人ハ代務者ノ管理ノ費用ヲ負擔シ且其管理ニ付キ責ニ任ス

第一節　後見人

第百六十四條　親權ヲ行フ父又ハ母ハ其生前ニ於テ親族、姻族又ハ他人ノ中ヨリ後見人タル可キ者ヲ指定スル權ヲ有ス

第百六十五條　後見人ノ指定ハ遺言書若クハ證書ヲ以テ之ヲ爲シ又ハ區裁判所ニ口述シテ之ヲ爲ス可シ此口述ニ付テハ調書ヲ作ルコトヲ要ス

第百六十六條　父又ハ母カ後見人ヲ指定セサリシトキハ其家ノ祖父後見人ト爲ル但未成年ノ家族ニ付テハ成年ノ戸主後見人ト爲ル

第百六十七條　遺言後見人モ祖父若クハ戸主タル後見人モ有ラサルトキ又ハ此等ノ後見人カ免除セラレ除斥セラレ罷黜セラレ若クハ死亡シタルトキハ親族會ニ於テ後見人ヲ選定ス

第百六十八條　未成年者ヲ有スル人ノ死亡シタルトキ又ハ未成年者ヲ有スル父若クハ母ノ婚姻其他ノ事故ニ因リテ他家ニ入リタルトキハ區裁判所ハ未成年者ノ親族若クハ利害關係人ノ請求ニ因リ後見人ヲ設定スル爲メ親族會ヲ招集ス可シ

第二節　後見監督人

第百六十九條　後見ニハ一人ノ後見監督人ヲ付スルコトヲ得

後見監督人ハ後見人ヲ定ムルト同一ノ手續ニ從ヒテ之ヲ指定シ又ハ親族會ニ於テ之ヲ選定ス

本節第四節及ヒ第五節ノ規定ハ後見監督人ニ之ヲ適用ス

第百七十條　後見監督人ヲ置カサル場合ニ於テ監督ヲ要スルコト有ルトキハ親族會ニ於テ會員一人ヲ選定シ臨時ニ後見監督人ノ任務ヲ行ハシム

第三節　親族會

第百七十一條　親族會ハ未成年者ノ最近親族三人以上ヲ以テ之ヲ設ク但親族三人ニ滿タサルトキハ未成年者ニ緣故アル者ヲ以テ之ヲ補足ス

本家及ヒ分家ノ戸主ハ親族會ニ列スルコトヲ得

第百七十二條　親族會ハ親族、後見人、後見監督人、保佐人又ハ利害關係人ノ求メニ因リテ召集ス

第百七十三條　戸主成年ナルトキハ家族ノ爲メ親族會ヲ設クルコトヲ要セス

第百七十四條　養子ノ親族會ニハ實家ノ親族モ其會員タルコトヲ得

第百七十五條　會員ハ自己ノ利害ニ關係アル會議ニ列スルコトヲ得ス

第百七十六條　親族會ヲ設クル能ハサルトキハ區裁判所其事ヲ行フ

第百七十七條　未成年者ノ親族會ノ外親族會ヲ組成スル必要アルトキモ亦本節ノ規定ヲ適用ス

第四節　後見ノ免除

第百七十八條　左ニ掲クル者ハ當然後見人タルコトヲ免除セラル

第一　現役ニ服スル軍人、軍屬

第二　被後見人住居ノ市又ハ郡ノ外ニ於テ公務ニ從事スル人

第百七十九條　後見免除ノ求メハ親族會之ヲ決ス後見人解任ヲ求メタルトキモ亦同シ

第五節　後見人及ヒ親族會員ノ缺格、除斥及ヒ褫奪

第百八十條　左ニ掲クル者ハ後見人タルコトヲ得ス又親族會員タルコトヲ得ス

第一　未成年者

第二　民事上禁治産者及ヒ准禁治産者

第三　未成年者ノ身分又ハ財産ニ對シテ訴訟ヲ爲ス人及ヒ其人ノ配偶、尊屬、卑屬、配偶者

第百八十一條　左ニ掲クル者ハ後見及ヒ親族會ヨリ除斥セラル可シ現ニ任務ニ從事スル者ハ之ヲ褫奪ス

第一　甚シキ不行跡ナル人

第二　後見管理ニ不能又ハ不正實ヲ顯ハセル後見人

第三　任務ヲ免黜セラレタル裁判上ノ保佐人

第四　公權剝奪、公權停止及ヒ刑事上禁治産ヲ受ケタル人

第五　復權ヲ得サル破産者及ヒ家資分散者

第百八十二條　後見人及ヒ親族會員ノ除斥又ハ褫奪ハ親族會ニ於テ之ヲ爲ス

第六節　後見人ノ管理

第百八十三條　後見人後見ノ開始ヲ知ルトキハ直チニ任務ニ就クコトヲ要ス

親族會ニ於テ後見人ヲ選定シ其後見人在席スルトキハ直チニ任務ニ就キ若シ在席セサルトキハ通知ヲ得タル日ヨリ任務ニ就クコトヲ要ス

第百八十四條　後見人ハ未成年者ヲ監護シ其教育ヲ擔任ス

尊屬後見人及ヒ戸主後見人ヲ除ク外後見人若シ未成年者ノ在來ノ住居又ハ教育方法ヲ變更セントスルトキハ親族會ニ協議ス可シ

第百八十五條　後見人ハ父母ノ如ク未成年者ヲ懲戒スルコトヲ得

未成年者ノ行狀ニ付キ重大ナル不滿意ノ事由アルトキハ後見人ハ親族會ノ許可ヲ得タル上第百五十二條ノ規定ニ從ヒテ未成年者ニ對スル處分ヲ爲スコトヲ得

後見人カ其權ヲ濫用シ又ハ其義務ヲ怠ルトキハ未成年者及ヒ其親族ハ親族會ニ之ヲ申告スルコトヲ

得

第百八十六條　後見人ハ未成年者ノ總テノ行爲ニ付テ之ヲ代表シ善良ナル管理者ノ如ク其財産ヲ管理シ管理ノ失當又ハ過失ヨリ生スル損害賠償ノ責ニ任ス

第百八十七條　後見人ハ當然其任務ニ就ク可キ日ヨリ十日内ニ後見監督人ノ立會ヲ得テ未成年者ノ財産ヲ調査ス可シ

財産目錄ノ調製ハ二个月内ニ之ヲ終了スルコトヲ要ス但親族會ハ狀況ニ從ヒテ延期ヲ許スコトヲ得

第百八十八條　後見人カ未成年者ノ債務者又ハ債權者ナルトキハ目錄ノ調製前其旨ヲ公証人又ハ親族會ニ明言スルコトヲ要ス

後見人カ債權ノ存立ヲ知リテ之ヲ明言セサリシトキハ其債權ヲ喪失ス又債務ノ存立ヲ知リテ之ヲ明言セサリシトキハ隔裁判所ハ其後見人ヲ罷黜スルコトヲ得但急迫ノ場合ニ於テハ三十圓以下ノ過料ニ處スルコトヲ得

第百八十九條　目錄調製ヲ終了セサル間ハ後見人ハ要急闕ク可カラサル管理行爲ノミヲ爲スコトヲ得

第百九十條　後見人ハ任務執行ノ初ニ於テ親族會ニ協議シ未成年者ノ養育ノ需用、教育ノ程度ト其資産トニ從ヒ毎年要ス可キ金額及ヒ財産管理ニ係ル費用ヲ定ム

親族會ハ相當ノ給料ヲ與フル一人又ハ數人ノ管理者ヲ後見人ノ自己ノ責任ヲ以テ使用スルコトヲ得

第百九十一條　後見人ハ未成年者ノ元本及ヒ收益ノ剩餘ヲ毎次ニ官ノ貯金預所又ハ確實ナル銀行ニ預ク可シ其預ケサリシ金額ニ付テハ法律上ノ利息ヲ辨濟ス可シ

後見人カ未成年者ノ財産ノ利用方法ヲ變更セントスルトキハ親族會ノ許可ヲ受クルコトヲ要ス

第百九十二條　親屬後見人及ヒ戸主後見人ヲ除ク外後見人ハ一个年内ノ管理ノ狀況ヲ親族會ニ報告ス可シ

第百九十三條　後見人ハ未成年者ノ財産ニ付テハ管理ノ權ヲ有スルニ止マリ此權外ノ行爲ハ法律ニ定メタル條件ニ依ルニ非サレハ之ヲ爲スコトヲ得ス

第百九十四條　左ニ掲クル行爲ニ關シテハ後見人ハ親族會ノ許可ヲ得ルコトヲ要ス

第一　元本ヲ利用シ又ハ借財ヲ爲スコト

第二　不動産及ヒ重要ナル動産ヲ讓渡シ之ニ物權ヲ設定シ又ハ之ヲ取得スルコト

第三　動産、不動産ニ係ル訴訟又ハ和解、中獨ニ關スルコト

第四　相續、遺贈若クハ贈與ヲ受諾シ又ハ拋棄スルコト

第五　新築、改築、增築又ハ大修繕ヲ爲スコト

第六　財産編第百十九條ニ定メタル期間ヲ超ユル賃貸ヲ爲スコト

第百九十五條　後見人ハ未成年者ノ財産ヲ讓受クルコトヲ得又未成年者ニ對スル權利ヲ讓受クルコトヲ得ス

第百九十六條　後見人ハ親族會ノ許可ヲ得ルニ非サレハ未成年者ノ不動産ヲ賃借スルコトヲ得ス

第百九十七條　後見人ノ其權内ニ於テ爲シタル行爲ハ未成年者ヲ羈束ス

第七節　後見監督人ノ任務

第百九十八條　後見監督人ハ後見人ノ管理ヲ監視スルコトニ任ス

後見監督人ハ後見人ヲ缺クトキト雖モ後見ノ任務ヲ行フコトヲ得ス此場合ニ於テハ直チニ後任ノ後見人ヲ定ムル手續ヲ爲スコトヲ要ス

第百九十九條　未成年者ト後見人トノ間ニ利益相反スルトキハ後見監督人ハ未成年者ヲ代表ス

第二百條　必要ナル場合ニ於テハ後見監督人ハ保存行爲ヲ爲スコトヲ得

第二百一條　法律上後見監督人ノ立會フ可キ行爲ニシテ其立會ナクシテ爲シタルモノハ無效トス

第八節　後見ノ終了

第二百二條　後見ノ任務ハ後見人ノ一身ニ止マリ其相續人ニ移轉セス然レトモ相續人カ成年者ナルトキハ後任ノ後見人ノ任務ニ就クマテ管理ヲ繼續ス可シ

第二百三條　未成年者カ成年ニ達シ又ハ自治產ニ至ルニ因リテ後見ノ止ムトキハ後見人ハ其計算ヲ完了スルマテ管理ヲ繼續ス

第二百四條　假ニ管理ヲ爲ス者ハ必要ナル行爲ノミヲ爲スコトヲ得

第九節　後見ノ計算

第二百五條　後見人ハ管理ノ終了スルトキハ其計算ヲ爲ス可シ

第二百六條　後見ノ決算ハ後見監督人ノ立會ニテ未成年者ノ成年ニ達シタル者又ハ其自治產ニ至リタル者ニ對シテ之ヲ爲ス

後見カ後見人ノ身上ニ係リテ終了スルトキハ決算ハ後任ノ後見人ニ對シテ之ヲ爲シ親族會ノ許可ニ付ス但第百八條ノ場合ニ於テハ決算ハ後見監督人ニ對シテ之ヲ爲ス

後見カ未成年者ノ死亡ニ因リテ終了スルトキハ決算ハ其相續人ニ對シテ之ヲ爲ス

後見ノ決算ニ係ル費用ハ未成年者ノ負擔ニ屬ス

第二百七條　後見ノ決算ハ管理終了ノ日ヨリ三个月內ニ之ヲ爲ス可シ但親族會ハ當事者ノ求メニ因リテ延期ヲ許スコトヲ得

第二百八條　後見人ト未成年者ノ成年ニ達シタル者トノ合意ニシテ後見ノ決算前ニ爲シタルモノハ無效トス

第二百九條　後見ノ費用ハ豫算ノ定額ヲ超ユルト雖モ後見人其有益タルコトヲ認スルトキハ未成年者ノ負擔ニ屬ス

第二百十條　後見人ヨリ未成年者ニ返濟ス可キ金額ハ決算完結ノ日ヨリ當然利息ヲ生ス

未成年者ヨリ後見人ニ返濟ス可キ金額ハ決算完結ノ後後見人ノ催告ニ因リテ利息ヲ生ス

第二百十一條　後見ノ計算ニ係ル未成年者ノ債權ハ五个年ノ時效ニ因リテ消滅ス後見人其他假ニ後見管理ヲ爲シタル人ノ未成年者ニ對スル債權モ亦同シ

未成年者ト後見監督人又ハ親族會員トノ間ノ後見ニ係ル債權ニ付テモ亦前項ノ規定ヲ適用ス

此期間ハ未成年者ノ成年ニ達シ又ハ死亡シタル日ヨリ起算シ第二百八條ノ場合ニ於テ後見ノ計算ニ係ル債權ニ付テハ合意無效ノ裁判言渡ノ日ヨリ起算ス

第二百十二條　後見監督人及ヒ假ニ後見管理ヲ爲シタル人ハ代理契約ノ原則ニ從ヒテ過失ノ責ニ任ス

第十一章　自治產

第二百十三條　未成年者ハ婚姻ヲ爲スニ因リテ當然自治產ノ權ヲ得

第二百十四條　親權ヲ行フ父又ハ母ハ滿十五年ニ達シタル未成年ノ子ニ自治產ヲ許スコトヲ得

此自治產ハ身分取扱吏ニ屆出ツ可シ

第二百十五條　後見ニ服スル未成年者ノ滿十七年ニ達シタルトキハ親族會ハ其未成年者ニ自治產ヲ許スコトヲ得

此自治產ハ後見人ヨリ身分取扱吏ニ屆出ツ可シ

第二百十六條　自治産ノ未成年者ハ之ヲ保佐ニ付ス
親權ヲ行ヒタル父又ハ母ハ當然保佐人ト爲ル
親權ヲ行フ父又ハ母ハ其生前ニ第百六十五條ノ規定ニ從ヒテ保佐人ヲ指定スルコトヲ得
若シ之ヲ指定セサリシトキハ其家ノ祖父保佐人ト爲リ家族ニ付テハ成年ノ戸主保佐人ト爲ル
夫ハ當然未成年ノ婦ノ保佐人ト爲ル
此他ノ場合ニ於テハ親族會ニ於テ保佐人ヲ選定ス

第二百十七條　後見人ニ關シテ定メタル免除、缺格、除斥及ヒ辭職ノ規則ハ之ヲ保佐人ニ適用ス

第二百十八條　自治産ノ未成年者ハ保佐人ノ立會アルニ非サレハ元本ヲ領收スルコトヲ得ス

第二百十九條　第百九十四條ニ掲ケタル行爲ニ付テハ自治産ノ未成年者ハ保佐人ノ立會アルニ非サレハ之ヲ爲スコトヲ得ス

第二百二十條　父母ヲ除ク外保佐人ハ後見人ト同シク過失ノ責ニ任ス

第二百二十一條　自治産ヲ許サレタル未成年者カ不行跡又ハ財産管理ノ失當ニ因リテ自治産者タルニ適セサルトキハ親族會ハ其自治産ヲ廢止スルコトヲ得
親權ヲ行ヒタル父又ハ母ハ自治産ヲ廢止スルコトヲ得若シ此等ノ者アラサルトキハ親族會員ハ保佐人ハ此廢止ヲ親族會ニ求ムルコトヲ得
未成年者ハ自治産廢止ノ日ヨリ親權又ハ後見ニ服シ成年ニ達スルマテ復タ自治産者ト爲ルコトヲ得ス

第十二章　禁治産

第一節　民事上禁治産

第二百二十二條　心神喪失ノ常況ニ在ル者ハ時時本心ニ復スルコトアルモ其治産ヲ禁スルコトヲ得

第二百二十三條　禁治産ハ配偶者四親等内ノ親族、戸主及ヒ檢事ヨリ之ヲ區裁判所ニ請求スルコトヲ得
禁治産ヲ請求スル權利ヲ有スル一人ノ申立ニ因リテ言渡シタル裁判ハ總テノ人ニ對シテ既判力ヲ有ス

第二百二十四條　禁治産者ハ之ヲ後見ニ付ス
配偶者ハ當然相互ニ後見人ト爲ル若シ配偶者アラサルトキハ其家ノ父後見人ト爲リ父アラサルトキハ親權ヲ行フコトヲ得ヘキ母後見人ト爲ル
父又ハ母ハ第百六十五條ニ定メタル方式ニ從ヒテ後見人ヲ指定スルコトヲ得若シ指定セサリシトキハ第百六十六條ノ規定ヲ適用ス
法律上ノ後見人モ選擇後見人モ有ラス又ハ此等ノ後見人カ免除セラレ除斥セラレ若クハ辭職セラレタルトキハ第十章ニ定メタル方式ニ從ヒ親族會ニ於テ後見人ヲ選定ス

第二百二十五條　配偶者、尊屬親、卑屬親及ヒ戸主ヲ除ク外何人タリトモ十个年以上禁治産者ノ後見ヲ擔任スルコトヲ要セス

第二百二十六條　未成年者ノ後見ニ係ル規定ハ禁治産者ノ後見ニ之ヲ適用ス

第二百二十七條　疾病ノ性質ト資産ノ狀況トニ從ヒテ禁治産者ヲ自宅ニ療養セシメ又ハ之ヲ病院ニ入ラシムルハ親族會ノ決議ニ依ル但癲癇病院ニ入ラシメ又ハ自宅ニ監護スル手續ハ特別法ヲ以テ之ヲ定ム

第二百二十八條　法律上ノ後見人ハ第百九十二條ニ定メタル管理狀況ノ報告ヲ爲スコトヲ要セス

第二百二十九條　禁治産者ノ財産ヲ以テ其子孫ノ教育婚姻又ハ營業ノ資ニ供セントスルトキハ親族會ノ許可ヲ得ルコトヲ要ス

第二百三十條　禁治産者ハ禁治産ノ裁判言渡ノ日ヨリ無能力者トス

裁判言渡後ニ爲シタル禁治産者ノ行爲ハ之ヲ銷除スルコトヲ得

禁治産ノ裁判言渡前ニ爲シタル禁治産者ノ行爲ニ對シテモ其行爲ノ當時ニ於テ喪心ノ明確ナルトキハ銷除訴權ヲ行フコトヲ得

第二百三十一條　禁治産ノ原因止ミタルトキハ本人、配偶者、親族、姻族、戸主、後見人又ハ檢事ノ請求ニ因リテ其禁ヲ解ク可シ

禁治産者ハ解禁ノ裁判言渡後ニ非サレハ其權利ヲ回復スルコトヲ得ス

第二節　准禁治産

第二百三十二條　心神耗弱者、聾唖者、盲者及ヒ浪費者ハ准禁治産者ト爲シテ之ヲ保佐ニ付スルコトヲ得

准禁治産ノ言渡ハ配偶者、三親等内ノ親族及ヒ戸主ノ請求ニ因リ區裁判所之ヲ爲ス

保佐人ニ付テハ第二百二十四條及ヒ第二百二十五條ノ規定ヲ適用ス

第二百三十三條　第二百十七條乃至第二百二十條ノ規定ハ之ヲ准禁治産ニ適用ス

裁判所ハ狀況ニ從ヒ保佐人ノ立會アルニ非サレハ管理行爲ナモ爲スコトヲ得サル旨ヲ言渡スコトヲ得

第二百三十四條　准禁治産者カ保佐人ノ立會ナクシテ爲シタル行爲ニ付テハ第二百三十條ノ規定ヲ適用ス

第二百三十五條　准禁治産ノ原因止ミタルトキハ本人、配偶者、親族、姻族、戸主、保佐人又ハ檢事ノ請求ニ因リテ其禁ヲ解ク可シ

第三節　刑事上禁治産

第二百三十六條　刑事上禁治産ヲ受ケタル者ハ其財産ヲ管理スルコトヲ得ス又遺言ヲ以テスル外ハ其財産ヲ處分スルコトヲ得ス

第二百三十七條　刑事上禁治産者ニハ後見人ヲ付シテ其財産ヲ管理セシム此後見人ノ指定及ヒ管理ノ方法ニ付テハ民事上禁治産者ノ後見ニ係ル規定ヲ適用ス

第二百二十九條ノ場合ニ於テハ禁治産者ノ同意ヲ得ルヲ以テ足ル

第四節　瘋癲者ノ財産ノ假管理

第二百三十八條　禁治産ヲ受サル瘋癲者アルトキハ配偶者、親族戸主及ヒ檢事ハ區裁判所ノ許可ヲ得テ特別法ニ定ムル手續ニ從ヒ之ヲ瘋癲病院ニ入レ又ハ自宅ニ監護スルコトヲ得

此場合ニ於テハ裁判所ハ直チニ假管理人ヲ指定ス

第二百三十九條　瘋癲病院ニ入リ又ハ自宅ニ監護セラレタル者ハ入院中又ハ監護中其財産ヲ監理シ及ヒ處分スルコトヲ得ス

第二百四十條　假管理人ハ瘋癲者ノ給テノ行爲ニ付テ之ヲ代表シ禁治産者ノ後見人ト同視セラル但必要ナル行爲ニ非サレハ之ヲ爲スコトヲ得ス

第二百四十一條　瘋癲者ノ入院中又ハ監護中ニ行爲ヲ爲シタル證據アルトキハ其行爲ヲ銷除スルコトヲ得但相手方カ瘋癲者ノ本心ニテ行爲ヲ爲シタルコトヲ證スルトキハ此限ニ在ラス

第二百四十二條　瘋癲者ノ無能力ハ區裁判所カ假管理ヲ解タニ因リテ止ム

第二百四十三條　戸主トハ一家ノ長ヲ謂ヒ家族トハ戸主ノ配偶者及ヒ其家ニ在ル親族姻族ヲ謂フ

戸主及ヒ家族ハ其家ノ氏ヲ稱ス

第二百四十四條　戸主ハ家族ニ對シテ養育及ヒ普通教育ノ費用ヲ負擔ス但家族カ自ラ其費用ヲ辨スルコトヲ得ルトキ又ハ戸主ノ許諾ヲ受ケスシテ他所ニ在ルトキハ此限ニ在ラス

第二百四十五條　家族ハ特別ニ職業ヲ營ムニ因リテ取得シタル利益及ヒ其獨有シ又ハ獨產相續、贈與若クハ遺贈ニ因リテ取得シタル財產ノ所有權ヲ有ス

然レトモ家族カ其家ノ爲メ消費シタル財產ニ付テハ戸主ニ對シテ償還ヲ求ムルコトヲ得ス

第二百四十六條　家族ハ婚姻又ハ養子緣組ヲ爲サントスルトキハ年齡ニ拘ハラス戸主ノ許諾ヲ受クヘシ

第二百四十七條　他家ニ入リテ夫、婦又ハ養子ト爲リタル者ハ婚姻ノ無效、養子緣組ノ無效、離婚又ハ離緣ノ場合ニ於テハ實家ニ復歸ス

然レトモ此等カ婚姻又ハ養子緣組ニ付キ實家戸主ノ許諾ヲ受ケサリシトキハ戸主ハ復歸ノ事由ヲ知リタリ日ヨリ一个月內ニ身分取扱吏ニ申立テ復歸ヲ拒ムコトヲ得

第二百四十八條　他家ニ入リテ夫又ハ婦ト爲リタル者ハ其配偶者ノ死亡シタルトキト雖モ婚家ヨリ更ニ他ノ家ニ入ルコトヲ得ス

然レトモ婚家及ヒ實家ノ戸主ノ許諾ヲ受ケテ實家ニ復歸スルコトヲ得

第二百四十九條　實家ニ復歸ス可キ者又ハ復歸セントスル者カ復歸スル能ハサルトキハ一家ヲ新立ス

第二百五十條　推定家督相續人ニ非サル家族タル男子カ戸主ノ許諾ヲ受ケスシテ婚姻ヲ爲シタルトキハ一家ヲ新立ス

第二百五十一條　家督相續ニ因リテ戸主ト爲リタルモノハ其家ヲ廢スルコトヲ得ス但分家ヨリ本家ヲ承繼シ其他正當ノ事由アルトキハ區裁判所ノ許可ヲ得テ廢家スルコトヲ得

第二百五十二條　戸主カ國民分限ヲ喪失シタルトキハ廢家シタルモノトシ推定家督相續人ハ一家ヲ新立シ前戸主ノ家族ハ新戸主ノ家ニ入ル

第二百五十三條　戸主カ婚姻其他ノ原因ニ因リテ適法ニ廢家シ他家ニ入リタルトキハ其家族モ亦從テ其家ニ入ル

第二百五十四條　卑屬親ヲ有スル者カ婚姻若クハ養子緣組ノ無效又ハ離婚若クハ離緣ニ因リテ婚家又ハ緣家ヲ去ルトキハ卑屬親ハ仍ホ其家ニ屬ス

第二百五十五條　父母ノ知レサル子ハ一家ヲ新立ス

第二百五十六條　他家ニ入リテ夫、婦又ハ養子ト爲リタル者ハ配偶者又ハ養子ヲ爲シタル者ト協議ノ上兩家ノ戸主ノ許諾ヲ受ケテ實家ニ在ル卑屬親ヲ自家ニ引取ルコトヲ得

婚姻若クハ養子緣組ノ無效又ハ離婚若クハ離緣ニ因リテ婚家又ハ緣家ヲ去リタル者ハ配偶者又ハ養子ヲ爲セシ者ト協議ノ上兩家ノ戸主ノ許諾ヲ受ケテ其家ニ在ル卑屬親ヲ自家ニ引取ルコトヲ得

第二百五十七條　戸主カ家族ニ對シテ婚姻其他ノ事件ニ付キ許諾ヲ與フ可キ場合ニ於テ未成年ナルトキ又ハ其意思ヲ表スル能ハサルトキハ戸主ニ對シテ親權ヲ行フ者又ハ後見人之ヲ代表ス

第二百五十八條　入夫婚姻ノ場合ニ於テハ婚姻中入夫ハ戸主ヲ代表シテ其權ヲ行フ

第二百五十九條　戸主失踪ノ宣言アリタル後其家督相續ノ占有ヲ得タル者ハ其占有中戸主ノ權ヲ行フ

第二百六十條　單身戸主失踪ノ宣言アリテ其亡失若クハ最後音信ノ日ヨリ三十个年ニ至ルモ家督相續

ノ占有者ナキトキハ絶家ス

第二百六十一條　戸主死亡シテ家督相續人ナキトキハ絶家シ其家族ハ一家ヲ新立ス

第十四章　住所

第二百六十二條　民法上ノ住所ハ本籍地ニ在ルモノトス

第二百六十三條　戸主ハ本籍ヲ移ス地ノ身分取扱吏ニ申述シテ住所ヲ變更スルコトヲ得

未成年者又ハ民事上禁治産者タル戸主ノ住所ハ親族會ノ許可ヲ得テ後見人之ヲ變更スルコトヲ得

第二百六十四條　家族カ獨立シテ一家ヲ成ストキハ本籍ヲ定ムル地ノ身分取扱吏ニ其意思ヲ申述シテ住所ヲ設定スルコトヲ得

一家新立ノ未成年者ニ付テハ後見人住所ヲ設定ス可シ

第二百六十五條　外國人始メテ日本ニ住所ヲ定ムルトキハ其意思竝ニ本國氏名及ヒ出生年月日ヲ其地一ノ身分取扱吏ニ申述シ家族アルトキハ其氏名及ヒ出生年月日ヲモ申述ス可シ

第二百六十六條　本籍地カ生計ノ主要タル地ト異ナルトキハ主要地ヲ以テ住所ト爲ス

第二百六十七條　左ノ場合ニ於テハ居所ヲ以テ住所ニ代用ス

第一　住所ノ知レサルトキ

第二　日本ニ住所ヲ定メサル外國人ニ關スルトキ

第二百六十八條　何人ト雖モ或ル行爲又ハ事務ノ爲メニ假住所ヲ選定スルコトヲ得但此選定ハ書面ヲ以テスルコトヲ要ス

第十五章　失踪

第一節　失踪ノ推定

第二百六十九條　住所及ヒ居所ヨリ亡失シ又ハ音信絶エテ生死分明ナラサル人ハ之ヲ失踪者ト推定ス

此推定ノ裁判ハ本人ノ住所ノ區裁判所之ヲ爲ス

第二百七十條　失踪ノ推定ヲ受ケタル者カ總理代理人ヲ定置キタルトキハ其代理人ハ失踪ノ推定中本人ノ財産ヲ管理ス但必要アルトキハ裁判所ハ現實ノ利益ヲ有スル關係人、推定相續人又ハ檢事ノ請求ニ因リテ代理人ノ解任ヲ言渡シ又ハ其後任ヲ指定スルコトヲ得

第二百七十一條　失踪ノ推定ヲ受ケタル者カ總理代理人ヲ定置カサリシトキハ裁判所ハ前條ニ掲ケタル者ノ請求ニ因リテ管理人ヲ指定ス

此管理人ニハ成ル可ク推定相續人ヲ指定スルコトヲ要ス

第二百七十二條　代理人又ハ管理人ハ管理行爲ヲ爲ス權限ノミヲ有ス他ノ行爲ニ付テハ必要ノ場合ニ限リ裁判所ノ許可ヲ得テ之ヲ爲スコトヲ得

代理人又ハ管理人ハ本人ノ利益ニ關係アル目錄調製計算及ヒ清算ニ付テ本人ヲ代表ス

第二百七十三條　管理人ハ失踪者ノ動産及ヒ證書ノ目錄ヲ調製ス可シ又不動産ノ形狀ヲ確定セシムル爲メ鑑定人ノ選定ヲ裁判所ニ請求スルコトヲ得鑑定人ノ報告書ハ裁判所ノ認可ニ付スルコトヲ要ス

此等ノ手續ノ費用ハ本人ノ財産ヲ以テ之ヲ支辨ス

關係人、推定相續人又ハ檢事ノ請求アルトキハ本條ノ規定ヲ代理人ニ適用スルコトヲ得

第二百七十四條　代理人又ハ管理人ハ推定相續人ヲ除ク外其請求ニ因リテ裁判所ノ定メタル給料ヲ受ク裁判所ハ管理及ヒ財産返還ノ擔保トシテ保證人其他相當ノ擔保ヲ立テシムルコトヲ得

第二百七十五條　代理人又ハ管理人ハ失踪者ノ子孫ノ教育婚姻ハ營業ノ爲メ資財ヲ與フルニ付テハ區裁判所ノ許可ヲ受クルコトヲ要ス

第三節　失踪ノ宣言

第二百七十六條　失踪者カ代理人ヲ定置カサリシトキハ五个年又代理人ヲ定置キタルトキハ任期ノ長短ヲ問ハス七个年ニ至ルモ其生死ノ音信ヲ得サルニ於テハ失踪者ノ死亡ニ因リテ發生スル權利ヲ其財産上ニ有スル者ハ失踪者ノ住所ノ區裁判所ニ失踪ノ宣言ヲ請求スルコトヲ得

第二百七十七條　右請求ノ許ス可キモノナルトキハ裁判所ハ失踪者ノ住所及ヒ其最後ノ居所ノ地ニ於テ證人訊問ヲ許ス可キコトヲ命ス可シ此証人訊問ニ付テハ民事訴訟法ニ定メタル忌避ノ規則ヲ適用セス

第二百七十八條　証人訊問ヲ命スル決定ハ裁判所ノ掲示板ニ掲示シ且官報又ハ公報ニ掲載シテ之ヲ公示ス可シ

第二百七十九條　失踪宣言ノ裁判ハ証人訊問ヲ命シタル決定ヨリ一个年ノ後ニ非サレハ之ヲ宣告スルコトヲ得ス

此裁判ハ前條ノ手續ニ從ヒテ之ヲ公示ス可シ

第三節　失踪宣言ノ効力

第二百八十條　失踪宣言ノ裁判アリタルトキハ失踪者ノ遺言書ハ關係人、推定相續人又ハ險事ノ請求ニ因リテ之ヲ開封ス可シ

失踪者ノ亡失又ハ最後音信ノ日ニ於ケル推定相續人其他失踪者ノ死亡ニ因リテ發生スル權利ヲ其財産上ニ有スル者ハ直チニ其財産ヲ占有スルコトヲ得

第二百八十一條　失踪者ニ屬スル財産ノ占有ニ付テハ總テ相續ニ關スル規定ヲ適用ス

此占有ヲ得タル者ハ第三者ニ對シテハ財産ノ所有者トス

然レトモ占有者ハ推定相續人ヲ除ク外財産返還ノ擔保トシテ裁判所カ相當ト認ムル保証人其他ノ擔保ヲ立ツ可シ其保証人ノ義務又ハ擔保ハ十五个年ノ後止ム

第二百八十二條　失踪者ノ現出シ又ハ音信アリタルトキハ失踪宣言ノ効力ハ即時ニ止ム

失踪者ハ其財産ヲ現狀ノ儘ニテ取同シ又占有者ノ處分ニ因リテ不當ニ利得シタルモノヲ取戻スコトヲ得

第二百八十三條　果實ニ付テハ失踪者カ其亡失又ハ最後音信ノ日ヨリ十个年内ニ現出スルトキハ其五分ノ一ヲ取戻スコトヲ得十个年後ハ其全部ヲ失フ

第二百八十四條　失踪者ノ相續順位ニ在ル者ハ他ノ者カ財産占有ヲ得タルヨリ三十个年間其財産ノ返還ヲ請求スルコトヲ得

此場合ニ於テモ果實ハ前條ノ規定ニ從ヒテ之ヲ取戻スコトヲ得

第四節　失踪ノ推定及ヒ宣言ニ關スル通則

第二百八十五條　失踪シテ生存ノ確實ナラサル人ニ歸ス可キ權利ヲ請求スル者ハ其人カ權利ノ發生セシヨリ生存シタルヲ証スルコトヲ要ス此擧証ヲ爲ササル間ハ其請求ヲ受理セス

第二百八十六條　失踪シテ生存ノ確實ナラサル人ニ歸ス可キ相續ハ次順位ノ者ニ屬ス

失踪者ニ歸ス可キ財産ヲ相續スル者ハ財産目錄ヲ調製ス可シ

第二百八十七條　前二條ノ規定ハ失踪者又ハ其相續人及ヒ承繼人ニ屬スル相續ノ請求其他ノ權利ノ行フヲ妨クルコト無シ此等ノ權利ハ普通ノ時効ニ因ルニ非サレハ消滅セス

第五節　不在者ニ關スル規則

第二百八十八條　生存ノ確實ナル人カ住所若クハ居所ヲ去リテ其財産ヲ管理スル者アラサルトキ又ハ裁判所カ未タ失踪ヲ推定セサルモ本人ノ不在ノ爲メ其財産ノ放置セラルルトキ又ハ失踪ノ推定中若クハ宣言後ニ失踪者ノ生存ノ確實ト爲リタルトキハ區裁判所ハ利害關係人又ハ檢事ノ請求ニ因リテ必要ノ保存處分ヲ命スルコトヲ得

第十六章　身分ニ關スル証書

第二百八十九條　出生、婚姻、養子、縁組、死亡其他各人ノ身分ニ關スル事件ハ身分取扱吏ノ主管スル帳簿ニ之ヲ記載ス可シ

第二百九十條　帳簿ニ記載シタル証書ハ公正証書ノ証據力ヲ有ス但違法ノ記載ハ効力ナシ

第二百九十一條　帳簿ノ設備ナク若クハ中絶シタルトキ又ハ其全部若クハ一分ノ毀損シ亡滅シタルトキ又ハ其記載上甚シキ違式、錯誤若クハ脱漏アリテ信用ヲ置ク可カラサルトキ又ハ身分取扱吏ノ詐欺若クハ過失ニ因リテ証書ヲ作ラサリシトキハ証人又ハ私ノ書類ヲ以テ先ツ其事實ヲ証シ且身分上ノ事件ヲ證スルコトヲ得

第二百九十二條　証書ノ訂正ハ裁判ヲ以テスルニ非サレハ之ヲ爲スコトヲ得

第二百九十三條　帳簿ノ調製証書ノ記載届出ノ手續其他ノ事項ハ特別法ヲ以テ之ヲ規定ス

○財産編目錄

總則　財産及ヒ物ノ區別　五十二丁
第一部　物權　五十八丁
第一章　所有權　仝丁
第二章　用益權、使用權及ヒ住居權　六十一丁
第一節　用益權　仝丁
第一款　用益權ノ設定　仝丁
第二款　用益者ノ權利　六十二丁
第三款　用益者ノ義務　六十七丁
第四款　用益權ノ消滅　七十二丁
第二節　使用權及ヒ住居權　七十四丁
第三章　貸借權、永借權及ヒ地上權　七十五丁
第一節　貸借權　仝丁
第一款　貸借權ノ設定　仝丁
第二款　貸借人ノ權利　七十七丁
第三款　貸借人ノ義務　七十九丁
第四款　貸借權ノ消滅　八十丁
第二節　永借權及ヒ地上權　八十三丁

第一款　永借權　乙四十八
第二款　地上權　仝
第四章　占有
第一節　占有ノ種類及ト占有スルコトヲ得ヘキ物　八十六丁
第二節　占有ノ取得　八十七丁
第三節　占有ノ効力　八十九丁
第四節　占有ノ喪失　九十丁
第五章　地役　九十四丁
總則　仝
第一節　法律ヲ以テ設定シタル地役　仝
第一款　隣地ノ立入又ハ通行ノ權利　仝
第二款　水ノ疏通使用及ト引入　九十六丁
第三款　經界　九十九丁
第四款　圍障　百
第五款　互有　百一
第六款　他人ノ所有地ニ對スル觀望及ト明取窓　百三
第七款　或ル工作物ニ要スル距離　百四
前諸款ニ共通ナル規則　仝
第二節　人爲ヲ以テ設定シタル地役　仝
第一款　地役ノ性質及ト種類　仝
第二款　地役ノ設定　仝
第三款　地役ノ効力　仝
第四款　地役ノ消滅　仝
第二部　人權及ト義務　仝
總則　仝
第一章　義務ノ原因　仝
總則　仝
第一節　合意　仝
第一款　合意ノ種類　仝
第二款　合意ノ成立及ト有効ノ條件　百五
第三款　合意ノ効力　仝
第一則　當事者間及ト其承繼人間ノ合意ノ効力　百七
第二則　第三者ニ對スル合意ノ効力　百八
○財産編　百九
第一節　仝
第二節　百十一
第三節　仝
第四節　仝
第五節　仝
第六節　百十二
第七節　仝
第八節　仝
第九節　百十四
第十節　百十九
第十一節　仝
第十二節　百二十三

第四款　合意ノ解釋　百二十六丁
第二節　不當ノ利得　百二十七丁
第三節　不正ノ損害即チ犯罪及ヒ准犯罪　百三十丁
第四節　法律ノ規定　百三十二丁
第二章　義務ノ効力　仝
總則　仝
第一節　直接履行ノ訴權　仝
第二節　損害賠償ノ訴權　仝
第三節　擔保　百三十三丁
第四節　義務ノ諸種ノ體樣　百三十六丁
第一款　成立ノ單純、有期又ハ條件附ナル義務　百三十七丁
第二款　目的ノ單一、撰擇又ハ任意ノ義務　仝
第三款　債權者及ヒ債務者ノ單數又ハ複數ナル義務　百四十二丁
第四款　性質又ハ履行ノ可分又ハ不可分ナル義務　百四十五丁
第三章　義務ノ消滅　百四十六丁
第一節　辨濟　百四十八丁
第一款　單純ノ辨濟　百四十九丁
第二款　辨濟ノ充當　仝
第三款　辨濟ノ提供及供託　百五十三丁
第四款　代位ノ辨濟　百五十四丁
第二節　更改　百五十五丁
第三節　合意上ノ免除　百五十八丁
第四節　相殺　百六十一丁
第五節　混同　百六十四丁
第六節　履行ノ不能　百六十八丁
第七節　銷除　百六十九丁
第八節　廢罷　百七十丁
第九節　解除　百七十三丁
第四章　自然義務　仝
○財產編　仝

總則　財產及ヒ物ノ區別

第一條　財產ハ各人又ハ公私ノ法人ノ資產ヲ組成スル權利ナリ

○財產編

此權利ニ二種アリ物權及ヒ人權是ナリ

第二條　物權ハ直チニ物ノ上ニ行ハレ且總テノ人ニ對抗スルコトヲ得ヘキモノニシテ主タル有リ從タル有リ

主タル物權ハ之ヲ左ニ掲ク

第一　完全又ハ廢缺ノ所有權

第二　用益權、使用權及ヒ住居權

第三　賃借權、永借權及ヒ地上權

第四　占有權

從タル物權ハ之ヲ左ニ掲ク

第一　地役權

第二　留置權

第三　動産質權

第四　不動産質權

第五　先取特權

第六　抵當權

有地役權ハ所有權ノ從タル物權ニシテ留置權以下ハ人權ノ擔保ヲ爲ス從タル物權ナリ

第三條　人權卽チ債權ハ定マリタル人ニ對シ法律ノ認ムル原因ニ由リテ其負擔スル作爲又ハ不作爲ノ義務ヲ盡サシムル爲メ行ハルルモノニシテ亦主タル有リ從タルアリ

從タル人權ハ債權ノ擔保ヲ爲ス保証及ヒ連帶ノ如シ

第四條　著述者ノ著書ノ發行、技術者ノ技術物ノ製出又ハ發明者ノ發明ノ施用ニ付テノ權利ハ特別法ヲ以テ之ヲ規定ス

第五條　權利ハ物權ト人權トヲ問ハス目的物ノ種種ノ區別ニ從ヒテ其樣ヲ變ス此區別ハ物ノ性質、人ノ意思又ハ法律ノ規定ヨリ生ス卽チ下ニ掲クル如シ

第六條　物ニ有體ナル有リ無體ナル有リ

有體物トハ人ノ感官ニ觸ルルモノヲ謂フ卽チ地所、建物、動物、器具ノ如シ

無體物トハ智能ノミヲ以テ理會スルモノヲ謂フ卽チ左ノ如シ

第一　物權及ヒ人權

第二　著述者、技術者及ヒ發明者ノ權利

第三　解散シタル會社又ハ清算中ナル共通ニ屬スル財産及ヒ債務ノ包括

第七條　物ハ其性質ニ因リ又ハ所有者ノ用方ニ因リ遷移スルコトヲ得ルト否トニ從ヒテ動産タリ不動産タリ此他法律ノ規定ニ因リテ動産タリ不動産タル物アリ

第八條　性質ニ因ル不動産ハ左ノ如シ

第一　耕地、宅地其他土地ノ部分

第二　池沼、溜井、溝渠、堀割、泉源

第三　土手、棧橋其他此類ノ工作物

第四　土地ニ定著シタル浴場、水車、風車又ハ水力、蒸氣ノ機械

第五　樹林、竹木其他ノ植物但第十二條ニ記載シタルモノハ此限ニ在ラス

第六　果實及ヒ收穫物ノ未タ土地ヨリ離レサルモノ但第十二條ニ記載シタルモノハ此限ニ在ラス

第七　鑛物、坑石、泥炭及ヒ肥料土ノ未タ土地ヨリ離レサルモノ

第八　建物及ヒ其外部ノ戸扉但第十二條ニ記載シタルモノハ此限ニ在ラス

第九　塀、籬、柵

第十　水ノ出入又ハ瓦斯、溫氣ノ引入ノ爲メ土地又ハ建物ニ附著シタル筒管

第十一　土地又ハ建物ニ附著シタル電氣機器

此他總テ性質ニ因リ移動ス可キモノト雖モ建物ニ心要ナル附屬物

第九條　動產ノ所有者カ其土地又ハ建物ノ利用、便益若クハ粧飾ノ爲メニ永遠又ハ不定ノ時間其土地又ハ建物ニ備附ケタル動產ハ性質ノ何タルヲ問ハス用方ニ因ル不動產タリ即チ左ノ如シ但反對ノ證據アルトキハ此限ニ在ラス

第一　土地ノ耕作、利用又ハ肥料ノ爲メニ備ヘタル獸畜

第二　耕作用ニ備ヘタル器具、種子、藁草及ヒ肥料

第三　養蠶場ニ備ヘタル蠶種

第四　樹木ノ支持ニ備ヘタル棚架及ヒ杭柱

第五　土地ニ生スル物品ノ化製ニ備ヘタル器具

第六　工業場ニ備ヘタル機械及ヒ器具

第七　不動產ノ常用ニ備ヘタル小舟但其水流カ公有ニ係ル又ハ他人ニ屬スルトキモ亦同シ

第八　園庭ニ裝置シタル石燈籠、水鉢及岩石

第九　建物ニ備ヘタル甃、建具其他ノ補足物及ヒ毀損スルニ非サレハ取離スコトヲ得サル匾額、玻璃鏡、彫刻其他各種ノ粧飾物

第十　修繕中ノ建物ヨリ取離シテ再ヒ之ニ用ユ可キ材料

第十條　法律ノ規定ニ因ル不動產ハ左ノ如シ

第一　上ニ列記シタル不動產ノ上ニ存スル物權

第二　不動產ノ上ニ存スル物權ヲ取得セントシ又ハ取同セントスル人權

第三　建築師ノ材料ヲ以テ建物ヲ築造セシムル債權

第四　動產債權ニシテ法律カ不動產ト爲シ又ハ各人カ法律ノ規定ニ依リテ不動產ト爲シタルモノ

第十一條　自力又ハ他力ニ因リテ遷移スルコトヲ得ル物ハ性質ニ因ル動產タリ但第八條及ヒ第九條ニ記載シタルモノハ此限ニ在ラス

第十二條　假ニ土地ニ定著セシメタル物ハ用方ニ因ル動產タリ即チ左ノ如シ

第一　建築ノ足場及ヒ支柱

第二　建築ヲ爲スノ間其用ニ備ヘタル小屋

第三　植木師及ヒ園丁カ植ル爲ニ培養シ又ハ保存シタル草木

第四　取毀ツ爲メニ讓渡シタル建物其他ノ工作物又ハ收去スル爲メニ讓渡シタル樹木及ヒ收穫物

第十三條　法律ノ規定ニ因ル動產ハ左ノ如シ

第一　上ニ指定シタル動產ノ上ニ存スル物權

第二　有體動產ヲ取得シ又ハ取回セントスル債權但不動產ヲ以テ其擔保ニ充ツルトキモ亦同シ

第三　所有ヲ成就セシメ又ハ權利ノ行使ヲ止メシムル債權縱令其權利ヨリ不動産タルトキモ亦同シ

第四　法人タル會社存立ノ間社員カ其會社ニ對シテ有スル權利縱令不動産カ會社ニ屬スルトキモ亦同シ

第五　著述者、技術者及ヒ發明者ノ權利

第十四條　解散シタル會社又ハ清算中ナル共通ニ屬スル財産ノ一分ニ付テ有スル權利ノ動産タリ不動産タル性質ハ分割ニ於テ各利害關係人ノ受クル財産ノ性質ニ因リテ定マル

當事者ノ一方ノ選擇ニ任スル動産又ハ不動産ヲ目的トスル擇一債權ノ性質モ亦其清算ニ付キ選擇シタル物ノ性質ニ因リテ定マル

第十五條　物ハ他ニ附屬セスシテ完全ナル効用ヲ爲スト否トニ從ヒテ主タル有リ從タル有リ

用方ニ因ル不動産ハ性質ニ因ル不動産ノ從ナリ地役ハ要役地ノ從ナリ債權ノ擔保ハ債權ノ從ナリ

第十六條　物ハ左ノ如ク之ヲ視ルコトヲ得

第一　特定物即チ某家、某田、某獸ノ如キ殊別ナル物

第二　定量物即チ金幾圓、米幾石、布幾反ノ如キ數量尺度ヲ以テ算フル物

第三　聚合物即チ群畜、書庫ノ書籍、店舗ノ商品ノ如キ增減シ得ヘキ多少類似ナル物

第四　包括財産即チ相續ノ總動産若クハ總不動産又ハ相續ノ全部若クハ一分ノ如キ資産ノ全部又ハ一分ヲ組成スル物

第十七條　物ハ其性質ニ因リ一回ノ使用ニテ消費スルト否トニ從ヒテ消費物タリ不消費物タリ

第十八條　物ハ當事者ノ意思又ハ法律ノ規定ニ因リ同種ノ物ヲ以テ代フルコトヲ得ルト否トニ從ヒテ代替物タリ不代替物タリ

定量物及ヒ一回ノ使用ニテ消費スル物ハ概シテ之ヲ當事者ノ意思ニ因ル代替物ト看做ス

第十九條　物ハ其性質、當事者ノ意思又ハ法律ノ規定ニ因リ形體上又ハ智能上分割スルコトヲ得ルト否トニ從ヒテ可分物タリ不可分物タリ

或ル地役及ヒ或ル作爲又ハ不作爲ノ義務ハ性質ニ因リ不可分物ナリ

物ノ一分ノ供與ヲ以テ合意ノ目的タル便益ヲ與フルコト能ハサルトキハ其物ハ當事者ノ意思ニ因ル不可分物ナリ

抵當及ヒ債權ノ物上擔保ハ法律ノ規定ニ因ル不可分物ナリ

第二十條　物ハ所有ニ屬スルモノ有リ所有ニ屬セサルモノ有リ

所有ニ屬スル物トハ公私ノ資産ノ部分ヲ爲スモノヲ謂フ

所有ニ屬セサル物トハ無主又ハ公共ノモノヲ謂フ

第二十一條　公ノ法人ニ屬スル物ニ公有及ヒ私有ノ二種アリ

第二十二條　公ノ法人ニ屬シ國用ニ供シタル物ハ公有ノ部分ヲ爲ス即チ左ノ如シ

第一　國領ノ海及ヒ海濱但海濱ハ春分、秋分最高潮ノ到ル處ヲ以テ限ト爲ス

第二　道路、舟若クハ筏ノ通ス可キ川又ハ堀割及ヒ其床地

第三　城砦、壘壁其他國防禦ノ工作物

第四　軍用ノ工廠、艦艦、兵器、機械其他ノ物品

第五　官廳ノ建物

第二十三條　公ノ法人カ各人ト同一ノ名義ニテ所有スル物ニシテ金錢ニ見積ルコトヲ得ル收入ヲ生ス可キモノハ其私有ノ部分ヲ爲ス則チ國、府縣、市町村有ノ海濱、樹林、牧場ノ如シ

所有者ナキ不動産及ヒ相續人ナクシテ死亡シタル者ノ遺産ハ當然國ニ屬ス

第二十四條　無主物トハ何人ニモ屬セスト雖モ所有權ノ目的ト爲ルコトヲ得ルモノヲ謂フ即チ遺棄ノ物品、山野ノ鳥獸、洞海ノ魚介ノ如シ

第二十五條　公共物トハ何人ノ所有ニモ屬スルコトヲ得スシテ總テノ人ノ使用スルコトヲ得ルモノヲ謂フ即チ空氣、光線、流水、大洋ノ如シ

第二十六條　物ハ私ノ所有權又ハ債權ノ目的ト爲ルコトヲ得ルト否トニ從ヒテ融通物タリ不融通物タリ

公ノ秩序ノ爲メ法律ニ於テ處分ヲ禁シタル物及ヒ公有ノ財産ハ不融通物ナリ

第二十七條　物ハ讓渡スコトヲ得ルモノ有リ讓渡スコトヲ得サルモノ有リ

所有權ヨリ支分シタル使用權又ハ住居權要役地ヨリ分離セルモノト看做シタル地役及ヒ政府ノ與ヘタル開坑ノ特許其他ノ特權ハ概シテ融通物ナリト雖モ讓渡スコトヲ得サルモノナリ

第二十八條　物ハ法律ニ定メタル條件ヲ具備スル占有ニ附著セル反得ノ推定ヲ受クルト否トニ從ヒテ時效ニ罹ルコトヲ得ルモノ有リ時效ニ罹ルコトヲ得サルモノ有リ

第二十九條　物ハ其所有者ノ債權者カ强制賣却ヲ請求スルコトヲ得ルト否トニ從ヒテ差押フルコトヲ得ルモノ有リ差押フルコトヲ得サルモノ有リ

不融通物、讓渡スコトヲ得サル物其他法律ノ規定又ハ人ノ處分ニテ差押ヲ禁シタル物ハ差押フルコトヲ得サルモノナリ即チ無償ニテ設定シタル終身年金權ノ如シ

第一部　物權

第一章　所有權

第三十條　所有權トハ自由ニ物ノ使用、收益及ヒ處分ヲ爲ス權利ヲ謂フ

此權利ハ法律又ハ合意又ハ遺言ヲ以テスルニ非サレハ之ヲ制限スルコトヲ得ス

第三十一條　不動産ノ所有者ハ適法ニ認メ及ヒ宣言シタル公益ニ因由シ且公用徵收法ニ從ヒテ定メタル償金ノ拂渡ヲ豫メ受クルニ非サレハ其所有權ノ讓渡ヲ强要セラルルコト無シ

動産ノ公用徵收ハ每回定ムル特別法ニ依ルニ非サレハ之ヲ行フコトヲ得ス

國又ハ官廳ニ屬スル先買權及ヒ徵發令ヲ以テ定メタル物ノ徵發又ハ凶災ノ時ニ行フ物ノ徵求ニ付テハ本條ノ例ヲ用ヒス

第三十二條　所有者ハ償金ヲ得ルニ於テハ公益工事ノ便利ノ爲メ所有物ノ一時ノ占領ヲ强要セラルヽコト有リ

第三十三條　物料ノ採掘、道路ノ剛線、樹木ノ採伐、水其他ノ物ノ收取ニ付キ一般又ハ一地方ノ公益ノ爲メ設ケタル地役ハ行政法ヲ以テ之ヲ規定ス

第三十四條　土地ノ所有者ハ其地上ニ一切ノ築造、栽植ヲ爲シ又ハ之ヲ廢スルコトヲ得

又其地下ニ一切ノ開鑿及ヒ採掘ヲ爲スコトヲ得

右孰レノ場合ニ於テモ公益ノ爲メ行政法ヲ以テ定メタル規則及ヒ制限ニ從フコトヲ要ス

此他相隣地ノ利益ノ爲メ所有權ノ行使ニ付シタル制限及ヒ條件ハ地役ノ章ニ於テ之ヲ規定ス

第三十五條　鑛物ノ所有權及ヒ其試掘若クハ開坑ハ特別法ヲ以テ之ヲ規定ス

第三十六條　所有者其物ノ占有ヲ妨ケラレ又ハ妨ハレタルトキハ所持者ニ對シ本權訴權ヲ行フコトヲ得但動産及ヒ不動産ノ時効ニ關シ證據編ニ記載シタルモノハ此限ニ在ラス

又所有者ハ第百九十九條乃至第二百十二條ニ定メタル規則ニ從ヒ占有ニ關スル訴權ヲ行フコトヲ得

第三十七條　數人一物ヲ共有スルトキハ持分ノ均不均ニ拘ハラス各共有者其物ノ全部ヲ使用スルコトヲ得但其用方ニ從ヒ且他ノ共有者ノ使用ヲ妨ケサルコトヲ要ス

各共有者ノ持分ハ之ヲ相均シキモノト推定ス但反對ノ證據アルトキハ此限ニ在ラス

天然又ハ法定ノ果實及ヒ産出物ハ各共有者ノ權利ノ限度ニ應シ定規ニ於テ之ヲ分割ス

各共有者ハ其物ノ保存ニ必要ナル管理其他ノ行爲ヲ爲スコトヲ得

各共有者ハ其持分ニ應シテ諸般ノ負擔ニ任ス

右規定ハ使用、收益又ハ管理ヲ格別ニ定ムル合意ヲ妨ケス

第三十八條　處分權ニ付テハ各共有者ハ他ノ共有者ノ承諾アルニ非サレハ其物ノ形樣ヲ變スルコトヲ得ス又自己ノ持分外ニ物權ヲ付スルコトヲ得ス

共有者ノ一人其持分ヲ讓渡シタルトキハ讓受人ハ他ノ共有者ニ對シ讓渡人ニ代ハリ其地位ヲ有ス

第三十九條　各共有者ハ如何ナル合意ヲスルモ常ニ共有物ノ分割ヲ請求スルコトヲ得

然レトモ共有者ハ五个年ヲ超エサル定期ノ時間分割セサルヲ約スルコトヲ得

此合意ハ何時ニテモ之ヲ更新スルコトヲ得但其時間ハ亦五个年ヲ超ユルコトヲ得ス

右規定ハ數箇ノ所有地ニ共通ナル通路、井戸、籬壁、溝渠ノ互有ヨリ生スル共有權ニ之ヲ適用セス

第四十條　數人ニテ一家屋ヲ區分シ各其一部分ヲ所有スルトキハ相互ノ權利及ヒ義務ハ左ノ如ク之ヲ規定ス

各所有者ハ離隔セル所有物ノ如クニ自己ノ持分ヲ處分スルコトヲ得

諸般ノ租稅及ヒ建物並ニ其附屬物ノ共用ノ部分ニ係ル大小修繕ハ各自ノ持分ノ價格ニ應シテ之ヲ負擔ス

各自ハ己レニ屬スル部分ニ係ル費用ヲ一人ニテ負擔ス

第四十一條　所有權ハ當事者ノ間ニ於ケルモ第三者ニ對スルモ本編及ヒ財産取得編ニ記載シタル原因及ヒ方法ニ依リテ之ヲ取得シ保存シ及ヒ轉付ス

主タル物ノ處分ハ從タル物ノ處分ヲ帶フ但反對ノ證據アルトキハ此限ニ在ラス

第四十二條　所有權ハ左ノ諸件ニ因リテ消滅ス

第一　任意又ハ强要ノ讓渡

第二　他人ノ物ニ自己ノ物ノ添附

第三　法律ニ依リテ宣告シタル沒收

第四　取得ノ解除、銷除又ハ廢潰

第五　物ヲ處分スル能力アル所有者ノ任意ノ遺棄

第六　物ノ全部ノ毀滅

第四十三條　動産及ヒ不動産ノ所有權ノ取得及ヒ消滅ニ關スル時効ノ性質及ヒ効力ニ付テハ證據編ノ規定ニ從フ

第二章　用益權、使用權及ヒ住居權

第一節　用益權

第四十四條　用益權トハ所有權ノ他人ニ屬スル物ニ付キ其用方ニ從ヒ其元質本體ヲ變スルコト無ク有期ニテ使用及ヒ收益ヲ爲スノ權利ヲ謂フ

第一款　用益權ノ設定

第四十五條　用益權ハ法律又ハ人意ニ因リテ設定スルモノトス

法律ニ因ル用益權ノ設定ハ別ニ定ムル法律ノ規定ニ從フ
人意ニ因ル用益權ノ設定ハ所有權ノ取得及ヒ移轉ニ關スル規則ニ從フ
又用益權ハ有償又ハ無償ニテ讓渡シタル財産ノ上ニ之ヲ留存シテ設定スルコトヲ得
時効ヲ以テ用益權ノ取得ヲ證スル條件ハ時効ヲ以テ完全ノ所有權ノ取得ヲ證スル條件ニ同シ
第四十六條　用益權ハ動産ト不動産ト有體物ト無體物トヲ問ハス一切ノ融通物ノ上ニ之ヲ設定スルコトヲ得
又用益權ハ他ノ用益權ノ上、終身年金權ノ上、又ハ包括權原ニテ資産ノ上ニ之ヲ設定スルコトヲ得
第四十七條　用益權ハ始時若クハ終時ヲ定メ又ハ期限ヲ定メスシテ之ヲ設定スルコトヲ得
又用益權ハ其始時又ハ終時ヲ未必條件ノ成就ニ繫ケテ之ヲ設定スルコトヲ得
右孰レノ場合ニ於テモ其期間ハ用益者ノ終身ヲ超ムルコトヲ得ス
第四十八條　用益權ハ一人又ハ數人ノ終身ヲ期シテ之ヲ設定スルコトヲ得數人ノ終身ヲ期シテ設定シタルトキハ數人同時ニ又ハ順次ニ之ヲ行フ
右孰レノ場合ニ於テモ用益權ハ其權利發開ノ時既ニ出生シ又ハ胎内ニ在ル者ノ爲メニスルニ非サレハ之ヲ設定スルコトヲ得ス

第二款　用益者ノ權利

第四十九條　用益者ハ其權利ノ發開シタルトキ若シ始時ノ定アラハ其期限ノ到來シタルトキハ次款ニ定メタル不動産形狀寄動産目錄ヲ作リ及ヒ保證ヲ立ツル義務ヲ履行シタル後其用益權ノ存スル物ノ占有ヲ要求スルコトヲ得
用益者ハ用益物ヲ其現狀ニテ受取ル可シ修繕又ハ恰好ヲ求ムルコトヲ得ス但權利發開ノ後設定者若クハ其相續人ノ過失ニ因リ又ハ發開ノ前ト雖モ其惡意ニ因リテ用益物ヲ毀損シタルトキハ此限ニ在ラス
第五十條　用益者カ收益ヲ始ムルコトヲ得ルヨリ以後ニ虛有者ノ收取シタル果實ハ用益者ニ屬ス縱令用益者カ自ラ其收益ヲ遲延シタルモ亦同シ但其果實ノ收取及ヒ保存ノ費用ヲ虛有者ニ償還スルコトヲ要ス
用益者ハ收益ヲ始ムル時根枝ニ由リテ土地ニ附著スル果實ヲ其成熟ニ至リ收取スル權利ヲ有ス但耕耘、種子、栽培ノ費用ヲ虛有者ニ償還スルコトヲ要セス
第五十一條　用益者ハ其權利ノ繼續間用益物ヨリ生スル天然及ヒ法定ノ一切ノ果實ニ付キ所有者ニ同シキ權利ヲ有ス
第五十二條　天然ノ果實ハ自然ニ生シタルト栽培ニ因リテ得タルヲ問ハス土地ヨリ之ヲ離シタル時直チニ用益者ニ屬ス縱令事變又ハ盜奪ニ因リテ離レタルモ亦同シ
然レトモ果實カ其成熟前ニ土地ヨリ離レ且用益權カ通常ノ收取季節前ニ消滅シタルトキハ其利益ハ虛有者ニ歸ス
第五十三條　獸畜ノ子ハ其産出ノ時ヨリ用益者ニ屬ス乳汁、肥料及ヒ剪毛季節ニ剪取シタル羊毛モ亦同シ
第五十四條　法定ノ果實ハ其拂渡時期ノ如何ヲ問ハス收益ヲ始ムルコトヲ得ル時ヨリ用益權ノ消滅スルマテ用益者日割ヲ以テ之ヲ取得ス
法定ノ果實ハ用益物ニ付キ第三者ヨリ金錢ヲ以テ拂フ可キ納額即チ土地、建物ノ借賃、借入金ノ利息、會社ノ配當金、年金權ノ年金、石坑ノ借料ノ類ナリ

第五十五條　用益物中ニ金穀其他日用品ノ如キ消費スルニ非サレハ使用シ及ヒ收益スルコトヲ得サル動産アルトキハ用益者ハ之ヲ消費シ又ハ滅失スコトヲ得但用益權消滅ノ時同數量、同品質ノ物ヲ返還シ又ハ收益ヲ始ムル以前ニ評價ヲ爲シタルニ於テハ其代價ヲ返還スルコトヲ要ス

右規定ハ用益權ヲ設定シタル商業資産ヲ組成スル商品ト其他ノ代替物トニ之ヲ適用ス

第五十六條　住居用ノ器具其他使用ニ因リテ毀損ス可キ用益物ニ付キテハ用益者ハ其用方ニ從ヒテ之ヲ使用シ且用益權消滅ノ時其現狀ニテ之ヲ返還スルコトヲ得但用益者ノ過失又ハ懈怠ニ因リテ重大ノ毀損ヲ致シタルトキハ此限ニ在ラス

又貸貸スルコトヲ得ヘキ性質ノ用益物ニ非サレハ用益者ハ自己ノ責任ヲ以テ之ヲ貸貸スルコトヲ得ス

第五十七條　終身年金權ノ用益者ハ年金權者ト同シク其年金ヲ收取スルノ權利ヲ有ス但反對ノ條件アルトキハ此限ニ在ラス

既ニ設定シタル用益權ニ付キ更ニ用益權ヲ得タル者ハ原用益者ニ屬スル一切ノ權利ヲ行フ

第五十八條　種類及ヒ員數ノミヲ以テ定メタル畜群ノ用益者ハ保存ヲ要セサル部分ヲ毎年處分スルコトヲ得但其子ヲ以テ全數ヲ保持スルコトヲ要ス

第五十九條　用益者ハ大小木ノ樹林及ヒ竹林ニ付テハ從來ノ所有者ノ慣習及ヒ採伐方ニ從ヒ定期ノ採伐ヲ爲シテ收益ス

採伐方ノ未タ確ニ定マラサルトキハ用益者ハ近傍ノ重モナル所有者又ハ國、府縣、市町村ニ屬スル樹林ノ慣習ニ從フ但採伐スル一个月前ニ虛有者ニ豫告スルコトヲ要ス

第六十條　從來ノ所有者ノ定期採伐ヲ爲ササリシ保存木及ヒ大樹木ニ付テハ用益者ハ其樹木ノ定期產出物ノミヲ得ル權利ヲ有ス

然レトモ用益權ノ存スル建物ノ大修繕ヲ要スルトキハ用益者ハ枯レ又ハ倒レタル大樹木ヲ之ニ用ユルコトヲ得若シ生木ヲ要スルトキハ虛有者立會ニテ其必要ヲ證セシ後之ヲ採伐スルコトヲ得

第六十一條　用益者ハ用益樹木ヲ支持スルニ必要ナル棚架、支柱又ハ杭柵ニ用ユル竹木ヲ何時ニテモ其用益地ノ樹林及ヒ竹林ヨリ採取スルコトヲ得

第六十二條　用益者ハ用益樹木ヲ植繼キ又ハ植增ス爲メ其用益地ノ苗床ヨリ苗木ヲ採取スルコトヲ得

又用益者ハ其苗床ノ苗木ヲ定期ニ賣ルコトヲ得但從來此用方アルトキ又ハ其生殖カ用益地ノ需用ニ餘ルトキニ限ル

右數レノ場合ニ於テモ用益者ハ苗芽又ハ種子ヲ以テ苗床ヲ保持スルコトヲ要ス

第六十三條　用益地ニ既ニ採掘ヲ始メ且特別法ニ從フヲ要セサル石類、石灰類其他ノ物ノ石坑アルトキハ用益者ハ從來ノ所有者ノ如ク其收益ヲ爲ス

右石坑ヲ未タ採掘セス又ハ其採掘ヲ廢止シタルトキハ用益者ハ其用益物中ノ建物、牆壁其他ノ部分ノ大小修繕ニ必要ナル材料ノミヲ採取スルコトヲ得但其土地ヲ損傷セス且第六十條ニ記載シタル如ク豫メ其必要ヲ證スルコトヲ得ス

又用益者ハ前二項ノ區別ニ從ヒ其用益地ノ泥炭及ヒ肥料土ニ付キ收益スルコトヲ得

第六十四條　用益者ハ用益不動產ニ於テ第三者ノ發見シタル埋藏物ニ付キ權利ヲ有セス

第六十五條　用益者ハ用益地ニ於テ狩獵及ヒ捕漁ヲ爲ス權利ヲ有ス

第六十六條　用益者ハ用益不動產ニ屬スル一切ノ地役權ヲ行フ若シ不使用ニ因リテ之ヲ消滅セシメタルトキハ虛有者ニ對シテ其賠償ニ任ス

第六十七條　用益ハ虚有者及ヒ第三者ニ對シ直接ニ其收益權ニ關スル占有及ヒ本權ノ物上訴權ヲ行フコトヲ得

又用益者ハ用益不動産ノ働方又ハ受方ノ地役ニ付キ自己ノ權利ヲ範圍内ニ於テ占有ニ係ルトキハ本權ニ係ルトキハ要請又ハ拒却ノ訴權ヲ行フコトヲ得

右孰レノ場合ニ於テモ第九十八條ノ規定ヲ適用ス

第六十八條　用益者ハ有償又ハ無償ニテ其用益權ヲ讓渡シ貸貸シ又ハ用益ニ付スルコトヲ得且用益物カ抵當ト爲ル可キモノナルトキハ其權利ヲ抵當ト爲スコトヲ如何ナル場合ニ於テモ用益者ノ付與シタル權利ハ其用益權ト同シキ期間、制限及ヒ條件ニ從フ但貸貸借ノ期間及ヒ其更新ニ付テハ第百十九條乃至第百二十二條ノ規定ヲ適用ス

第六十九條　用益者ハ用益權消滅ノ時猶ホ土地ニ附著シテ其收取セサリシ果實及ヒ產出物ノ爲メ償金ヲ求ムル權利ヲ有セス

又用益物ニ改良ヲ加ヘテ價格ヲ增シタルトキト雖モ其改良ノ爲メ虚有者ニシテ償金ヲ求ムルコトヲ得ス

用益者ハ自己ノ設ケタル建物、樹木、粧飾物其他ノ附加物ヲ收去スルコトヲ得但其用益物ヲ舊狀ニ復スルコトヲ要ス

第七十條　用益權消滅ノ時用益者又ハ其相續人カ前條ニ從ヒテ收去スルコトヲ得ヘキ建物及ヒ樹木等ヲ賣ラントスルトキハ虚有者ハ鑑定人ノ評價シタル現時ノ代價ヲ以テ先買スルコトヲ得

用益者ハ虚有者ニ右先買權ヲ行フヤ否ヤヲ述フ可キノ催告ヲ爲シ其後十日内ニ虚有者カ先買ノ陳述ヲ爲サス又ハ之ヲ拒絶シタルトキニ非サレハ其收去ニ着手スルコトヲ得ス

虚有者カ先買ノ陳述ヲ爲シタリト雖モ鑑定ノ後裁判所ノ處決ノ確定シタル時ヨリ一个月内ニ其代金ヲ辯濟セサルトキハ先買權ヲ失フ但損害アルトキハ賠償ノ責ニ任ス

虚有者又ハ其相續人ハ代金ノ辯濟ヲ受クルマテ建物ヲ占有スルコトヲ得

第三款　用益者ノ義務

第七十一條　用益者ハ用益物ノ占有ヲ始ムル前ニ虚有者ト立會ヒ又ハ合式ニ之ヲ召喚シ完全精確ニ動產ノ目錄、不動產ノ形狀書ヲ作ルコトヲ要ス

第七十二條　當事者カ雙方出會シ共ニ能力アルトキ又ハ有効ニ代理セラレタルトキハ目錄及ヒ形狀書ハ私署ヲ以テ之ヲ作ルコトヲ得反對ノ場合ニ於テハ公吏之ヲ作ル

第七十三條　目錄ニ記シタル代替物ノ評價ハ賣買ニ同シキ効力ヲ有ス但反對ノ明言アルトキハ此限ニ在ラス不代替物ノ評價ハ賣買ニ同シキ効力ヲ有スルコトヲ目錄ニ明示スルニ非サレハ其効力ヲ有セス

有償ニテ用益權ヲ設定シタルトキハ目錄及ヒ評價ノ費用ハ用益者、虚有者各其半額ヲ負擔シ無償ノ場合ニ於テハ用益者之ヲ負擔ス

第七十四條　用益權設定ノ時用益者ノ目錄又ハ形狀書ヲ作ル義務ヲ免除シタリト雖モ虚有者ハ常ニ用益者ト立會ヒ又ハ合式ニ之ヲ召喚シ自費ヲ以テ目錄又ハ形狀書ヲ作ルコトヲ得但此事ニ付キ虚有者ハ十一日以上收益ヲ妨クルコトヲ得ス

第七十二條及ヒ第七十三條第一項ハ右ノ場合ニ之ヲ適用ス

第七十五條　用益者ハ目錄又ハ形狀書ヲ作ル義務ヲ履行セスシテ收益ヲ始メタルトキハ完好ナル形狀ニテ不動產ヲ受取リタリトノ推定ヲ受ク但反對ノ証據アルトキハ此限ニ在ラス

動産ニ付テハ虚有者ハ通常ノ証據ハ勿論世評ヲ以テ其實證及ヒ價格ヲ証スルコトヲ得

第七十六條　用益者ハ用益權消滅ノ時負擔ス可キ返還及ヒ償金ノ爲メ保証人ヲ立テスハ他ノ相當ナル擔保ヲ供スルニ非サレハ收益ヲ始ムルコトヲ得ス

第七十七條　擔保ノ性質ニ付キ當事者ノ間ニ齟齬ハサルトキハ裁判所ハ顯然其力アル第三者ノ引受ヲ認許シ又ハ供託所若クハ當事者ノ認諾スル第三者ニ金錢若クハ有價物ヲ寄託スルヲ認許シ又ハ質若クハ抵當ヲ認許スルコトヲ得

第七十八條　擔保ス可キ金額ニ付テハ裁判所ハ用益權ノ直接ニ存スル金額未滿ニ其金額ヲ定ムルコトヲ得ス又動産ノ評價カ費買ニ同シキ効力ヲ有セサルトキハ其評價ノ全額未滿ニ之ヲ定ムルコトヲ得ス又評價カ費買ニ同シキ効力ヲ有スルトキハ其評價ノ半額未滿ニ之ヲ定ムルコトヲ得ス

然レトモ右ノ末ノ場合ニ於テ若シ虚有者ノ評價セシ動産ニ係ル權利ヲ用益權ノ續給間ニ讓渡シ又ハ貸貸シタルトキハ虚有者ハ常ニ評價ノ全額ニ對シテ擔保ヲ要求スルコトヲ得不動産ノ擔保金額ノ多寡ハ裁判所之ヲ定ム

第七十九條　擔保ノ設定証書ニハ前條ニ定メタル金額ニ對スル保証人又ハ用益者ノ一身ノ引受ヲ併記ス

第八十條　用益者カ動産又ハ不動産ニ對シテ相應ナル擔保ヲ供スル能ハス且當事者ノ間ニ別段ノ合意ナキトキハ左ノ如ク處辯ス

日用品其他ノ代替物ハ之ヲ競賣シ其代金ハ虚有者、用益者連名ニテ用益權ノ直接ニ存スル金錢ト共ニ供託所ニ供託シ又ハ之ヲ國債券ニ換ヘ用益者ハ其利息ヲ收取ス

此他ノ動産ハ用益者之ヲ占有ス

不動産ハ之ヲ第三者ニ貸貸シ又ハ虚有者カ貸借ノ名義ニテ之ヲ保存シ用益者ハ保持費用及ヒ第八十九條ニ記載シタル負擔ヲ扣除シテ貸貸ヲ收取ス

第八十一條　用益者カ擔保ノ一分ニ非サレハ供スル能ハサルトキハ引渡ヲ受ク可キ用益者ニ付キ其擔保ノ限度ニ應シテ選擇ヲ爲ス

第八十二條　用益者ノ保証人ヲ立ツル義務ハ設定ノ權原又ハ其後ノ合意ヲ以テ之ヲ免除スルコトヲ得但用益者ノ無資力ト爲リタルトキハ此免除ハ其効ヲ失フ若シ用益者カ既ニ收益ヲ始メタルトキハ其用益者ヲ虚有者ニ返還シ且前二條ニ從ヒテ處辯ス

第八十三條　贈與者ニ付キ贈與者カ自己ノ利益ノ爲メ留存シタル用益權ニ付テハ保証人ヲ立ツル義務ナシ

第八十四條　用益者ノ收益ヲ始メタルトキハ善良ナル管理人ノ如ク用益物ノ保存ニ注意スルコトヲ要ス

用益者ハ其過失又ハ懈怠ヨリ生スル用益物ノ滅失又ハ毀損ノ責ニ任ス但虚有者ノ權利ヲ保護スル爲メ用益者ニ對シテ第百四條ニ許可シタル處置ヲ爲スコトヲ妨ケス

第八十五條　用益物ノ全部又ハ一分カ火災ニテ滅失シタルトキハ用益者ニ過失アリト推定ス但反對ノ証據アルトキハ此限ニ在ラス

第八十六條　用益者ハ動産及ヒ不動産ノ小修繕ヲ負擔シ其求償權ヲ有セス

大修繕ハ用益者ノ過失ニ因リ又ハ小修繕ヲ爲ササルニ因リテ必要ト爲リタルトキニ非サレハ用益者之ヲ負擔セス

屋根若クハ重モナル牆壁ノ修繕又ハ重モナル梁柱若クハ基礎ノ變更ヲ建物ノ大修繕トス石垣、土手

及ヒ牆壁ノ改造モ亦之ヲ大修繕ト看做ス

第八十七條　過失又ハ懈怠ノ場合ノ外用益者ハ虚有者ヲ立會ハシメ鑑定人ヲシテ大修繕ノ必要ヲ証セシメタル後虚有者大修繕ヲ爲スコトヲ拒ミタルトキハ自ラ之ヲ爲スコトヲ得

用益權消滅ノ時虚有者ハ右修繕ヨリ生シタル現時ノ增價額ヲ用益者ニ辨償スル責ニ任ス

若シ虚有者カ大修繕ヲ爲ストキハ用益者ヲ立會ハシメ鑑定人ヲシテ其必要及ヒ費用ヲ証セシメ用益者ハ毎年其費用ノ利息ヲ虚有者ニ辨償ス

第八十八條　前條ノ規定ハ建物カ朽敗ノ爲メ崩潰シ又ハ事變ニ因リテ破壞シタル場合ニモ之ヲ適用ス

但第百六條ニ定メタル如ク此等ノ事ニ因リテ用益權ノ消滅ヲ致ストキハ此限ニ在ラス

第八十九條　用益物ニ賦課セラルル毎年通常ノ租稅及ヒ公課ハ其一般ニ係ルモノト一地方ニ係ルモノトヲ問ハス用益者之ヲ負擔シ其求償權ヲ有セス

用益權ノ繼續間用益者ニ賦課セラルルコト有ル可キ非常ノ公課又ハ租稅ニ付テハ虚有者ハ其元本ヲ拂ヒ用益者ハ此時間毎年ノ利息ヲ辨償ス

非常ノ公課又ハ租稅ト看做スモノハ左ノ如シ

第一　强要ノ借入

第二　增稅又ハ新稅但其臨時又ハ非常ノ性質カ法令ニ明示アルトキ又ハ明ニ事情ヨリ生スルトキニ限ル

第九十條　用益者又ハ虚有者カ通常又ハ非常ノ租稅ヲ納メサルトキハ不動産ハ完全ノ所有權ニ於テ之ヲ差押ヘ且賣却シ其代金ヲ意納租稅ニ充ツ若シ殘額アラハ其元本ハ虚有者ニ屬シ其收益ハ用益者ニ屬ス

第九十一條　虚有者ハ用益權設定ノ前ニ火災ニ對シテ建物ヲ保險ニ付シタルトキハ用益者ハ毎年保險料ノ利息ヲ拂フノ責ニ任ス但火災ノ場合ニ於テ得タル償金ハ虚有者ニ屬シ其收益ハ用益者ニ屬ス

虚有者ハ用益權ノ繼續間ニ完全ノ所有權ヲ保險ニ付シタルトキハ用益者ハ保險料ノ利息ヲ負擔セス

其償金ニ關シテハ虚有者カ自己ノ拂ヒタル保險料ノ金額ヲ扣除シタル殘餘ニ付キ收益ス又虚有者カ其虚有權ノミヲ保險ニ付シタルトキハ用益者ハ償金ニ付キ權利ヲ有セス

海上ノ危險ニ對シ保險ニ付シタル艦船ニ付キ用益權ヲ設定シタルトキモ亦右ノ規定ヲ適用ス

第九十二條　用益者ハ自己及ヒ虚有者ノ利益ノ爲メ自費ヲ以テ保險ヲ約スルコトヲ得此場合ニ於テハ用益者ハ償金ノ額内ヨリ自己ノ拂ヒタル保險料ヲ扣除シ其殘額ニ付テ收益ス

又用益者ハ權ノ價格ノミニ付キ建物ヲ保險ニ付シタルトキハ一人ニテ保險料ヲ負擔シ災害アリシトキハ其償金ヲ取得ス凍、寒其他天然ノ事變ニ對シ用益者カ收穫物又ハ産出物ヲ保險ニ付シタルトキモ亦同シ

第九十三條　遺言ニテ包括財産ノ用益權ヲ得タル者ハ其得益ノ割合ニ應シテ相續ノ債務ノ利息ヲ負擔ス

此他相續ノ負擔タル養料又ハ終身年金權ノ年金モ亦同上ノ割合ニ應シテ之ヲ負擔ス

第九十四條　特定財産ノ用益者ハ其用益財産カ抵當又ハ先取特權ヲ負擔スルトキト雖モ設定者ノ債務ノ辨濟ヲ分擔セス

用益者カ所持者トシテ訴追ヲ受ケタルトキハ債務ニ對スル求償權ヲ有ス但用益權ノ設定又ハ其相續人ニ對スル追奪擔保ノ訴權ヲ妨ケス

第九十五條　虚有者カ元本ヲ負擔シ用益者カ其利息ヲ負擔ス可キ請求ノ場合ニ於テハ左ノ方法ノ一ニ

依リテ處辨ス

第一　虚有者カ元本ヲ拂ヒ用益者カ其毎年ノ利息ヲ拂フ

第二　用益者カ元本ヲ立替ヘ虚有者カ用益權消滅ノ時之ヲ用益者ニ償還ス

第三　要求ヲ受ク可キ金額ニ滿ツルマテ用益物ノ一分ヲ賣却ス

第九十六條　用益權ノ繼續間用益不動産ニ第三者カ虚用者ノ權利ヲ害ス可キ侵奪又ハ作業ヲ爲ストキハ用益者ハ其事實ヲ虚有者ニ告發スルコトヲ要ス若シ此告發ヲ爲ササルトキハ爲メニ生シタル總テノ損害及ヒ第三者ノ取得スル時効又ハ占有權ニ付キ其責ニ任ス

第九十七條　虚有者カ原告又ハ被告トシテ用益物ノ完全ノ所有權ニ係ル訴訟ヲ爲ストキハ用益者ヲ其訴訟ニ召喚スルコトヲ要ス

用益者ハ右訴訟費用ノ利息及ヒ收益ノミニ關スル訴訟費用ヲ負擔ス然レトモ用益權ノ設定証書ヲ以テ用益者ニ担保ヲ爲シタルトキハ用益者ハ總テノ訴訟費用ヲ負擔セス

如何ナル場合ニ於テモ用益者ハ虚有權ノミニ關スル訴訟費用ヲ分擔セス

第九十八條　訴訟ニ參加ス可クシテ之ニ參加セシメラレサリシ虚有者又ハ用益者ハ其判決ノ害ヲ受クルコト無シ然レトモ事務管理ノ規則ニ從ヒテ其利ヲ受クルコトヲ得

第四款　用益權ノ消滅

第九十九條　用益權ハ第四十二條ニ記載シタル所有權消滅ノ原因ト同一ノ原因ニ由リテ消滅スル外尚ホ左ノ原因ニ由リテ消滅ス

第一　用益者ノ死亡

第二　用益權ヲ設定シタル期間ノ經過

第三　用益者ノ明示シタル用益權ノ拋棄

第四　三十个年間繼續シタル不使用

第五　用益權ノ廢絶

第百條　數人ノ終身ヲ期シテ同時ニ且不分ニテ用益權ヲ設定シタルトキハ死亡者ノ持分ハ生存者ヲ利ス其用益權ハ最後ノ死亡者ノ死亡ニ因ルニ非サレハ消滅セス

第百一條　法人ノ爲メニ設定シタル用益權ハ三十个年ノ期間ヲ以テ消滅ス但三十个年ヨリ短キ期間ヲ以テ設定シタルトキハ此限ニ在ラス

第百二條　用益者ハ用益權ノ拋棄ヲ以テ其拋棄前ニ履行セサリシ義務ヲ免カルルコトヲ得ス

又其拋棄ハ用益者ノ權ニ基キ物ノ上ニ權利ヲ取得シタル第三者ヲ害スルコトヲ得ス

第百三條　不使用ハ未成年者ニモ其他ノ人ニシテ之ニ對シ時效ノ經過スルコトヲ得サル者ニモ之ヲ以テ對抗スルコトヲ得ス

免責時效ニ關スル此他ノ規則ハ不使用ニ之ヲ適用ス

第百四條　用益者ニ用益物ノ重大ノ毀損ヲ加フルトキ又ハ保持ノ欠缺若クハ欲益ノ濫妄ニ因リテ用益物ノ保存ヲ危フスルトキハ裁判所ハ用益權消滅ノ他ノ原因ノ一ノ生スルマテ用益者ノ費用ヲ以テ用益物ヲ保管ニ付シ又ハ此時間虚有者ヨリ毎年用益者ニ拂フ可キ金額若クハ果實ノ部分ヲ定メ虚有者ノ爲メ用益權ノ廢絶ヲ宣告スルコトヲ得

裁判所ハ右ト同時ニ其年ノ果實及ヒ産出物ノ分割ヲ定ム

將來ニ於テ用益者ニ拂フ可キ金額又ハ果實ノ價額ハ用益者ヨリ割ヲ以テ之ヲ取得ス

第百五條　用益權ノ廢絶ハ其權絶前ニ用益者ノ加ヘタル損害ノ賠償ヲ妨ケス

第百六條　事變又ハ朽敗ニ因リテ用益權ノ存スル建物ノ全部カ毀滅シタルトキハ用益者ハ土地ニ付テモ材料ニ付テモ收益スルコトヲ得ス但建物カ用益權ノ存スル土地ノ從タルトキハ此限ニ在ラス

第百七條　用益物カ公用徵收ヲ受ケタルトキハ用益者ハ其償金ニ付キ收益ス此場合ニ於テ用益者ハ其收益スル元本ニ對シテ相應ナル擔保ヲ供スルコトヲ要ス但此場合ヲ豫見シテ特ニ其義務ヲ免除シタルトキハ此限ニ在ラス

第九十條乃至第九十二條ニ規定シタル場合ニ於テモ亦同シ

第百八條　池沼ノ用益權ハ水ノ乾涸シテ舊狀ニ復スル見込ナキトキハ消滅ス

又土地ノ用益權ハ水ノ浸沒シテ舊狀ニ復スル見込ナキトキハ消滅ス

第百九條　第百四條ニ掲ケタル場合ヲ除ク外用益權消滅ノ時猶ホ土地ニ附著スル果實及ヒ産出物ハ虛有者ニ屬ス其栽培又ハ作業ノ費用ハ之ヲ償還スルコトヲ要セス但不動産貸借人カ果實ニ付キ既ニ得タル權利ヲ妨ケス

第二節　使用權及ヒ住居權

第百十條　使用權ハ使用者及ヒ其家族ノ需用ノ程度ニ限ルノ用益權ナリ

住居權ハ建物ノ使用權ナリ

使用權及ヒ住居權ハ用益權ト同一ノ方法ニ因リテ成立シ及ヒ同一ノ原因ニ由リテ消滅ス

第百十一條　使用權及ヒ住居權ノ程度ヲ定ムル爲メ使用者ノ家族ト看做ス可キ者ハ使用者ト共ニ住居スル配偶者卑屬親尊屬親及ヒ使用者又ハ此等ノ親族ノ隨身雇人ナリ

第百十二條　設定ノ權原又ハ其後ノ合意ヲ以テ土地ノ使用權ヲ行フノ方法ヲ定メス又ハ住居權ヲ行フ可キ建物ヲ定メサルトキハ當事者立會ノ上裁判所其意見ヲ聽キテ之ヲ定ム

第百十三條　使用權及ヒ住居權ハ之ヲ讓渡シ又ハ貸貸スルコトヲ得ス

第百十四條　使用權又ハ住居權ヲ有スル者ハ用益者ト同シク動産ノ目錄及ヒ不動産ノ形狀書ヲ作リ且保証人ヲ立ツル責ニ任ス

又用益者ト同一ノ注意ヲ爲シ及ヒ自己ノ過失ニ付テハ之ト同一ノ責ニ任ス

又其收益ノ割合ニ應シ用益者ト同シク修繕費用、租稅、公課及ヒ訴訟費用ヲ分擔ス

第三章　貸借權、永借權及ヒ地上權

第一節　貸借權

第百十五條　動産及ヒ不動産ノ貸貸借ハ貸借人ヨリ貸貸人ニ金錢其他ノ有價物ヲ定期ニ拂フ約ニテ貸借人ニ或ル時間貸借物ノ使用及ヒ收益ヲ爲ス權利ヲ與フ但後ノ第二款及ヒ第三款ニ定メタル如ク合意ニ因リ又ハ法律ノ効力ニ因リテ當事者ノ負擔スル相互ノ義務ヲ妨ケス

第百十六條　國、府縣、市町村及ヒ公設所ニ屬スル財産ノ貸貸借ハ行政法ヲ以テ之ヲ規定ス

第一款　貸借權ノ設定

第百十七條　貸借權ハ貸貸借契約ヲ以テ之ヲ設定ス

貸借權ヲ遺贈シタル場合ニ於テハ相續人ハ遺言書ニ記載シタル項目及ヒ條件ニ從ヒテ受贈者ト貸貸借契約ヲ取結フコトヲ要ス

貸借權ヲ豫約シタル場合ニ於テモ諾約又ハ要約者ト貸貸借契約ヲ取結フコトヲ要ス

第百十八條　貸貸借契約ハ有償且雙務ノ契約ノ一般ノ規則ニ從フ但後ニ掲ケタル變例ヲ妨ケス

第百十九條　法律上又ハ裁判上ノ管理人ハ其管理スル物ヲ貸貸スルコトヲ得然レトモ管理人カ期間ニ付キ特別ノ委任ヲ受ケスシテ貸貸スルトキハ左ノ期間ヲ超ユルコトヲ得ス

第一　厩舎其他ノ動産ニ付テハ一个年
第二　居宅、店舗其他ノ建物ニ付テハ三个年
第三　耕地、池沼其他土地ノ部分ニ付テハ五个年
第四　牧場、樹林ニ付テハ十个年

第二百二十條　管理人ハ前條ニ記載シタル貸貸物ノ區別ニ從ヒ現期間ノ滿了ニ先タツ一个月、三个月、六个月又ハ一个年内ニ非サレハ同一ノ期間ヲ以テ貸貸借ヲ更新スルコトヲ得ス
然レトモ右ノ時期ニ先タチ爲シタル更新ハ新期間ノ始マリシ後尚ホ管理人ノ委任ノ止マサリシトキハ無効ナラス

第百二十一條　管理人ハ金錢外ノ有價物ヲ貸貸ト爲シテ貸貸スルコトヲ得ス
然レトモ耕地ニ付テハ其産出物ヲ貸貸ト爲シテ貸貸スルコトヲ得

第百二十二條　前三條ノ規定ハ代理人ニ之ヲ適用ス但代理委任ノ書面ヲ以テ其權限ヲ伸縮シタルトキハ此限ニ在ラス

第百二十三條　自己ノ財産ヲ管理スルコトヲ得ル婦及ヒ自治産ノ未成年者モ亦管理人ト同一ノ條件ニ從フニ非サレハ其財産ヲ貸貸スルコトヲ得ス

第百二十四條　貸借人ハ前數條ニ反シタル貸貸借又ハ其更新ノ無効又ハ短縮ヲ請求スルコトヲ得ス
然レトモ所有者其權利ヲ自在ニスルコトヲ得ルニ至リタルトキハ貸借人ハ所有者ノ認諾スルヤ否ヤノ意思ヲ第百十九條ニ區別シタル貸借物ノ性質ニ從ヒ五日、八日、十五日又ハ三十日ノ期間ニ遡フルコトヲ常ニ要求スルコトヲ得
所有者カ其意思ヲ述フルコトヲ担ムトキハ貸借人ハ起初又ハ更新ニ於テ定メタル如ク貸借期間ヲ維持セシト述フルコトヲ得

第百二十五條　所有者ノ爲シタル不動産ノ貸貸借カ三十个年ヲ超ユルトキハ其貸貸借ハ永貸借ト爲リ此種ノ貸貸借ノ爲メ後ノ第二節ニ定メタル規則ニ從フ

第二款　貸借人ノ權利

第百二十六條　貸借人ハ貸借物ニ付キ用益者ト同一ノ利益ヲ收ムル權利ヲ有ス但其貸貸借設定ノ契約及ヒ法律ノ規定ヨリ生スル權利ノ增減ハ此限ニ在ラス

第百二十七條　貸借人ハ其收益ヲ始ムル爲メニ定メタル時期ニ於テ貸借物ノ占有ヲ貸貸人ニ要求スルコトヲ得然レトモ其目錄又ハ形狀書ヲ作リ及ヒ保証人ヲ立ツル責ニ任セス但契約ニ因リテ其責ニ任スルトキハ此限ニ在ラス

第百二十八條　貸借人ハ物ノ引渡前ニ其用方ニ從ヒテ一切ノ修繕ヲ整フルコトヲ貸貸人ニ要求スルコトヲ得
此他貸貸人ハ貸貸借ノ期間大小修繕ヲ爲ス責ニ任ス但左ノ二項ニ掲ケタル修繕及ヒ貸借人又ハ其雇人ノ過失若クハ懈怠ニ因リテ必要ト爲リタル修繕ハ貸借人之ヲ負擔ス
貸貸人ハ貸貸借ノ期間壁、建具、塗彩及ヒ壁紙ノ保持ヲ負擔セス
又井戸、用水溜、汚物溜又ハ水道管ノ疏浚及ヒ普通ニ貸借人ノ爲ス可キ修繕ヲ負擔セス
本條ノ規定ニ反對ノ慣習アルトキハ其慣習ニ從フコトヲ妨ケス

第百二十九條　建物ニ必要ト爲リタル大修繕ハ貸借人ヨリ之ヲ要求セサルモ又此カ爲メ貸借人ニ多少ノ不便ヲ生セシム可キモ貸貸人之ヲ爲スコトヲ得
然レトモ貸借人ハ右修繕ノ一个月ヨリ長ク繼續スルトキハ借賃ノ減少ヲ要求スルコトヲ得又時間ノ

如何ヲ問ハス右修繕ノ爲メ其貸借物中住居ス可キ全部又ハ商業若クハ工業ニ極メテ必要ナル部分ヲ失フ可キトキハ貸借人ハ貸貸借ノ解除ヲ請求スルコトヲ得

第百三十條　貸借人カ第三者ヨリ收益ノ權利ニ妨害又ハ爭論ヲ受ケ其原因貸借人ノ責ニ歸ス可カラサルトキ貸借人ヨリ合式ニ告知ヲ受ケタル貸貸人ハ其訴訟ニ參加シテ貸借人ヲ擁保シ又ハ損害ヲ賠償スルコトヲ得ス

第百三十一條　妨害カ戰爭、旱魃、洪水、暴風、火災ノ如キ不可抗力又ハ官ノ處分ヨリ生シ此カ爲メ毎年ノ收益ノ三分一以上損失ヲ致シタルトキハ貸借人ハ其割合ニ應シテ借賃ノ減少ヲ要求スルコトヲ得但地方ノ慣習之ニ異ナルトキハ其慣習ニ從フコトヲ妨ケス

又右ノ妨害カ引續キ三个年ニ及フトキハ貸借人ハ貸貸借ノ解除ヲ請求スルコトヲ得建物ノ一分ノ燒失其他ノ毀滅ノ場合ニ於テ所有者カ一个年内ニ之ヲ再造セサルトキモ亦同シ

第百三十二條　土地又ハ建物ヲ以テ主タル目的ト爲シタル貸貸借ニ於テ其現在ノ坪數カ契約ノ坪數ヨリ少ナク又ハ多キトキハ土地又ハ建物ノ賣買ニ於ケルト同一ノ條件ニ從ヒテ借賃ノ增減又ハ契約ノ餘除ヲ爲スコトヲ得

第百三十三條　貸借人ハ貸貸人ノ明許ヲ要セスシテ貸借地ニ適宜ニ建物ヲ築造シ又ハ樹木ヲ栽植スルコトヲ得但現在ノ建物又ハ樹木ニ何等ノ變更ヲモ加フルコトヲ得

貸借人ハ荒狀ニ復スルコトヲ得ヘキトキハ其築造シタル建物又ハ栽植シタル樹木ヲ貸貸借ノ終ニ收去スルコトヲ得但第百四十四條ヲ以テ貸貸人ニ與ヘタル權能ヲ妨ケス

第百三十四條　貸借人ハ貸貸借ノ期間ヲ超エサルニ於テハ其貸借權ヲ無償若クハ有償ニテ讓渡シ又ハ一其貸借物ヲ轉貸スルコトヲ得但反對ノ慣習又ハ合意アルトキハ此限ニ在ラス

貸借人ハ讓渡ノ場合ニ於テハ贈與者又ハ賣主ノ權利ヲ有シ轉貸ノ場合ニ於テハ貸貸人ノ權利ヲ有ス

右孰レノ場合ニ於テモ貸借人ハ貸貸人ニ對シテ其義務ヲ免カルコトヲ得ス但貸貸人カ轉借人ト更改ヲ爲シタルトキハ此限ニ在ラス

果實又ハ產出物ノ一分ヲ以テ借賃ト爲シ金錢ヲ以テ之ニ代フルコトヲ許ササルトキハ貸借權ノ讓渡又ハ轉貸ハ貸貸人ノ承諾アルニ非サレハ之ヲ爲スコトヲ得

第百三十五條　不動產ノ貸借人ハ其權利ヲ抵當ト爲スコトヲ得但讓渡又ハ轉貸ヲ爲スコトヲ得ヘキ場合ニ限ル

第百三十六條　貸借人ハ其權利ヲ保存スル爲メ貸貸人及ヒ第三者ニ對シテ第六十七條ニ記載シタル訴權ヲ行フコトヲ得

第三款　貸借人ノ義務

第百三十七條　貸貸人權利ヲ保存スル爲メ貸貸物ノ目錄又ハ形狀書ヲ作ラント欲スルトキハ貸借人ハ何時ニテモ貸貸人カ已レト立會ヒテ之ヲ作ルヲ許諾スルコトヲ要ス但其費類ノ費用ヲ分擔セス

貸借人モ亦貸貸人ヲ召喚シ立會ノ上自費ニテ右目錄又ハ形狀書ヲ作ルコトヲ得

形狀書ヲ作ラサリシトキハ貸借人ハ修繕完好ノ形狀ニテ貸借物ヲ受取リタリトノ推定ヲ受ク但反對ノ証據アルトキハ此限ニ在ラス

目錄ナキトキハ動產ノ實體及ヒ形狀ノ証據ハ貸貸人ノ責ニ歸シ通常ノ方法ニ從ヒテ之ヲ爲ス

第百三十八條　金錢ヲ以テ借賃ト爲シタルトキハ貸借人ハ合意シタル時期ニ之ヲ拂ヒ合意ナキトキハ毎月末ニ之ヲ拂フコトヲ要ス但地方ノ慣習之ニ異ナルトキハ此限ニ在ラス

果實ヲ以テ借賃ト爲シタルトキハ收穫後ニ非サレハ之ヲ要求スルコトヲ得ス

第百三十九條　貸借人ハ貸借ヲ拒ハス其他貸借ノ特別ナル項目又ハ條件ヲ履行セサルトキハ貸貸人ハ貸借人ニ對シテ其履行ヲ强要シ又ハ損害アルトキハ其賠償ヲ得テ貸貸借ノ解除ヲ請求スルコトヲ得

第百四十條　貸借人ハ貸借物ニ直接ニ賦課セラルル通常及ヒ非常ノ租稅其他ノ公課ヲ負擔セス若シ租稅法ニ依リテ貸借人ヨリ徵收スルコト有ルトキハ其借貸ヨリ之ヲ扣除シ又ハ貸貸人ヨリ貸借人ニ之ヲ償還ス但反對ノ合意アルトキハ此限ニ在ラス

然レトモ貸借人ノ築造シタル建物ニ賦課セラレ又ハ貸借不動產ニ於テ貸借人ノ營ム商業若クハ工業ニ賦課セラルル租稅其他ノ公課ハ貸借人之ヲ負擔ス

第百四十一條　貸借人ハ明示ト默示トヲ問ハス合意ヲ以テ定メタル用方ニ從フニ非サレハ貸借物ヲ使用スルコトヲ得ス其合意ナキトキハ契約ノ時ノ用方又ハ貸借物ノ性質ニ相應シテ毀損セサル用方ニ從フニ非サレハ之ヲ使用スルコトヲ得ス

第百四十二條　貸借人ハ貸借物ノ看守及ヒ保存ニ付キ用益者ト同一ノ義務ヲ負擔ス

第三者カ貸借物ニ侵奪又ハ作業ヲ爲ストキハ借貸人ハ第九十六條ニ記載シタル如ク用益者同一ノ責ニ任ス

第百四十三條　貸貸借ノ終ニ於テ貸借人カ貸借物ヲ返還セサルトキハ貸貸人ハ其選擇ヲ以テ對人訴權又ハ物上訴權ニテ之ヲ訴追スルコトヲ得

第百四十四條　貸貸人ハ貸貸借ノ終ニ於テ第百三十三條ニ依リテ貸借人ノ收去スルヲ得ヘキ建物及ヒ樹木ヲ先買スルコトヲ得此場合ニ於テハ第七十條ノ規定ヲ適用ス

第四款　貸借權ノ消滅

第百四十五條　貸借權ハ左ノ諸件ニ因リテ當然消滅ス

第一　貸借物ノ全部ノ滅失

第二　貸借物ノ全部ノ公用徵收

第三　貸貸人ニ對スル追奪又ハ貸貸物ニ存スル貸貸人ノ權利ノ取消但其追奪及ヒ取消ハ貸貸借契約以前ノ原因ニ由リ裁判所ニ於テ之ヲ宣告セシトキニ限ル

第四　明示若クハ默示ニテ定メタル期間ノ滿了又ハ要約シタル解除條件ノ成就

第五　初ヨリ期間ヲ定メサルトキハ解約申入ノ告知ノ後法律上ノ期間ノ滿了

右ノ外貸貸借ハ條件ノ不履行其他法律ニ定メタル原因ノ爲メ當事者ノ一方ノ請求ニ因リ裁判所ニテ宣告シタル取消ニ因リテ終了ス

第百四十六條　意外又ハ不可抗ノ原因ニ由リテ貸借物ノ一分ノ滅失セシトキハ貸借人ハ第百三十一條ニ記載シタル條件ニ從ヒテ貸貸借ノ解除ヲ要求シ又ハ貸貸借ヲ維持シテ借貸ノ減少ヲ要求スルコトヲ得

公用ノ爲メ貸借物ノ一分カ徵收セラレタルトキハ貸借人ハ常ニ借貸ノ減少ヲ要求スルコトヲ得

第百四十七條　期間ノ定アル貸貸借ノ終リシ後貸借人仍ホ收益シ貸貸人之ヲ知リテ故障ヲ爲ササルトキハ新貸貸借暗ニ成立シ前貸貸借ト同一ノ負擔及ヒ條件ニ從フ

然レトモ前貸貸借ヲ擔保シタル抵當ハ消滅シ保証人ハ義務ヲ免カル

新貸貸借ハ下ノ數條ニ記載シタル如ク解約申入ニ因リテ終了ス

第百四十八條　家具ノ附キタル建物ノ全部又ハ一分ノ貸貸借ニシテ其期間ヲ明示セス其借賃ヲ一年、一月又ハ一日ヲ以テ定メタルモノハ一年、一月又ハ一日ノ間貸貸借ヲ爲シタリト推定ス但前條ニ記載シタル默示ノ更新ヲ妨ケス

動産ノミヲ以テ目的ト為シタル貸賃借ニ付テモ亦同シ

第百四十九條　家具ノ附カサル建物ノ貸賃借ハ期間ヲ定メサルトキ又ハ之ヲ定メタルモ默示ノ更新アリタルトキハ何時ニテモ當事者ノ一方ノ解約申入ニ因リテ終了ス

解約申入ヨリ退却マテノ時間ハ左ノ如シ

第一　建物ノ全部ニ付テハ二个月但貸借人ノ造作ヲ附シタルトキハ三个月

第二　建物ノ一分ニ付テハ一个月但貸借人ノ造作ヲ附シタルトキハ二个月

第百五十條　家具ノ附キタル建物ノ貸賃借ニ付キ默示ノ更新アリタルトキハ解約申入ヨリ返却マテノ時間ハ左ノ如シ

第一　前貸賃借ノ期間ヲ三个月又ハ其以上ニ定メタルトキハ一个月

第二　三个月未滿ノ貸賃借ニ付テハ原期間ノ三分一

第三　日日ノ貸賃借ニ付テハ二十四時

右規定ハ默示ノ更新後ノ動産ノ貸賃借ニ付テモ亦之ヲ適用ス

貸賃セシ建物ニ備ヘタル動産又ハ用方ニ因ル不動産ト看做ス可キ動産ノ貸賃借ハ其建物ハ貸賃借ノ終了スルニ非サレハ終了セス

第百五十一條　土地ノ貸賃借ニシテ期間ヲ定メサルモノ又ハ期間ヲ定メタルモ默示ノ更新アリタルノハ耕地ニ付テハ主タル收穫季節ヨリ六个月前又不耕地其他收場、樹林ニ付テハ返却セシム可キ時期ヨリ一个年前ニ解約申入ヲ為スニ因リテ終了ス

第百五十二條　解約申入及ヒ返却ノ時期ニ關スル前數條ノ規定ハ其時期ニ付キ地方ノ慣習ナキトキニ非サレハ之ヲ適用セス

第百五十三條　如何ナル場合ニ於テモ貸借人ノ權利ノ存スル一切ノ收穫物ヲ收去スル前ニ貸賃借ノ終了セシトキハ貸賃人又ハ新貸借人ハ前貸借人ノ之ヲ收去スルニ委メルコトヲ要ス

又貸借人ハ土地ノ收穫物ヲ收去シタル都分ニ於テ貸借人ノ終了前ニ急要ノ作業ヲ為スコトヲ貸賃人又ハ新貸借人ニ許スコトヲ要ス但貸借人此カ為メ妨害ヲ受ク可キトキハ此限ニ在ラス

第百五十四條　貸賃人カ貸賃物ヲ讓渡サントシ又ハ自己ノ為メ若クハ他ノ特別ナル原因ノ為メ之ヲ取戻サントスルトキハ期間ノ滿了前ト雖モ貸賃借ヲ解除スルコトヲ得ル權能ヲ留保シタル場合又貸借人カ貸賃借ノ無用ト為ル可キ未定事故ヲ慮カリテ同一ノ權能ヲ留保シタル場合ニ於テハ前數條ニ定メタル時期ニ於テ各自豫メ解約申入ヲ為スコトヲ要ス

第二節　永借權及ヒ地上權

第一款　永借權

第百五十五條　永貸借トハ期間三十个年ヲ超ユル不動産ノ貸賃借ヲ謂フ

永貸借ハ五十个年ヲ超ユルコトヲ得ス此期間ヲ超ユル貸借ハ之ヲ五十个年ニ短縮ス

永貸借ハ常ニ之ヲ更新スルコトヲ得然レトモ其更新ノ時ヨリ五十个年ヲ超ユルコトヲ得ス

當事者カ永貸借契約ナルコトヲ明示シ其期間ヲ定メサルトキハ其貸借ハ四十个年ニシテ終了ス

本法實施以前ニ期間ヲ定メテ為シタル不動産ノ貸賃借ハ五十个年ヲ超ユルモノト雖モ其全期間有效ナリ

本法實施以前ニ期間ヲ定メスシテ為シタル荒蕪地又ハ未耕地ノ貸賃借及ヒ永小作ト稱スル貸賃借ノ終了ノ時期及ヒ條件ハ日後特別法ヲ以テ之ヲ規定ス

第百五十六條　永貸借ハ永貸借契約ヲ以テスルニ非サレハ之ヲ設定スルコトヲ得ス其證贈又ハ豫約ニ

付テハ第百十七條ノ規定ニ從フ

第百五十七條　當事者相互ノ權利及ヒ義務ハ永貸借ノ設定契約ヲ以テ之ヲ定ム
特別ノ合意ナキトキハ下ノ規定ニ從フ外通常貸借ノ規則ニ從フ

第百五十八條　永借人ハ永借地ノ形質ヲ變スルコトヲ得但永久ノ毀損ヲ生セシメサルコトヲ要ス
永借人ハ常ニ沼澤ヲ乾涸スルコトヲ得又永借地ノ作業ニ益ス可キトキハ其土地ヲ通過スル水流ヲ變轉スルコトヲ得

第百五十九條　永借人ハ原野ヲ開墾スルコトヲ得然レトモ所有者ノ承諾アルニ非サレハ定期採伐ニ供シタル小木林ノ樹木ヲ掘取ルコトヲ得ス又定期採伐ニ供セサル樹木ニシテ既ニ二十个年ヲ過キ且其成長ノ年期カ貸借ノ期間ヲ超ユ可キモノヲ採伐スルコトヲ得ス

第百六十條　永借人ハ如何ナル場合ニ於テモ所有者ノ承諾アルニ非サレハ主タル建物ヲ取除クコトヲ得ス從タル建物ト雖モ其存立ノ時期カ貸借ノ期間ヲ超ユ可キモノハ亦同シ

第百六十一條　前二條ニ從ヒ永借人カ建物又ハ樹木ヲ取除キタルトキハ其物料及ヒ材木ハ所有者ニ屬ス

第百六十二條　永借人ハ地底ニ鑛物在ルトキ開坑ノ特許ヲ得タル者ヨリ所有者ニ拂ヘル價金ニ付キ何等ノ權利ヲモ有セス然レトモ此特許ヲ得タル者ノ地上ニ加ヘタル損害ノ爲メ賠償ヲ受クル權利ヲ有ス

第百六十三條　永借地ニ既ニ採掘ヲ始メ且特別法ニ從フヲ要セサル石類、石灰類其他ノ物ノ石坑アルトキハ永借人ハ其收益ヲ權續ス
右石坑ヲ未タ採掘セス又ハ其採掘ヲ廢止シタルトキハ永借人ハ永借地ノ改良ノ爲メ石其他ノ物料ヲ

採取スルコトヲ得

第百六十四條　永貸人ハ永貸借契約ノ當時ノ現狀ニテ永貸物ヲ引渡スモノトス
永貸人ハ貸借ノ期間大小修繕ヲ負擔セス

第百六十五條　意外ノ事又ハ不可抗力ニ因リテ貸借ノ期間ニ起リタル毀損ハ借賃減少ノ理由ト爲ラス
但第百六十九條ニ定メタル解除ノ權利ヲ妨ケス

第百六十六條　永貸人ニ對シ永借物ニ賦課セラルル通常又ハ非常ノ租稅其他ノ公課ハ永借人之ヲ永貸人ニ辨濟ス

第百六十七條　數人カ一箇ノ契約ヲ以テ一箇ノ不動産ヲ永借シタルトキハ借賃ヲ拂フ義務ハ各永借人又ハ其相續人ニ在テハ連帶ニシテ且不可分ナリ

第百六十八條　永借人カ第百六十六條ノ辨濟ヲ爲サス又ハ三个年間引續キ借賃ノ拂入ヲ爲ササルトキハ永貸借ハ永貸借ノ解除ヲ請求スルコトヲ得
又永借人カ他ノ債權者ノ厳追ニ因リテ破産又ハ無資力ノ宣告ヲ受ケタルトキハ永貸人ハ辨濟ノ如何ナル不足ニ拘ハラス解除ヲ請求スルコトヲ得但其債權者カ借賃ヲ延滯ナク拂入ルルコトヲ擔保スルトキハ此限ニ在ラス

第百六十九條　永借人ハ意外ノ事又ハ不可抗力ニ因リテ三个年間引續キ全ク不動産ノ收益ヲ得ル能ハス又ハ其一分ノ毀損ニ因リテ將來ノ收益カ借賃ノ年額ヲ超ユ可キ見込ナキトキハ永貸借ノ解除ヲ請求スルコトヲ得

第百七十條　永借人カ永借地ニ加ヘタル改良及ヒ栽植シタル樹木ハ永貸借ノ滿期又ハ其解除ニ當リ賠償ナクシテ之ヲ殘置クモノトス

建物ニ付テハ通常賃貸借ニ關スル第百四十四條ノ規定ヲ適用ス

第二款　地上權

第百七十一條　地上權ハ他人ノ所有ニ屬スル土地ノ上ニ於テ建物又ハ竹木ヲ完全ノ所有權ヲ以テ占有スル權利ヲ謂フ

第百七十二條　地上權設定ノ時其土地ニ建物又ハ樹木ノ既ニ存スルト否トヲ問ハス設定行爲ノ基本ヽ方式及ヒ公示ハ不動産讓渡ノ一般ノ規則ニ從フ

第百七十三條　地上權者カ讓受ケタル建物又ハ樹木ノ存スル土地ノ面積ニ應シテ土地ノ所有者ニ定期ノ納額ヲ拂フ可キトキハ其權利及ヒ義務ハ其拂フ可キ納額ニ付テ通常賃貸借ニ關スル規則ニ從ヒ其繼續スル期間ニ付テハ第百七十六條ノ規定ニ從フ

右納額ニ付テハ新ニ建物ヲ築造シ又ハ樹木ヲ栽植スル爲メ土地ヲ貸借シタルトキモ亦同シ

第百七十四條　既ニ存セル建物又ハ樹木ニ於ケル地上權ノ設定ニ際シ從トシテ之ニ屬ス可キ周邊ノ地面ヲ明示セサルトキハ左ニ掲クル規定ニ從フ

建物ニ付テハ地上權者ハ其建坪ノ全面積ニ同シキ地面ヲ得ルノ權利ヲ有ス此配當ハ鑑定人ヲシテ土地及ヒ建物ノ周圍ノ形狀ト建物ノ各部ノ用方トヲ斟酌セシメテ之ヲ爲ス

樹木ニ付テハ地上權者ハ其最長大ナル外部ノ枝ノ蔭蔽ス可キ地面ヲ得ル權利ヲ有ス

第百七十五條　地上權設定後ニ築造シタル建物又ハ栽植シタル樹木ニ付テハ地上權者ハ此種ノ作業ノ爲メ法律ヲ以テ相隣者ノ爲メニ規定シタル距離及ヒ條件ヲ遵守ス可シ縱令其隣人カ地上權ノ設定者ナルモ亦同シ

又地上權者ハ働方又ハ受方ニテ其他ノ地役ノ規則ニ從フ

第百七十六條　既ニ存セル建物又ハ地上權者ノ築造ス可キ建物ニ付キ設定權原ヲ以テ地上權ノ權續期間ヲ定メサルトキハ此建物存立ノ時期間其權利ヲ設定シタルモノト推定ス但其大修繕ハ土地ノ所有者ノ承諾アルニ非サレハ之ヲ爲スコトヲ得ス

既ニ存セル樹木又ハ地上權者ノ栽植ス可キ樹木ニ付テハ其地上權ハ樹木ヲ採伐スル時期マテ又ハ其有用ナル最長大ニ至ル可キ時期マテ之ヲ設定シタリト推定ス

此他地上權ハ通常賃借權ト同一ノ原因ニ由リテ消滅ス但所有者ノ爲ス解約申入ハ此限ニ在ラス

他上權者ハ一个年前ニ豫告ヲ爲シ又ハ未タ拂込限ノ至ラサル納額ノ一个年分ヲ拂フトキハ常ニ解約申入ヲ爲スコトヲ得

第百七十七條　建物又ハ樹木ノ契約前ヨリ存スルト否トヲ問ハス地上權者之ヲ賣ラントスルトキハ土地ノ所有者ニ先買權ヲ行フヤ否ヤヲ述フ可キノ備告ヲ一个月前ニ爲スコトヲ要ス

右先買權ニ付テハ此他尙ホ第七十條ノ規定ニ從フ

第百七十八條　本法質施ノ時ニ存スル地上權ハ左ノ規定ニ從フ

期限ヲ立テテ設定シタル地上權ハ其期限ニ至リ當然消滅ス

期限ヲ立テスシテ設定シタル地上權ハ第百七十六條ニ從ヒテ建物存立ノ時期間繼續ス

右兩樣ノ地上權ハ共ニ前條ニ規定シタル先買權ニ服ス

第四章　占有

第一節　占有ノ種類及ヒ占有スルコトヲ得ヘキ物

第百七十九條　占有ニ法定、自然及ヒ容假ノ三種アリ

第百八十條　法定ノ占有トハ占有者カ自己ノ爲メニ有スルノ意思ヲ以テスル有體物ノ所持又ハ權利ノ

行使ヲ謂フ

權利ハ物權ト人權トヲ問ハス法定ノ占有ヲ受クルコトヲ得其種權ノ効力ハ場合ニ從ヒ下ニ之ヲ定ム

第百八十一條　法定ノ占有カ占有ノ權利ヲ授付ス可キ性質アル權利行爲ニ基クトキハ讓渡人ニ授付ノ分限ナキヲ以テ其効力ヲ生スル能ハサルトキト雖モ其占有ハ正權原ノ占有ナリ

第百八十二條　正權原ノ占有ハ權原創設ノ當時ニ於テ占有者カ其權原ノ瑕疵ヲ知ラサリシトキハ之ヲ善意ノ占有トシ此ニ反スルトキハ惡意ノ占有トス

法律ノ錯誤ハ善意ニ付テノ利益ヲ受クル爲メニ之ヲ申立ツルコトヲ許サス但第百九十四條ノ規定ヲ妨ケス

善意タルコトハ權原ノ瑕疵ヲ覺知シタルトキハ止ム

第百八十三條　强暴又ハ隱密ノ占有ハ之ヲ瑕疵ノ占有トス

占有カ暴行又ハ脅迫ニ因リテ成リ又ハ保持セラレタルトキハ其占有ハ强暴ノ占有ナリ

占有カ公然且外見ノ所爲ニ因リテ當事者ニ容易ニ見ハレサルトキハ其占有ハ隱密ノ占有ナリ

右占有カ平穩ト爲リ又ハ公然ト爲リタルトキハ其瑕疵ハ消滅ス

第百八十四條　自然ノ占有トハ占有者カ自已ノ權利ヲ主張スル意ナクシテ有體物ヲ所持スルヲ謂フ

公有物ニ付テハ各人ハ自然ノ占有ノ外占有ヲ爲スコトヲ得ス

第百八十五條　容假ノ占有トハ占有者カ他人ノ爲メニ其他人ノ名ヲ以テスル物ノ所持又ハ權利ノ行使ヲ謂フ

容假ノ占有者カ自已ノ爲メニ占有ヲ始メタルトキハ其占有ノ容假ハ止ミテ法定ト爲ル

然レトモ占有ノ權原ノ性質ヨリ生スル容假ハ左ニ掲クル場合ニ非サレハ止マス

第一　占有ヲ爲サシメタル人ニ告知シタル裁判上又ハ裁判外ノ行爲カ其人ノ權利ニ對シ明確ノ異議ヲ含メルトキ

第二　占有ヲ爲サシメタル人又ハ第三者ニ出テタル權原ノ轉換ニシテ其占有ニ新原因ヲ付スルトキ

第百八十六條　占有者ハ常ニ自已ノ爲メニ占有スルモノトノ推定ヲ受ク但占有ノ權原又ハ事情ニ因リテ容假ノ證據アルトキハ此限ニ在ラス

第百八十七條　正權原ノ證據アル占有ハ之ヲ善意ノ占有ナリト推定ス但反對ノ證據アルトキハ此限ニ在ラス

第百八十八條　强暴ノ證據ナキ占有ハ之ヲ平穩ノ占有ト推定ス

占有ノ公然ハ之ヲ推定セス必ス之ヲ證スルコトヲ要ス

前條二箇ノ時期ニ於テ證據アリタル占有ハ中間繼續シタリトノ推定ヲ受ク但其占有ノ中斷又ハ停止ノ證據アルトキハ此限ニ在ラス

第二節　占有ノ取得

第百八十九條　法定ノ占有ハ或ル物ノ所有權又ハ或ル權利ヲ自已ノ有ト爲ス意思ヲ以テ其物ヲ握取スル所爲ニ因リ又ハ其權利ヲ實行スルニ因リテ之ヲ取得ス

第百九十條　物ノ所持又ハ權利ノ行使ハ之ヲ第三者ノ所爲ニ委ヌルコトヲ得但占有スルノ意思ハ占有ニ付キ利益ヲ得ント主張スル其人ニ存スルコトヲ要ス

然レトモ無能力者及ヒ法人ハ其代人ノ意思及ヒ所爲ニ因リテ占有ノ利益ヲ受クルコトヲ得

第百九十一條　物ノ握取ハ簡易ノ引渡又ハ占有ノ改定ヲ以テ之ニ代フルコトヲ得

初メ容假ノ權原ヲ以テ占有シタル物ヲ其占有者ニ爾後自己ノ物ト看做スコトヲ得セシムル新權原ニ依リテ之ヲ保存セシムルトキハ簡易ノ引渡アリタリトス

初メ物ヲ自己ニ屬ストシテ占有シタル者カ爾後他人ノ名ヲ以テ其他人ノ爲メ占有ヲ繼續スルコトヲ承諾シタルトキハ占有ノ改定アリタリトス

權利ノ行使ニ付テハ初メ他人ノ名ヲ以テ行使セル者カ爾後自己ノ爲メニ行使スルニモ亦當事者ノ意思ノミニテ足ル又初メ自己ノ爲メ行使セル者カ爾後他人ノ爲メニ行使スルニ付テモ亦同シ

第百九十二條　占有ハ前主ニ於テ存シタル占有ノ性質及ヒ瑕疵ヲ以テ相續人其他包括權原ノ承繼人ニ移轉ス

物又ハ權利ノ特定權原ノ取得者ハ其利益ニ從ヒ或ハ自己ノ占有ノミヲ申立テ或ハ自己ノ占有ニ繼續人ノ占有ヲ併セテ申立ツルコトヲ得

第三節　占有ノ効力

第百九十三條　法定ノ占有者ハ反對ノ證據アルニ非サレハ其行使セル權利ヲ適法ニ有スルモノトノ推定ヲ受ク其權利ニ關スル本權ノ訴ニ付テハ常ニ被告タルモノトス

第百九十四條　正權原且善意ノ占有者ハ天然ノ果實及ヒ產出物ニ付テハ自身又ハ代人ヲ以テ土地ヨリ離シタル時ニ於テ之ヲ取得シ法定ノ果實ニ付テハ用益者ニ關シ規定シタル如ク日割ヲ以テ之ヲ取得ス

占有者カ正權原ヲ有セスシテ事實又ハ法律ノ錯誤ニ因リテ惡意ナキトキハ其消費シタル果實ニ付キ利益ヲ得サリシ證據ヲ舉クルニ於テハ之ヲ返還スル責ニ任セス

占有者カ其占有セシ物又ハ權利ノ自己ニ屬セサルコトヲ覺知シタルトキハ爾來ニ向ヒテ果實返還ノ責ヲ生ス又訴訟ニ於テ確定ニ敗訴シタルトキハ其出訴ノ時ヨリ此責ヲ生ス

第百九十五條　惡意ノ占有者ハ同復ノ請求ヲ受ケタル物又ハ權利ハ勿論現物ニ仍ホ占有スル果實及ヒ產出物ヲ返還シ且其既ニ消費シ又ハ過失ニ因リテ損傷シ又ハ收取ヲ怠リタル果實及ヒ產出物ノ代價ヲ償還スル責ニ任ス

同復者ハ果實ノ通常ノ負擔タル費用ヲ占有者ニ償還スルコトヲ要ス

强暴又ハ隱密ノ占有者ハ其權原ノ正當ナルコトヲ自ラ信セシトキト雖モ果實ニ關シテハ常ニ之ヲ惡意ノ占有者ト看做ス

第百九十六條　占有者ハ善意ナルト惡意ナルトヲ問ハス物ノ保存ノ爲メ又ハ物ノ增價ノ爲メ費シタル金額ヲ同復者ヨリ償還セシムルコトヲ得

右敎レノ占有者モ其分限ノミニテハ費途ノ爲メ費シタル金額ノ償還ヲ求ムルコトヲ得ス

第百九十七條　前二條ノ場合ニ於テ善意ノ占有者ハ同復者ノ言渡サレタル保存又ハ增價ノ爲ノ費メ用ノ全償ヲ得ルマテ物ノ上ニ留置權ヲ有ス

惡意ノ占有者ハ保存ノミヲ費用ニ付キ留置權ヲ有ス

第百九十八條　物カ毀損ヲ受ケ又ハ價格ヲ減シ其責ヲ占有者ニ歸ス可キトキハ惡意ノ占有者ニ在テハ如何ナル場合ニ於テモ所有者ニ賠償ヲ爲シ善意ノ占有者ニ在テハ其毀損又ハ減價ニ因リ已レヲ利シタル場合ニ於テ其利シタル限度ニ應シ賠償ヲ爲スコトヲ要ス

第百九十九條　占有者ハ占有ヲ保持シ又ハ同收スル爲メ下ノ區別ニ從ヒテ占有ニ關スル訴權ヲ有ス

占有訴權ハ保持訴權、新工告發訴權、急害告發訴權及ヒ同收訴權ノ四種ナリ

第二百條　保持訴權ハ不動産ト包括動産ト特定動産トヲ問ハス其占有ニ關シ他人ヨリ反對ノ主張ヲ含メル事實上又ハ權利上ノ妨害ヲ受クル占有者ニ屬ス

此訴權ハ妨害ヲ止マシメ又ハ賠償ヲ得ルヲ以テ其目的トス

第二百一條　新工告發訴權ハ占有ノ妨害ト爲ル可キ隣地ノ新工事ヲ禁止セシメ又ハ變更セシムル爲メ不動産ノ占有者ニ屬ス

第二百二條　急害告發訴權ハ或ハ建物樹木其他ノ物ノ傾倒ニ因リ或ハ土手、水溜、水圩ノ破潰ニ因リ或ハ火、燃燒物、爆發物ノ必要ノ豫防ヲ爲ササル使用ニ因リテ隣地ヨリ生スル損害ヲ慮ル可キ至當ノ事由アル不動産ノ占有者ニ屬ス

此訴權ハ右危險ニ對スル豫防ノ處分ヲ命令セシメ又ハ未定ノ損害ニ對スル賠償ノ保證人ヲ立テシムルヲ以テ其目的トス

第二百三條　保持訴權及ヒ新工告發訴權ハ平穩且公然ナル占有ノミニ屬ス但不動産又ハ包括動産ニ付テハ其占有ノ滿一个年以來繼續シタルコトヲ要ス

第二百四條　同收訴權ハ暴行、脅迫又ハ詐術ヲ以テ不動産若クハ包括動産若クハ特定動産ノ全部又ハ一分ノ占有ヲ奪ハレタル占有者ニ屬ス但其占有カ被告ニ對シテ此等ノ取扱ノ一ヲモ權ヒサルコトヲ要ス

此訴權ハ侵奪ノ占有ヲ特定權原ニテ承繼シタル者ニ對シテ之ヲ行フコトヲ得ス但其者カ侵奪ノ不法ノ所爲ニ關與シタルトキハ此限ニ在ラス

第二百五條　同收訴權及ヒ急害告發訴權ハ法定ノ占有者及ヒ容假ノ占有者ニ屬ス縱令其占有カ未タ一个年ニ滿タサルモ亦同シ

第二百六條　保持及ヒ同收ノ訴ハ妨害又ハ侵奪ヲ受ケタルヨリ一个年內ニ非サレハ之ヲ受理セス

新工告發ノ訴ハ其工事ノ竣成セサル間ハ之ヲ受理ス但其工事ニ付キ占有者カ妨害ヲ受ケタルトキハ其工事竣成ノ前後ニ拘ハラス妨害ヨリ一个年內ニ於テ保持訴權ノミヲ行フコトヲ得

急害告發ノ訴ハ危險ノ存スル間ハ之ヲ受理ス

第二百七條　占有ノ訴ハ本權ノ訴ト併行スルコトヲ得ス

判事ハ當事者ノ權利ノ基本ヨリ出ヲタル理由ニシテ其權利ヲ豫決ス可キモノニ基キテ占有ノ訴ヲ裁判スルコトヲ得ス

又判事ハ本權ノ訴カ既ニ審理中ニ在ルモ占有ノ訴ノ判決ヲ猶豫スルコトヲ得ス

第二百八條　占有ノ訴ヲ起シタル後當事者ノ一方カ其裁判所又ハ他ノ裁判所ニ本權ノ訴ヲ起シタルトキハ占有ノ訴ノ確定判決ニ至ルマテ本權ノ訴訟手續ヲ中止スルコトヲ要ス

本權ノ訴ノ被告カ第二百十條ニ定メタル如ク其訴訟中ニ占有ノ訴ノ原告ト爲リタルトキモ亦同シ

第二百九條　本權ノ訴ノ原告ハ訴ヲ取下クルト雖モ其訴以前ノ事實ノ爲メニ更ニ占有ノ訴ヲ起スコトヲ得ス然レトモ既ニ起シタル占有ノ訴ニ付テハ原告タルト被告タルトヲ問ハス之ヲ繼續スルコトヲ得

本權ノ訴ニ於テ確定ニ敗訴シタル者ハ占有ノ訴ヲ起スコトヲ得ス

第二百十條　本權又ハ占有ノ訴ノ被告ハ其訴訟中反訴ニテ占有ノ訴ノ原告ト爲ルコトヲ得

第二百十一條　判事ハ占有ノ訴ヲ正當ナリト認ムルトキハ場合ニ從ヒ妨害ノ絕止、侵奪物ノ返還、新工事ノ廢止若クハ變更又ハ急害ノ豫防處分ヲ命令ス可ク若シ損害アラハ同時ニ其賠償ヲ言渡ス可シ

又判事ハ急害告發ノ訴ニ付テハ其將來未定ノ損害額ヲ斷定シ之ニ對スル保證人ヲ立ツ可キコトヲ被

告ニ命令スルコトヲ得

第二百十二條　占有ノ訴ニ於テ敗訴シタル原告ハ仍ホ本權ノ訴ヲ起スコトヲ得

占有ノ訴ニ於テ敗訴シタル被告モ亦仍ホ本權ノ訴ヲ起スコトヲ得但既ニ受ケタル賃渡ヲ履行セシ後ニ限ル若シ賃渡ノ金額カ未定ナルトキハ其賃渡ヲ履行スルニ相當ナル金額ヲ裁判所審記錄ニ供託スヘシ

第四節　占有ノ喪失

第二百十三條　占有ハ左ノ諸件ニ因リテ喪失ス

第一　自己又ハ他人ノ爲メニ占有スル意思ノ絶止

第二　物ノ所持又ハ權利ノ行使ノ任意ノ拋棄又ハ法律上强要セラレタル拋棄

第三　不法ト否トヲ問ハス他人ノ占有ノ握取但其占有カ保持訴權又ハ回收訴權ノ行使ヲ受クルコト無クシテ一个年ヨリ長ク繼續シタルトキニ限ル

第四　占有ノ目的タル物ノ全部ノ毀滅又ハ其權利ノ消滅

第五章　地役

總則

第二百十四條　地役トハ或ル不動産ノ便益ノ爲メ他ノ所有者ニ屬スル不動産ノ上ニ設ケタル負擔ヲ謂フ

地役ハ法律又ハ人爲ヲ以テ之ヲ設定ス

第一節　法律ヲ以テ設定シタル地役

第一款　隣地ノ立入又ハ通行ノ權利

第二百十五條　凡ソ所有者ハ土地ノ分界ニ於テ又ハ自己ノ土地ニ工事ヲ爲シ得ル餘地ナキ距離ニ於テ牆壁若クハ建物ヲ築造シ又ハ修繕スル爲メ隣地ニ立入ルヲ求ムルコトヲ得

第二百十六條　築造又ハ修繕ノ工事ハ收穫ヲ害ス可キ季節ニ於テモ隣地ノ所有者又ハ占有者ノ一時不在ノ場合ニ於テモ之ヲ爲スコトヲ得ス但急要又ハ極メテ必要ノ場合ハ此限ニ在ラス

如何ナル場合ニ於テモ隣人ノ承諾アルニ非サレハ右工事ノ爲メ其住家ニ立入ルコトヲ得ス縱令其修繕ヲ要スル建物カ隣人ノ住家ニ連接スルモ亦同シ

第二百十七條　立入ヲ許諾セル隣人ハ工事ノ性質及ヒ時期ヲ酌量シテ其受ケタル妨害ニ相當スル償金ヲ求ムルコトヲ得

第二百十八條　或ル土地カ他ノ土地ニ圍繞セラレテ袋地ト爲リ公路ニ通スル能ハサルトキハ圍繞地ハ公路ニ至ル通路其袋地ニ供スルコトヲ要ス但下ニ記載シタル如ク二樑ノ償金ヲ拂ハシムルコトヲ得

土地カ堀割若クハ河海ニ由ルニ非サレハ他ニ通スル能ハサルトキ又ハ崖岸アリテ公路ト著シキ高低ヲ爲ストキハ之ヲ袋地ト看做スコトヲ得

第二百十九條　袋地ノ利用又ハ其住居人ノ需用ノ爲メ定期又ハ不斷ニ車輛ヲ用ユルコトヲ要スルトキハ通路ノ幅ハ其用ニ相應スルコトヲ要ス

通行ノ必用又ハ其方法及ヒ條件ニ付キ當事者ノ議協ハサルトキハ裁判所ハ成ル可ク袋地ノ需用及ヒ通行ノ便利ト承役地ノ損害トヲ斟酌スルコトヲ要ス

第二百二十條　通路ノ開設及ヒ保持ノ工事ハ袋地ノ負擔ニ屬ス

承役地ノ建物又ハ樹木ヲ取除キ又ハ變更セシムルノ必要アルトキハ一同限ノ償金ヲ其所有者ニ拂ヒ